

T-ACT

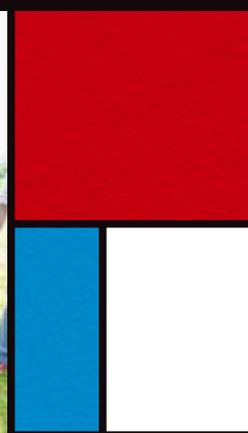


筑波大学
University of Tsukuba

つくばアクションプロジェクト

活動報告書

2012
APRIL



TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

目 次 -T-ACT 活動報告書-

はしがき

3R+1EcoCycle10-11 (10019A)	1
みんなで日本語ディベートをしませんか (10021A)	3
Table For Two in 筑波大学 ～ヘルシーに社会貢献！？～ (10024A)	5
つくばサイクルプロジェクト (10026A)	7
筑波にマイカップ自販機を！ (10027A)	10
STC (Student Teacher Communication)	12
～探れ！！身近な先生の仕事術～ (10028A)	
見せないメディアと魅せるニューメディア (10030A)	14
サワッディー T-ACT (10037A).....	17
学び場さくら塾 3rd season (10041A).....	19
留学生と日本人学生の共同情報誌づくり 第四弾 Team8 Season 4 (10043A)	21
自分の生き方、はたらき方を考えるワークショップ (10045A)	25
あなたの小説が読みたい！.....	27
－第四回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集－ (10047A)	
就活 cafe (10048A)	30
お祭り好きなら見逃すな！一緒に「よっちょれ」を踊ろう！ (10050A)	32
突撃！隣の学校。～べんきょうじゃない、かわりありますか？～ (10051A)	35
「それでも運命にイエスという。」上映会イベント (10052A)	37
Tsukuba-Lightning-Talk (10053A)	39
学びをサポートします！〔ポータルサイト〕	41
～筑波大学生が関わる企画・学生対象企画を紹介します～ (10054A)	
ビジネスセミナー ～聖書に隠された成功法則～ (途中で取り下げ) (10055A).....	44
Learning For All ～新しい教育×就職×社会のカタチ～ (10056A)	46
カフェ libra ～図書館・カフェ・書店を運営しよう！～ (11001A)	51
筑波大学グッズを作ろう！ TGP Tsukuba-Goods-Project (11002A).....	53
『つくば丼』プロデュース計画 【出直し第1弾】 (11004P).....	55
沖縄空手を体験してみよう！ (11005P)	60
図書館を復旧させよう (11006P)	62
学び場さくら塾 4th season (11007A).....	64
working group for 被災地就活生応援計画 (11008A)	67
チャリティセミナー：大学時代に知っておきたかったこと (11009A)	69

茨城県復興チャリティーフットサル大会 (11010A)	72
世界一大きな授業「女の子と女性の教育」(11011A).....	75
院生プレゼンバトル (11013A)	77
アマクボ・カスガ平和にし隊 (前半) (11014A).....	82
Tsukuba for 3.11 (11016A).....	84
「JAPAN IS SAFE !!」プロジェクト (11017A)	87
Wall Art Festival in India 報告会	89
～アートので、持続可能な新しい支援の形～ (11018A)	
筑波にマイボトル自販機を！ (11020A)	92
Table For Two in 筑波大学 ～学生に健康を、アフリカに給食を～ (11021A)	95
チャリティセミナー第2弾：MVP 営業マンが語る！	98
就活で自分自身を売り込み内定を獲得する方法 (11022A)	
途上国の暮らしにふれてみよう！ (11023A)	101
子どもたちとオセロゲームを楽しむ地域社会活動に参加しませんか！？ (11024A)	103
学生プロレス興行 (11028A)	109
ヤシマ作戦 in Tsukuba – SAVE POWER 25 – (11029A).....	111
つくば理学カンファレンス (11030A)	115
筑波大学 Männerchor ～男声合唱への誘い (11031A).....	118
つくばサイクルプロジェクト (Tsuku-Bike) (11033A)	121
「がんばっぺふくしま」第1回応援バスツアー (11035P).....	123
子ども向けサイエンスワークショップの作り方 (11036P)	127
「僕らの夏休み project」に参加しよう！ (11039A)	129
The Sounds on Silence –ささやきの聞こえるライブ– (11040A).....	132
IMAGINE THE GATHERING (11042A)	136
学び場さくら塾 5th season (11046A).....	138
学食イベント～10月のつくばの『三食』は「世界食糧デー」月間！～ (11047A)	140
スタンドアップ2011 in つくば (11048A)	143
つくばりんりんロードを走ろう！ (11055P)	146

編集後記

はしがき

「つくばアクションプロジェクト」(T-ACT)の『活動報告書(平成23年度)』をお届けします。本プロジェクトは、平成20年度に「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に採択された筑波大学の取組みです。学生の自主性と社会性の育成を図るために、学生の主体的で多様な活動を大規模に創出させることを目標としています。

本プロジェクトがスタートしてから4年が経ちました。平成23年度末で学生支援GPの補助事業期間が終了となりますが、来年度からは筑波大学における人間力育成支援事業として本プロジェクトが発展・継続することになりました。まずは、プロジェクトの立ち上げや運営についてこれまでご指導・ご尽力いただきありがとうございました学内外の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

T-ACTにおいて大学公認の活動として承認された企画は、この4年間で200件近くにのぼりました。本報告書には、昨年度までの『活動報告書』に掲載された企画と現在実施中の企画を除き、54件の企画とその活動報告が掲載されています。

本年度も文字通り多種多様な活動が企画、実施されました。その中で目に付くのは、やはり大震災の影響です。震災のために、残念ながら、実際のイベントを中止にせざるを得なかった企画がいくつかありました。一方で、ボランティア活動や復興支援の活動が矢継ぎ早に企画され、プランナー、オーガナイザー、パーティシパントまで含めると、かなりの数の学生がT-ACTを通して震災関連のボランティアに参加したことが分かります。

4年目となり、もう1つ目に付くのは、「第四弾～」や「～4th season」など繰り返しの企画が存在することです。T-ACTは「従来の課外活動とは異なって、そのつどメンバーを集めて短期的に行う」ことを特徴としていますが、一回だけで終わらせたくない活動は、再度企画申請を行いメンバーを集め直して、活動を実施することになります。そして、その活動を恒常的に続けたいという思いが出てきた場合には、大学に課外活動団体として登録してもらって、活動を継続してもらうことが期待されています。そして今年度、そのようにして課外活動団体申請を行い、T-ACTからサークルに移行したグループが実際にいくつか出ました。T-ACTのひとつの成果がこのような形でも出始めています。

先日のT-ACT交流会で、あるプランナーの学生さんが「最初、オーガナイザーで企画に参加したのだけれど、卒業までになんとか自分の企画を創ってみたかった。それが実現して満足です。」と語ってくれました。T-ACTの運営サイドとしてたいへんうれしい話でした。また、学群生だけでなく、大学院生のプランナーが増えてきているのもうれしい傾向です。T-ACTがこの4年間で筑波大学の中に根をおろすことができたのであれば、これ以上の喜びはありません。

本プロジェクトは、平成24年度からは学内事業として、ボランティア関連の機能を強化するなどさらなる充実を図りながら、展開していくこととなります。皆様のこれまで以上のご支援とご助力をお願い申し上げます。

平成24年3月

つくばアクションプロジェクト運営委員会

副委員長 加賀 信広

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 3R+1EcoCycle10-11 (10019A)

T-ACT プランナー 茅野 美智子 (情報学群知識情報・図書館学類)

活動内容

昨年度末から今年度の初めにかけて実施された 3R+1EcoCycle09-10 の活動を引き継ぐものです。

例年、卒業や転居のシーズンには学生宿舎や大学の周辺で大量の家具や家電が廃棄されており、その中にはまだまだ使用できるものも多く含まれています。

そこで、卒業生や宿舎から退去する学生などからまだ利用可能だが不要となった家具や家電などを引き取り、清掃や点検をした上で新入生に提供することで、本学に循環型社会を構築するための第一歩とします。

活動期間

平成 22 年 11 月 1 日～平成 23 年 4 月 30 日

活動計画

平成 22 年 12 月～1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・取り扱う品目の検討 ・品物回収のスケジュールを組む ・ポスター、ピラ、学内広報紙、電光掲示板、twitter などを用い、学生や教職員の方々に不要な品物の提供を呼びかける。 ・品物の保管 / 清掃をするためのスペースを探す。昨年度は追越 16 号棟 1F モデルルームを使用させていただいた。今年度も十分なスペースを借りられるよう交渉する。
2 月～3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・宿舎共用棟への持ち込み、または個人宅へトラックで訪問し、品物を収集する。 ・順次清掃や点検を行い、Web 上で抽選を行う。
4 月	<p>宿舎入居日 各宿舎に拠点を設置し、新入生に品物を引き渡す。</p>

備考欄

主に全代会及び環境サークル「エコレンジャー」の有志、合計約 20 名が参加をしています。トラックレンタル費などの予算についてはエコシティ推進グループから出していただけそうなので、今後学生生活課の土子昇様と相談します。

T-ACT オーガナイザー

伊川 景（応用理工学類）
 安富 陽子（応用理工学類）
 兒島 正典（工学システム学類）
 鈴木 聡史（工学システム学類）
 栗田 招子（生物資源学類）
 檜垣 和司（人文学類）
 多久 孝一郎（人文学類）
 高橋 宏幸
 庄司 茜
 大平 健二
 加藤 茉文
 田中 恭平
 荻原 彰
 前田 真衣
 筒井 文也
 山下 華緒里

T-ACT パートナー

土子 昇（学生部学生生活課）

活動報告

活動成果

【活動内容】

活動期間中 不定期（平均週に1回程度）ミーティング

10月14・18・30日 メンバー募集の説明会

2月12日（土）

3月11日（金）、12日（土）、16日（水）、17日（木）、20日（日）、21日（月）、22日（火）、26日（土）、27日（日）、28日（月）

卒業生さんなどから家具・家電を預かる回収日

4月4・5・9日 新入生への家具・家電受け渡し

・目標達成度（その根拠も述べる）

震災により大幅に予定が狂ったが、新入生への受け渡しはスムーズにできた。回収点数が少なくなった。来年度に向けての準備ができなかった。

総合して70点

・得られた成果

人脈が広がった。

点の家具・家電を新入生に引き渡すことができた。

今後の課題

- ・年間通しての活動はT-ACTの本質ではない。
- ・地震という突発的トラブル
- ・広報の難しさ
- ・メンバー集め

経験者からのメッセージ

仲間は大事です。

運営者側から見たパーティシパントの変化

初対面の人同士が協力できた。

T-ACT に関する感想

ポスター掲示の制限をよく読んでいなくて申し訳ありませんでした。

印刷・掲示許可・電光掲示板で大変お世話になりました。



エコサイクルとは？

エコサイクルとは、学生の有志が集まり、大学の内外を問わずまだ使える家具や家電を回収して、筑波大学で新生活を始める新入生にその物品を提供するという活動です。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 みんなで日本語ディベートをしませんか（10021A）

T-ACT プランナー 長沼 ひとみ（社会・国際学群社会学類）

活動内容

筑波大学には ESS という英語ディベートができるグループはあるのに、日本語ディベートをするところがない！！と思い、筑波大学に日本語ディベートができるところを作ろうと思いました。T-ACT ではメンバー集めをし、最終的にはサークルになることを目指したいと思っています。扱う論題は、JDA 論題である「日本政府は着床前診断もしくは代理出産を認めるべきである」や、他にも「週休 2 日制を廃止すべきである」、「外国人労働者を認めるべきである」、「炭素税を認めるべきである」など他学にも興味を持ってもらえるような内容にしようと思っています。（もちろん他の内容も大歓迎です）

活動期間 平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

活動計画

平成 22 年 10 月	・活動開始・メンバーを集め、これからの計画を練る ・他学類への勧誘
11 月 3 日	JDA (Japan Debate Association) の大会見学
11 月～3 月	・メンバーを継続して探し、1 ヶ月に 1 つテーマを決めてディベートを行う ・活動は週 1、2 回を予定
3 月末	・活動終了 ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄

T-ACT オーガナイザー 末吉 くりあ（社会学類）
末永 加奈（社会学類）

T-ACT パートナー 伊藤 修一郎（人文社会科学研究所）

活動報告

活動成果

【活動内容】

9 月～11 月 どのような活動をしていくかの計画立て

12 月の論題は「日本政府は代理出産を合法化すべきである」ということで活動を行った。

12 月 1 日 リンクマップを作成

12 月 7 日 肯定立論作成

12月8日 否定立論作成
12月14日 試合
12月21日 試合（臨時）

1月の論題は「日本の小中学校は給食を廃止すべきである」ということで活動を行った。

1月11日 リンクマップ
1月18日 肯定立論作成
1月19日 否定立論作成
1月25日 試合

2月の論題は「日本は死刑制度を廃止すべきである」ということで活動を行った

2月1日 リンクマップ作成
2月8日 肯定立論作成
2月9日 否定立論作成
2月15日 試合

今後の課題

人数が集まらず、考えていた活動ができないことがあった。

また、人によって捉え方、モチベーションが異なるので、モチベーションをどう維持するかが大切になると感じた

経験者からのメッセージ

ある程度流れを決めてから、活動を始めることをオススメします。

さまざまなやりたいことがやれるので、新しいやりたいことがある人はぜひ T-ACT を活用すればいいと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

「ディベートってなに?」と思っていたパーティシパントがだんだん「ディベートって、難しいけど楽しい!」に変化していった。

T-ACT に関する感想

いろいろなサイズの印刷ができるのがとてもよかったです。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 Table For Two in 筑波大学 ～ヘルシーに社会貢献！？～ (10024A)

T-ACT プランナー 中村 良孝 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

- ・ 開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病に大学の学食を通して同時に取り組む社会貢献活動の推進。
- ・ より多くの学生に TFT を知ってもらうための宣伝活動、および TFT を導入してくれる食堂を増やす。

活動期間 平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

活動計画

平成 22 年 10 月	・ 活動開始 ・ 世界食糧キャンペーンに合わせて 3 学食堂で 2 週間の TFT 強化週間、および 10 月 27 日講演会を実施。
10 月～3 月	毎週木曜日昼休みにミーティングを実施。
通期	学内および学外の食堂、カフェに TFT メニュー導入の交渉。新規メンバーの確保。

備考欄

T-ACT オーガナイザー

秋山 キナ (国際総合学類)
 船山 舞 (国際総合学類)
 伊藤 薫平 (生物学類)
 森 麻衣 (生物学類)
 金井 朋恵 (比較文化学類)

T-ACT パートナー

大久保 一郎 (人間総合科学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

- ・ TFT 強化週間および TFT メニューの提供を第 3 学群食堂にて実施。6 か月で 430 食を寄付として支援。
- ・ 強化週間にメンバーが考案したメニューを提案し、一部採用。
- ・ 学内での TFT 導入交渉。一学、二学、体芸食堂では協力を得られず。医学食堂とコナクリは本社への交渉を求められる。
- ・ 学外交渉は学内がまだ残っているため実施せず。
- ・ 学食交渉に用いる情報を得るためアンケートを実施 (各学食 100 ～ 300 枚程度) 現在集計中。

- ・ 宣伝活動として Twitter, mixi などのメディアを使用開始。
- ・ 新規メンバーの確保

今後の課題

- ・ 学食が企業運営のため、交渉を大学にある学食に対して行ってもあまり進展がなかった。
- ・ 最終的に導入学食は第3学群食堂のみとなってしまった。
- ・ ミーティングを全員の時間を合わせるため昼休みとしたが、明らかな時間不足だった。
- ・ サークル化を考えたがメンバーが十分に集まらない現状では不可と判断した。
次回ではこのような点を改善していきたいです。

経験者からのメッセージ

T-ACT は自分一人では不可能な作業・手続きを可能にし、活動が速やかに進むようになります！
これからアクションを起こそうと思っている人は絶対利用しましょう！

運営者側から見たパーティシパントの変化

TFT 筑波の活動のみならず他大学とのミーティングに参加し、食に対する意識および TFT を進めていくモチベーションがメンバー全員の間で変わりました。当初は意見が出なかったミーティングも積極的にになり、今では多くの意見が出るようになりました。

T-ACT に関する感想

TFT 筑波への支援ありがとうございました。今後もよろしくお願いします！

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 つくばサイクルプロジェクト（10026A）

T-ACT プランナー 佐藤 良太（システム情報工学研究科）

活動内容

筑波大学で毎年廃棄される数多くの自転車。
まだまだ乗れるものも少なくないのに、ただ廃棄されるのはもったいないと思って見ていました。

僕の専門の都市計画分野では、現在、コミュニティサイクルシステムというものが注目を集めています。これは、自転車貸出・返却場所（ステーション）を複数かつ高密度に設置し、近くのステーションにいつでもどこでも自転車の貸出・返却をすることができるようにした新しい自転車共有システムのことです。

筑波大学で毎年廃棄される自転車を活用して、このシステムをつくば市に導入できないか模索しています。

最終的な目標としては、筑波大学の廃棄自転車を使って、このシステムをつくば市に導入することです。

前例としては名古屋大学での「名チャリ」という取り組みがあります。

このシステムを導入するメリットとしては下記のことが挙げられます。

- ・廃棄自転車の活用
- ・環境にやさしい交通網の構築
- ・居住者のみならず、つくばでの来訪客にも気軽に自転車を使ってもらえる仕組みを整える。（久しぶりにOB訪問した筑波大卒業生の自転車に対する需要は高いはず）
- ・自転車を使って街のブランディングを行い、より全国から注目される街にする。（有名な自転車ショップの存在や、りんりんロードなど、すでに自転車を趣味として楽しめる街の土台ができている。）

などなど

活動期間 平成22年11月1日～平成23年4月30日

活動計画

平成22年 11月	・活動開始 ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
11月～2月	コミュニティサイクルシステムの構築、社会実験のための費用工面、放置自転車の入手及び自転車整備、大学、行政、地域企業への協力要請、webページ等による広報
3月	社会実験（実際にコミュニティサイクルを運用してみる）

備考欄	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・活動終了 ・社会実験を振り返り、導入可能性について検討する。大学や行政、地域企業に提案を行い、本格運用を目指す。
T-ACT オーガナイザー	澤田 敏規（社会工学類） 田中 魁偉（人文学類） 宮本 隆太郎（社会工学類） 菅野 卓也（物理学類） 宮川 雄貴 佐々木 賢太 加藤 務 平井 恵理 木下 幸明 高島 遼史	
T-ACT パートナー	岡本 直久（システム情報工学研究科）	

活動報告

活動成果

2010年12月；自転車環境シンポジウムに参加

12月；TB 活動説明会

12月；T-ACT 総合科目で活動の紹介

2月；3E カフェで TB について取り上げていただく

3月；実証実験準備（震災の影響で中止）

4月；筑波大学社会貢献プロジェクト採択、

12月－2011年4月；毎週火曜日18時半より定期ミーティング

・目標達成度（その根拠も述べる）

5割

実証実験ができなかったのは大変残念だが、今後の提案に結び付けることのできる有益な情報を多く収集することができた。また、思いがけずこのプロジェクトが大学及びまちづくりコンペで受賞することができ、目標としていたものとは違う形で成果を得られたことも有意義であった。

・得られた成果

コミュニティーサイクル導入に向けて基礎的な情報の収集ができた。

自分たちの企画に様々な分野の方が関心を持ってくださった。

<受賞>

つくばエコシティー推進賞（グリーン賞）受賞

第6回土木計画学公共政策学生デザインコンペ 北村賞受賞

今後の課題

コミュニティーサイクルの実証実験を行う上で、

・法的問題の解決

- ・運営資金
- ・運営スタッフの調達
- ・貸出システムの構築
- ・メンバーからの積極的な発言

などの諸問題が見えた。今後の課題としたい。

経験者からのメッセージ

「思い立ったら吉日！」

周りのサポートがあれば、より良い企画にすることが可能。

やりたいと思ったら、実行してみるといいと思う。

それをサポートする枠組みがT-ACTにはある。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパント登録をしている人もいますが、プランナーから見ると今回の企画では、皆オーガナイザーだと思っているのでここは省略します。

T-ACT に関する感想

T-ACT 企画の新歓祭みたいなものを学期ごとに行うと、もっとパーティシパントやオーガナイザーが様々な企画に増えるのではないかと考えています。

学食などで、一堂に企画を紹介できるような枠組みができるといいなと思っています。
(課外活動団体のような〇×系サークル新歓という枠組みで)

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 筑波にマイカップ自販機を！（10027A）

T-ACT プランナー 原 朋弘（社会・国際学群国際総合学類）

活動内容

環境問題を考えた時、まずできるのは身の回りの物を変えていくことだと思いました。そこで、この企画では、最終的に筑波にマイカップで飲料を購入できる自動販売機を設置し、その設置したことによるごみ削減効果や、意識調査をもとに日本の飲料メーカーにマイカップ自販機の全国的設置の推進を促していこうと思っています。

この企画を行うにあたり、大学・自販機メーカーとの交渉や、ごみ問題に関する意識調査を積極的に行っていきたいと思っています。

活動期間 平成22年10月19日～平成23年3月31日

活動計画	平成22年10月	・活動開始 ・メンバーを募集、話し合いを進めて計画を練る
	11月～12月	・活動拠点を定める。企業などを訪問し、自販機やごみ削減に関する知識を増やす。
	12月末～3月	・実際に大学や企業との交渉を開始しつつ、ごみ問題についての知識を継続して増やそうと努力することに努める。

備考欄

T-ACT オーガナイザー
 佐々木 誠（国際総合学類）
 正久 卓哉（国際総合学類）
 田村 英子（国際総合学類）
 鶴園 宏海（国際総合学類）

T-ACT パートナー 白川 直樹（システム情報工学研究科）

活動報告

活動成果

今後の課題

このプランは、まだ「自販機を大学に設置、社会全体に意見を言う」というところまでは達成していないため、今後も活動を続けていくことになる。

問題となったのは、

- ①実際にマイボトル自販機が存在しないため、新しいものを作るだけの需要を今後証明していく必要がある

- ②自販機製造メーカーと交渉していくのが難しい
- ③自販機業界の構造が複雑なため、どこか一か所に提案するだけでなく、いろいろな方面にアプローチをかけていかなくてはならない
- ④大学という大きな組織に意見を提案する技術を、私たちが持ち合わせているとは言い難いなどといったことがあげられる。

経験者からのメッセージ

物事を実行するには、想像以上にしっかりとした筋道の構築が必要です。
行動に移す前に、タイムラインやありうるいろいろな可能性を考えてみる必要があります。

運営者側から見たパーティシパントの変化

なし

T-ACT に関する感想

なし

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 STC (Student Teacher Communication) ～探れ！！身近な先生の仕事術～ (10028A)

T-ACT プランナー 尾澤 将大 (生命環境学群生物資源学類)

活動内容

学生と教員の間ギャップがある大学でどこまで教員と距離を近づけ、大学の環境と教育の両面から成長をできるか。

おそらく今は大学という環境でのサークル、バイト、ボランティアでの成長は多くの学生が経験している。

しかし、大学の教育の場で成長したか。もっともっとユニバーシティを利用していいはずである。大学には教員がいる。

そこで学生から教員、教員から学生へ双方向的にアプローチをすることにより学生と先生の交流を流動的にし、向上心のある大学を作り、大学の環境と教育の両面から学生に高付加価値が創出し、社会に飛び込んでいけるようなきっかけ作りを行う。

そして教員に働きかけインタビューを行い、普段の授業における面を剥がし教員の素顔に迫る。専門研究、研究アイデア、モチベーション、ワークライフバランス、普段の持ち物、人生の決め手一冊、専門バイブル書等々さまざま質問を投げかける。

活動期間 平成 22 年 11 月 4 日～平成 23 年 4 月 28 日

活動計画	平成 22 年 11 月	・活動開始・メンバーを集め、話し合いを進めて計画
	11 月～4 月	運営メンバーでミーティング・インタビュー
	4 月	・活動終了 ・メンバーで最終振り返り・反省を行い、活動報告書作成

備考欄

- ・月一でインタビューをしてスチューデント・ブログ等に載せる。
- ・今回は生物資源学類環境工学コースの教員を中心に考えている。メンバーによっては変更を検討。フレキシブルに行う予定。

T-ACT オーガナイザー 北川 力 (生物資源学類)
朴木 彩乃 (生物資源学類)

T-ACT パートナー 野口 良造 (生命環境科学研究科)

活動報告

活動成果

今後の課題

- ・作成したものを人に見てもらえるためにどうすればいいのかを考え、実践する。
- ・広報後のフィードバックをする。
- ・インタビュー対象者の先生方に反応を聞き、今後に生かす。

経験者からのメッセージ

プランナー自身の本意になって企画が滞ってしまうことを懸念していましたが、実際にそうなってしまいました。プランナーの裁量が試されている気がします。多くの人を巻き込んで、行っていくよりスムーズにそしておもしろい企画ができると思います。まずは、仲間づくりだと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

自分が行うんだという主体性・責任性が育っていくのがわかりました。

T-ACT に関する感想

場の提供をして頂けて本当に感謝しています。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名

見せないメディアと魅せるニューメディア (10030A)

T-ACT プランナー

船山 裕貴 (社会・国際学群社会学類)

活動内容

【日時】平成23年1月20日(木) @筑波大学 3A204 教室(仮) 18:00 開場
18:30～19:20 第1部 上杉隆氏による講演
『現代マスメディアの問題点とニューメディアの可能性(仮)』
19:30～20:30 第2部 パネルディスカッション
『白熱教室!?! 上杉隆×大学教授×会場参加者×中継参加者』

【参加費】無料

【参加申込】<https://ssl.form-mailer.jp/fms/258fa1d2128444>

※現在登録期間外となっておりますが、間もなく申込を開始する予定です。

【活動内容】

2011年1月20日(木)にフリージャーナリストの上杉隆氏をお招きし、講演会を実施することが主な活動です。講演会には大学教授も招き、上杉隆さんと大学教授、そして私たちがTwitterなどのツールを利用した対話を通じてメディアを再考するきっかけとなるような講演会作りを行います。

【問題意識】

日本で起こる、政治・経済・社会、その他様々な問題はメディアによって私たちに伝えられます。中でもテレビや新聞といったマスメディアは、インターネットの普及しつつある今でも、世の中に対し大きな影響力を持っています。インターネットの情報は信憑性に欠け、テレビや新聞といったマスメディアの情報は絶対的な信憑性があるという認識を持つ国民が多いのが現状です。それは本当に正しい認識なのでしょうか。本当にネットの情報は信憑性に欠けるのでしょうか。

まずはメディアの現状を知り、どのような争点が潜んでいるかについて理解し、そして多くの人のメディアに対する認識を改めるきっかけになればと考えます。

【企画立案の経緯】

プランナー自身のメディアに対する関心から派生したのが経緯です。上杉隆さんの著書やTweetを読んだり、インターネット番組を見たりする中で、記者クラブや記者会見のオープン化など普段あまり見聞きしない潜在的な争点があることに気付きました。争点として挙げられているからには、そのような仕組みは必要なものであるのか、本当に批判的に捉えなくてはならないシステムなのかを考えることで、メディアに対する新しい視点を持つことが出来るでしょう。ネットなどで単純で短絡的なマスメディア批判をよく目にします。そこからさらに一歩踏み込んで、批判を批判できるくらいにそれぞれがメディアに対する考え方を見つめなおすきっかけになればと思い、企画立案するに至りました。

【最終的な目標】

講演会を通じてメディアに対する多角的な見方を身につけることを目指します。

参加者にメディアに批判的な視点をもってもらいたいのではなく、まず様々な立場があることを認識してもらうのが目標です。すべての問題は「認識」するところから始まります。マスメディア側の「認識」をそのまま受け入れるのではなく、事実を見極め、顕在化してきた争点に対して能動的にアプローチできる力を身に付けることを目標とします。

活動期間	平成 22 年 11 月 1 日～平成 23 年 1 月 31 日	
活動計画	平成 22 年 11 月～ 12 月	・メンバーを集め、企画の立案検討を行う ・広報活動・事前勉強会
	平成 23 年 1 月	・最終的な打ち合わせ / 運営会議
	1 月 20 日 (木)	講演会開催@筑波大学 3A204 (仮) 18:00 開場 18:30～19:20 第1部 上杉隆氏による講演 『現代マスメディアの問題点とニューメディアの可能性(仮)』 19:30～20:30 第2部 パネルディスカッション 『白熱教室!? 上杉隆×大学教授×会場参加者× 中継参加者』 ※ Ustream による全世界中継・Twitter 連動に よって会場内外の声を講演に反映するなどの 企画も計画中です。 参加費：無料 定員 300 名 (定員になり次第締切)
	1 月末	・活動終了 ・活動報告書をまとめる
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	田草川 萌 (社会学類) 高林 豊人 (社会学類) 岩井 香菜子 (社会学類) 安齋 耀太 (社会学類) 山原 智之 (応用理工学類)	
T-ACT パートナー	辻中 豊 (人文社会科学部)	

活動報告

活動成果

【活動内容】

2010 年 10 月 12 日	上杉隆氏にお会いして概要の説明と講演依頼
10 月 20 日	正式に講演依頼
10 月 24 日	T-ACT に活動申請
11 月中	講演会の内容について打ち合わせ
12 月中	教室、機材の使用申請
12 月 07 日	参加申込み受付開始
12 月 08 日	筑波大学教授陣にパネラーとして参加依頼
12 月 17 日	Ustream 中継について打ち合わせ
2011 年 1 月 17 日	パネリストとの打ち合わせ

1月18日 会場設営リハーサル、機材・中継チェック
1月20日 講演会開催

今後の課題

教室備え付けの機器（プロジェクタ、マイクなど）の使用申請に手間がかかる。
基本的に学生には貸し出してくれないので、T-ACTでの使用を説明したり、顧問の先生の協力を仰ぐべき。

Ustream中継、Twitter連動については、詳しい人や団体に技術的な協力を得られるとスムーズ。
当日も急なトラブルなどに対応するために必ず担当をつけるべき。

経験者からのメッセージ

まずは思い立ったら相談！

T-ACT室の先生でも、T-ACT活動の先輩、友人、誰でもいいから話してみることに。

自分だけでは気づかなかった視点を見つけられます。

やろうと思うと意外に形に出来るものなので、変な先入観で「自分には出来ない！」とあきらめないで、やってみるといいですよ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加受付直後から、申込みが殺到して申込みページが落ちました（笑）

インターネット中継での参加者も1000名を超え、Twitter上でも活発に議論が繰り広げられており、議論への実質的な参加者は富津の講演会よりも多かったかと思います。

T-ACTに関する感想

なし

いま

マスメディアの現在

『見せないメディアと魅せるニューメディア』



フリージャーナリスト **上杉隆**

パネリスト

筑波大学教授
辻中豊
現代日本政治研究

筑波大学准教授
海後宗男
メディア・コミュニケーション論

筑波大学特任教授
荻野祥三
元毎日新聞記者

2011年1月20日(木) 18:00開場 18:30開演

第1部 上杉隆氏基調講演 『現代マスメディアの問題点とニューメディアの可能性』
第2部 パネルディスカッション 『メディア再考 上杉隆×大学教授×学生×参加者』

【場 所】 筑波大学 3A204 教室 (300名取容)
【参加費】 学生無料 一般・教職員 1,000円
【申込み】 <https://ssl.form-mailer.jp/fms/258fa1d2128444>
(「見せないメディアと魅せるニューメディア」で検索)
【ハッシュタグ】 #uot_media



許可済
23.1.18
T-ACT

T-ACT
#20110304

▲携帯からの申込み
プランナー 筑波大学 社会学類2年 船山裕貴 cielbleu.mrc2601@gmail.com

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 サワッディー T-ACT (10037A)

T-ACT プランナー 及川 直人 (人間学群教育学類)

活動内容

【T-ACT × タイ】

T-ACT を利用する 1 学生として、もっともっといろいろな学生に利用してほしい！という思いと、私の第 2 の故郷であるタイのことをもっともっと知ってほしいという思いから始まった企画。

ちなみに企画名のサワッディーとはタイ語でこんにちはの意であり、T-ACT に気軽に来室する様子を表している。

具体的には、

T-ACT のブースにて、タイ語の日常会話やタイ文化に関する講座を行う。私自身、タイ語の初学者であるため、一緒に学びあえる雰囲気を作りたい。

ゆくゆくはタイ人学生を巻き込んだり、他の言語に波及させていきたい。

活動期間 平成 22 年 12 月 20 日～平成 23 年 3 月 18 日

活動計画	平成 22 年 12 月中旬	計画の詳細な立案、仲間集め
	年内	試験的に 1 回か 2 回 T-ACT でタイ語講座を開催
	1 月中旬以降	週 1 回程度でタイ語講座を開催
	2 月中旬	タイ語講座受講者、タイ人留学生でパーティーの開催
	3 月	ふりかえり

備考欄

T-ACT オーガナイザー 田端 雅史 (システム情報工学研究科)
半田 絵里子 (学生生活課)

T-ACT パートナー 井田 仁康 (人間総合科学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

・活動内容

- 1 月 26 日 タイ語講座①
- 2 月 2 日 タイ語講座②
- 2 月 17 日 タイ語講座③

2月23日 タイ語講座④
3月2日 タイ語講座⑤、活動の反省

- ・ 目標達成度
80%
タイ語に対する意識を高める事が出来たため。
- ・ 得られた成果
T-ACT への来室をわずかながら促すことができた。
参加者にタイ・タイ語への興味を持たせることができた。

今後の課題

次年度以降に引き継ぐ後輩の育成

経験者からのメッセージ

「サワディー T-ACT」は、企画立案から実行まで2時間という驚きのスピードで実現した企画です。

みなさんの持っている「なんかやりたいな～」を持ってくればT-ACTでできないことはありません。

運営者側から見たパーティシパントの変化

タイ・タイ語に関する興味を増やし、一個人としてのグローバルな視点に立てたと感じる。

T-ACT に関する感想

T-ACT の檜村先生、半田さんの支えがあつての企画でした。本当にありがとうございました。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 学び場さくら塾 3rd season (10041A)

T-ACT プランナー 金岡 孝浩 (人文・文化学群人文学類)

活動内容

学び場さくら塾は、2010年5月にできたばかりの無料の学習塾です。

さくら塾は、大学、地域住民、保護者の方々の協力の下に成り立っています。様々な人びと、組織と協働し、地域に根ざした教育組織にしたいと考えています。

今後とも全学に活動の輪を広げていきたいと思い、第三期を申請させていただきました。

5月から8月までの第一期は、地域住民、児童生徒の保護者、T-ACTの協力により、無事活動を続けることができ、9月から12月までの第二期は教育内容を充実させてきました。第三期では、地域と関わるイベントや三年生の受験指導など、より子供たちのためになるような活動を実施していきたいと考えています。

さくら塾は、単なる学習指導にとどまらず、大学と地域をつなぐさまざまな取り組みに積極的です。第一期の7月は留学生と芸術専門学群の学生を招いて交流会を行いました。8月は大学生と中学生のTALK SESSIONも行いました。

今後、継続的にさまざまなイベント作りをしていきたいと思っています。

さくら塾では、学生講師が週3日(火曜、金曜、日曜)、桜3丁目21にある県営桜アパートの集会所に出向き、無料で小中学生に勉強を教えています。火曜日(19:00~21:00)は中学生に英語と数学、金曜日は集団形式で社会科、日曜日(10:00~11:30)は小学生に百マス計算、漢字、算数(その他、地図の勉強、工作、など特色のある教科)を指導しています。一般的な学習塾とは異なり、生徒との距離が密接なところが特徴です。教育に熱い方、地域活性化に興味がある方、ボランティアに燃えたい方は、子どもたちを巻き込んだイベント運営に興味のある方はのふるってご参加下さい。現在、学生講師および運営メンバーを募集しています。お問い合わせは、info@manabiba-sakura.orgまで。

また内容についての詳細は、WEBページをご覧ください。<http://www.manabiba-sakura.org/>

活動期間 平成23年1月1日~平成23年3月31日

活動計画	平成23年 1月	・地域の方を呼んでの特別授業開始
	2月	三年生は入試に向けて大詰め。交流イベントなどは行わず、入試に集中する
	3月	三年生は入試。1・2年生は来年に向けての指導を行う。大学生を呼んでの特別授業を企画中。

備考欄 <http://manabiba-sakura.org/>

T-ACT オーガナイザー

松本 紘一郎（教育学類）
 林 裕行（教育学類）
 挟間 龍介（応用理工学類）
 荒井 菜摘（国際総合学類）
 横田 真之介（情報科学類）

T-ACT パートナー

田中 マリア（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

中3の三人は無事第一志望に合格することができました。また、生徒からは成績が上がった、今まであまり好きではなかった科目を好きになることができた、などのコメントを頂いた。一年目の成果としては、大成功だと評価している。

また、この成果を受けてより活動を拡大し、つくば市の子どもたちに貢献していきたいと思い立ち、新たな生徒を呼び込むために活動を拡大することとなった。

2月末の地区懇談会を皮切りに、つくば市に働きかけを行う行動は以下の通りである。

- 2月：桜地区懇談会で市長に活動内容をお伝えする。市長と教育長から回答を頂き、教育委員会事務局からは教育委員会に来て欲しいとのお誘いを受けました。
- 3月：つくば市役所に行き、市民活動課・生涯学習課・教育委員会に活動を紹介し、支援をお願いしに伺う。震災の影響で教育委員会と3月18日に予定されていた話し合いができず、24日に代理で行う。

今後の課題

春日公民館、台坪ふるさとコミュニティセンターへの場所移転。
 新規生徒の拡大・新規講師の拡大。

経験者からのメッセージ

「地域とかかわる」「多くの人を巻きこむ」ということは聞こえは良いですが、その裏には「信頼」や「責任」といった事が隠れていることを忘れないでほしいです。

筑波大学生の信用は、大学から一歩出れば消え失せます。そんな中で、どのようにして地域住民や保護者の方々と「信頼」を構築し、協力をいただきつつ活動を進めていくのか。大学を飛び出し、地域に出て活動する大学生の永遠の課題だと思います。

さくら塾の場合、無償ということで保護者さんの活動に対する食いつきは良いのですが、より良い健全な信頼関係を構築するためには、書面やメールではなく顔を突き合わせて熱意を語り、理念を語り、活動を行う理由を語るしかありません。

運営者側から見たパーティシパントの変化

元々活動に興味がある人が集まってきているので、大きな変化はありません。しかしながら、皆「やりたいこと」が実現できているようで運営者としてはうれしい限りです。

T-ACT に関する感想

大満足です。お世話になりました。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

留学生と日本人学生の共同情報誌づくり 第四弾 Team8 Season 4 (10043A)

T-ACT プランナー

Wong, Chew Tat (システム情報工学研究科)

活動内容

①「少数でより深い交流」を目指す

筑波大学には約1500人もの留学生が在籍しており、非常に国際色豊かな環境であるといえます。しかし、留学生は留学生同士、日本人は日本人同士で固まってしまう傾向があり、せっかくの環境が生かし切れていないのが現状でした。

また、一対一で留学生の学習面・や生活面のサポートをする「チューター制度」はあるものの、うまく機能していないケースもあり、それ以外に留学生の支援を行っている団体も存在しませんでした。

そこで、「学生同士の交流を深めつつ、何か留学生達の力になれるような活動をしたい」という思いから、2009年4月にこの団体を立ち上げました。

そこで私たちがまずやったことは、

- ・共通の関心を持つメンバー同士を集めた少数でのイベントを積み重ねていく
- ・お互いの信頼関係が出来上がってきたところで全体向けの大きなイベントや共同のものづくりを行う

というものでした。

(具体的なイベント例)

関東近辺での日帰り旅行・スポーツ企画

共同の国際情報誌作り・文化ワークショップなど。

今年度はこれらの活動をさらにパワーアップさせ、学内の交流をより活発化させていきたいと考えています。

②日本語を使った気軽な国際交流を実現する

時には英語も使うけど、「英語が出来ないからって留学生と友達になれない」わけじゃない!

「日本語・日本文化を学んでいるのに、日本人と出会える機会がない・・・親しい友人が出来ない・・・」という留学生の方をたくさん見てきたからこそ生まれた

私たちの活動のモットーです。

(もちろん、メンバーごとに得意な言葉・不得意な言葉があるので時には英語を含めた複数の言語が混じります。でも、その時は他のメンバーが間に立ってコミュニケーションの

お手伝い! Team8にはいろいろな人がいます。困ったらどんどん他の仲間を頼ってください。)

③ものづくり(フリーペーパーの制作やお国料理大会など)を通し、学生同士が単なる「友人」を超え、大切な「仲間」としてより深い関わりを持てるようにする

「何かを一緒に作る」という体験を通して見えてくる文化の差、学内で反響を頂けた時の達成感。普通に大学生生活を送っているだけではなかなか味わえない楽しさをこの活動を通して皆に知ってもらいたいと考えています。

④日本文化 Workshop

留学生に日本特有の文化をワークショップの形で紹介する。前回はお正月について行った。おせち料理、初詣や年賀状などの正月行事を詳しく紹介した。

【最終目標】

留学生と日本人学生がお互いのふるさとを訪問しあえるくらい、深い交流を生み出すこと。

Purpose

Team8's purpose is to deepen the ties between Japanese student and foreign student in Tsukuba thru collaboration and creation of a magazine. Final vision, we will be traveling to each other home town like a family.

Although Japanese is our main communication language, the bilingual or even trilingual member will be able to bridge the language barrier. Our current member speak prefect English, Korean, Chinese, Italian, Portuguese, and Cantonese. Please feel free to join us and Japanese language ability won't be any barrier here.

活動期間

平成 23 年 1 月 5 日～平成 23 年 6 月 30 日

活動計画

平成 22 年 1 月～2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期 Meeting ・ Web に部屋探しと留学生に便利な情報特輯 ・交流イベントを行う ・お国料理（1 月・日本お雑煮、2 月・世界遺産メキシコ料理）
3 月～4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 号の編集会議、執筆・取材・日本語添削 ・月 1 回交流イベント ・新規メンバー募集・花見大会 ・第 4 号発行
5 月～6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・関東日帰り旅行 ・月 1 回交流イベント

備考欄

Team8 URL <http://theteam8.com/>

T-ACT オーガナイザー

榊原 敬治（物理学類）
 草刈 緑（卒業生）
 森 裕信（卒業生）
 小池 徹（社会学類）
 栄 友理子（教育学類）
 三上 由佳莉（社会学類）
 明本 彩美（比較文化学類）

T-ACT パートナー

小屋 一平（留学生交流課）

活動報告

活動成果

【活動内容】

Mar 7 Salsa 教室

Mar 8	姫祭り&表彰式
April 10	Monthly Meeting
April 20	Team8 Spring Issue No.4 発行
May 7	Uzbekistan Palov Party
May 13	Meeting & Member Birthday Party
June 4~5	Team 8 Camp
July 2	Farewell party

Detail of Team8 Camp

We started the event with ice breaking game, which we remember names of new faces and learn a bit about each other. With the game called Human Chain or Human Knot, we had to solve the knot we make by our hand, it really bring all of us together.

After that, we play some sport game from Mexico, called "Around the world", in return Japanese member teach us to play "しっぽ取り". I think sport & music are the universal activities we all can related to.

At night, we started the BBQ and camp fire. It was a great night.

- ・ 目標達成度 (その根拠も述べる)
- Overall: 80%

Free Magazine: 80%

The main target of this season Team8 is to create a free magazine that encourage exchange between international student and Japanese Student.

We have publish a 12 pages free paper in April that themed around "Possibility 可能性". You can see the issue from our website, theteam8.com

However the member involve in this issue are mostly Japanese, when other foreign exchange student went back to their country after completed their program or because of the earthquake.

I wish we could have more international student involve in the process of making the magazine.

Summer Camp: 100%

Theme: ひとつになろう！

The next major event for team8 is the Summer Camp on June 19- 20 @ Yukari No Mori.

It was a huge success. We able to gather more than 40 people with the ratio of 50:50 International student and Japanese.

The main purpose of this Camp is to bring all of us together closer. No matter International student or Japanese student, we want to bring all of them together and share the experience of a wonderful camp.

- ・ 得られた成果

The network of friendship, we made on those event will stay on for life. This is the unique experience we share in Tsukuba life.

I believe we have inspired both of the Japanese and International student to learn each other language more.

今後の課題

Originally, we intended to collaborate the camp with TISA, however we couldn't make it due to various mis-communication.

With less than 6 staff member to organized an event like this is a tough job, but in the end everyone join had a good time.

Many people had shown interest with international exchange, however my personal time-table doesn't allow me to organize more event for them and coordinate those who interested. I wish I can find a way to motivate the member to initiate and manage themselves.

経験者からのメッセージ

The website, theteam8.com had earned more than 5700 page view and close to 2000 unique visitor in 9 months.

It is good to have a website and update it frequently to share the information.

It is important to plan in 2 month advance for the important event that everyone could join.

運営者側から見たパーティシパントの変化

It is very encouraging to see some freshman (1st year) to join us. Many of them, brought their friends along to experience the dynamic of team 8 camp.

Those are not the usual Japanese student we see in Tsukuba, they are more open to experience and they are trying their best to start a conversation in English and only to find out most of the international student here, can also communicate fairly well in Japanese. It is a great relief to the both side.

From what I observe, I think they had discovered that how to express themselves doesn't require any perfect English or Japanese, a simple, basic level and, more importantly willingness, to communicate/ express themselves will carry them a long way.

T-ACT に関する感想

I want to take this opportunity to personally thanks Kashimura-sensei and Handa-san for supporting us in T-act forum.

I have a feeling that T-act will be a prefect platform for other International student to become active in Japanese University, because first of all, how T-act work is different from other department of school. It have minimum amount of paperwork and fast decision making lag time. (Thanks again, Kashimura-sensei and Handa-san)

The T-act equipment such as Nikon camera and photocopy machine had proven really useful for us. However, the usefulness of the 電子掲示板 is in doubt for me, I run an ads on it for more than 3 week, but there isn't any single feedback from it. I think Tsukuba student is still prefer mouth to mouth information.



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 自分の生き方、はたらき方を考えるワークショップ (10045A)

T-ACT プランナー 江越 喜代竹 (人間総合科学研究科)

活動内容

就職氷河期…合同説明会、ES 対策、GD 対策、面接講座…
巷には、いろんな就職活動のための「テクニック」や「〇〇力」があふれています。
そのゴールとして設定されているのが、「内定」。

ちょっと待って。
「内定」をもらったらゴールなの？
じゃあその先の仕事とか、人生とか、どうでもいいの？
そんな疑問を抱きました。

確かに、就活を乗り切るには、いろんなテクニックは必要かもしれない。
でも、それを身につける「自分自身」とどれだけ向き合ってるのだろうか？
自分はどんな生き方をしたくて、そのためにどんなはたらき方をしたいのか？

就職活動の波にのまれてしまうときに、
ちょっとだけ立ち止まって、丁寧に自分自身と向き合う時間を持ちたいと思います。

<企画案>

3月19日 or 3月14日 10:00 (受付) ~ 17:00
10:30 ~ 11:00 自己紹介・イントロダクション
11:00 ~ 12:00 「働く」ってどういうことだろう? -インタビューを呼んで
※インタビュー記事を読み、グループディスカッションを行う。
※ GWT などのアクティビティを用いて、「仕事」について考える。
12:00 ~ 13:30 昼食 (外食 or 弁当注文)
13:30 ~ 15:30 ワールド・カフェ どうはたらいていきいきしたいのか?
15:30 ~ 16:00 個人の時間 (1人で内省する時間) → 2 ~ 3人で共有
16:00 ~ 16:45 全体のふりかえり、Closing
※企画の内容は参加者の希望などを踏まえて変更する可能性があります。

活動期間 平成23年2月2日~平成23年3月24日

活動計画

~平成23年
2月10日

- ・活動開始
- ・企画の詳細を練る。
- ・広報開始 (学内掲示版、web、メーリングリスト等で学外へも告知)。

	～2月20日	・運営メンバー決定。 ・「しごと人」へのインタビュー（学外）。
	2月末～ 3月20日頃	・ワークショップ実施。実施日、会場未定。
	～3月24日	・活動報告書完成、終了。
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	菅谷 宏一（教育研究科）	
T-ACT パートナー	阿部 弘樹（数理物質科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

今後の課題

もっと計画性を持った活動の進行を。ワークショップの具体的なプランを詰められないまま、震災を受け、中止になった。無念。

広報が難しい。タイミングと、手段を再検討する余地あり。

やはり学生のニーズに合わないのか？何が得られるのか、見えにくいワークショップだったことも一因か。

経験者からのメッセージ

チャレンジを！

運営者側から見たパーティシパントの変化

催行中止。

変わることは求めています。

T-ACT に関する感想

もっと、開かれてもいいと思います。

最初、足を踏み入れづらかったです。

場所の移動も含めて、学生によりそいやすいところにあるといいと思います。

先生方は、とてもあたたかく、仕事はやりやすかったです。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

あなたの小説が読みたい！－第四回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集－（10047A）

T-ACT プランナー

竹前 みね花（生命環境学群生物資源学類）

活動内容

総合大学という筑波大学の長所を生かし、小説を書くこと・読むことに興味を持つ学生の活動及び交流の活発化を手助けしたい。またつくばに関わる、筑波大学外の学生との交流のきっかけにしたい。最終的にはつくばに関わる学生全体の創作活動の活性化を目指す。

活動期間

平成 23 年 2 月 20 日～平成 23 年 9 月 20 日

活動計画

平成 23 年 2 月～3 月	・作品及び一般選考委員を 4 月から募集することを 広報する。
4 月初旬	・作品及び一般選考委員を募集開始し、広報する。
5 月末～ 6 月中旬	・一般選考委員説明会を開催。
6 月末	・作品及び一般選考委員募集を締め切る。
7 月	・一次選考：集まった作品を筑波学生文芸賞運営委員（オーガナイザー）のみで選考する。
8 月	・最終選考：一次選考通過作品を一般選考委員（パーティシパント）と共に選考し、受賞作を決定する。 一般選考委員参加者との交流及び改善点のアンケートを回収する。
9 月	・受賞作を発表する。受賞作掲載冊子を編集する。
10 月	・学園祭にて冊子を無料配布する。筑波学生文芸賞運営委員（オーガナイザー）のみで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄

公式HP→ <http://tbaward.com/>
公式ブログ→ <http://tbaward.tsukuba.ch/>

T-ACT オーガナイザー

神田 夏海（比較文化学類）
 塩田 真史（応用理工学類）
 谷 秀次郎（心理学類）
 岡部 俊生（比較文化学類）
 柴田 侑規子（日本語・日本文化学類）
 柏 零（社会工学類）
 土井 雅也（芸術専門学群）
 太田 遼吾（教育研究科）
 松下 聖（人文社会科学研究科）
 伊藤 美峰（人文社会科学研究科）

T-ACT パートナー

増尾 弘美（人文社会科学研究科）
 江藤 秀一（人文社会科学研究科）
 青柳 悦子（人文社会科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

長期休業及びテスト期間をのぞいて、基本的に週一回のミーティングを行った。
 基本的に活動計画に沿ったアクションができた。

- 2～3月 作品及び一般選考委員を4月から募集することを公式HPや公式ブログなどで広報した。
- 4月～ 作品及び一般選考委員を募集開始した。その広報をビラ配布、ポスター掲示、T-ACTのメール・電光掲示板、公式HPや公式ブログへの書き込みにより広報した。
- 6月13日 一般選考委員説明会を開催した。2名の参加者があった。
- 6月末日 作品及び一般選考委員募集を締め切る。一般部門…19作品、ベリ―ショ―ト部門…23作品の計42作品が集まる。また、一般選考委員は3名が集まる（うち2人は一般選考委員説明会経由で、1人はT-ACTのメール経由であった）。
- 7月中 各一般選考委員の都合に合わせて勉強会（模擬選考会）を開催した。
- 7月16日 一次選考会：集まった作品を筑波学生文芸賞運営委員（オーガナイザー）のみで選考した。
- 8月5日 最終選考会：一次選考通過作品を一般選考委員（パーティシパント）と共に選考し、受賞作を決定した。最終選考会終了後、一般選考委員参加者との交流会を行った。
- 9月1日 茗溪会の援助金に採択される。
 受賞作品タイトルとを公式HP・ブログ、筑波大学新聞、ポスター等で発表した。
- 9月9・10・11日 受賞作掲載冊子を編集し、入稿した。
- 10月8・9・10日 学園祭にて冊子700部を無料配布した。

・目標達成度とその理由：

目標は大いに達成できた。活動計画に沿った、もしくはそれ以上のアクションができたため。

・得られた成果：

T-ACT参加者やその他大勢の方の援助を受けて、活動を終了することができた事。当初の目的である、「総合大学という筑波大学の長所を生かし、小説を書くこと・読むことに興味を持つ学生の活動及び交流の活発化を手助けする。またつくばに関わる、筑波大学外の学生との交流のきっかけにす

る。最終的にはつくばに関わる学生全体の創作活動を活性化する」の達成できた事。

今後の課題

T-ACTのHP上の「活動日」タブでの宣伝や、メールでの告知を活用しきれなかった。T-ACTでの広報担当を決めて、もっと利用できていたらと思う。

経験者からのメッセージ

どんな事でも最後には良い経験になります！

運営者側から見たパーティシパントの変化

T-ACTに関する感想

物品の貸し出しや印刷等の支援が非常に助けになった。また、困った時でも相談しやすい、明るい雰囲気の仕事所がとても良かった。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 就活 cafe (10048A)

T-ACT プランナー 田端 雅史 (システム情報工学研究科)

活動内容

【活動理念】

就職難と言われる中で、悩みや不安を抱える就活生の心のよりどころとなり、一緒に就活を戦える仲間と出会える場を創る。

【活動目標】

- ・参加するためのハードルを下げ、ふらっと立ち寄ってもらえる場所を目指す
- ・就職課では行えない部分をフォローしていく場にする

例) 17 時以降の相談、就活生の要望で臨時の対策講座を行うなど

活動期間

平成 23 年 2 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

活動計画

3 月まで随時

- 準備期間
- 内定者メンバー集め (随時, 現時点で 7 人程度確保済み)
- 広報 (随時)

2 月～3 月

- メインの活動 (2～3 月)
- 《就活相談会》
- ・内容
- 就職活動に関する
- 1. 悩み相談
- 2. エントリーシート添削
- 3. グループディスカッション練習会
- 4. 面接練習
- などを通じて、就活生と内定者が気軽に話せる場を創設します！
- 来年度に向けて (随時)
- 1. 参加してくれた就活生が来年度は内定者として関わってくれるよう、質の高い活動にする。
- 2. 活動記録を残す。

備考欄

T-ACT オーガナイザー 及川 直人 (教育学類)

T-ACT パートナー 嵯峨 寿 (人間総合科学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

就活 cafe の運営を通じた就職活動の支援（相談、ES 添削、面接対策等）を週 3 程度で定期的に（震災発生まで）行った。

多くの就活生に足を運んでもらうことができた。

今後の課題

- ・協力してくれる内定者が慢性的に不足していた。
（シフトが埋まらない、毎回同じメンバー、就活生が多く来てくれた日は対応しきれない）
- ・忙しさに追われて、新しい企画を行う余裕がなかった。

経験者からのメッセージ

大きな課題は「内定者集め」と「コンテンツ作り」の 2 点だったと思う。

「内定者集め」

→ 1～3 月は卒論・修論、卒業旅行等で内定者は予定が埋まりやすい。急をお願いしても無理なことが多いため、早い時期から協力してくれる体制を作っておく必要がある。

「コンテンツ作り」

→ 相談活動・ES 添削を行うことが多かったが、模擬面接や GD 対策等の要望も強かった。時期等を鑑みて、就活生が求めていることを実施できていたらより有意義な活動になると思う。

運営者側から見たパーティシパントの変化

自信を持って就活に望んでもらえるようになった。

3 月で終了してしまったため、内々定がもらえたか等は確認できていない。

T-ACT に関する感想

機材の貸し出し等柔軟に対応してくださり、活動を円滑に進めることができた。また、いつお邪魔しても暖かく迎え入れてくださり、悩みや不安をすぐ解決することができた。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名

お祭り好きなら見逃すな！一緒に「よっちょれ」を踊ろう！（10050A）

T-ACT プランナー

志村 愛（人文・文化学群比較文化学類）

活動内容

【活動内容】

2011年3月13日に催される「TSUKUBA 新まつり」のフィナーレにて、企画されている「よっちょれ」総踊りに参加団体や一般来場者と一緒に踊る。

その事前活動として企画されている、2月21日の「よっちょれ」練習会@石の広場で一緒に踊る。
※「よっちょれ」とはよさこいソーランの総踊り曲。よさこいソーランの踊り手ならば、誰でも知っていると言われるほど認知度の高い曲である。

筑波大学の学生の魅力は、全国各地から学生が集まり構成されている点がある。留学生数の受け入れも多く、多様な人材が集まり、勉強・研究など様々な活動が展開されている。都道府県の各地の出身者を集めた県人会などの組織も20以上もあり、郷土を愛する学生は多いという実感もある。

【問題意識】

このつくば市という地域へ根付く学生は多くはない。というのも、学生から地域への発信力が少ないからではないだろうか。市議会選挙や市長選挙をみても、明らかに学生が住む地域の投票率は低い。また、まつりつくばへの学生の参加率、まつり自体の認知度も低い。つまり、学生の地域活動への関心はかなり乏しいのが現状である。

【企画立案の経緯】

本企画を立案した理由は、よりたくさんの学生らの地域活動への参加を促したいと感じたことからである。「TSUKUBA 新まつり」は「学生×地域」をコンセプトに催され、学生と地域の繋がりを強く持たせ、共に地域を盛り上げようという意識から生まれている。そのため、プランナーのもつ問題意識を少しでも改善できる道を探し、それがこの「よっちょれ」を踊る企画への参加を促す活動である。

【最終的な目標】

石の広場での「よっちょれ」練習会にて共に汗をかき、笑顔になって踊ることの楽しさを共感してもらう。

そして、3月につくば市センター地区周辺にて「学生×地域」をテーマに催される「TSUKUBA 新まつり」のフィナーレ「よっちょれ」総踊り企画に参加する。そこで学生と地域の方々が共に身体を動かし、汗を流し、笑顔になる。お互いの心からの交流を図る。

そうやって、まずは学生と学生が、そして学生と地域が繋がっていく、つくば市へ新たな循環を生み出す。

活動期間

平成22年2月1日～平成23年3月31日

活動計画	～平成 23 年 2 月 21 日	・踊り子募集呼びかけ※当日飛び入り参加許可
	2 月 21 日	・「よっちょれ」練習会@石の広場
	3 月 13 日	・「よっちょれ」で祭りフィナーレ参加@「TSUKUBA 新まつり」
	3 月末日	・活動報告書提出
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	小野 佳織（生物資源学類） 守屋 俊甫（人間総合科学研究科） 吉田 早霧（社会学類） 船山 裕貴（社会学類） 塩澤 彩香（心理学類） 三浦 香織（教育学類） 黒田 朋樹 黒田 昌樹	
T-ACT パートナー	矢澤 真人（人文社会科学部） 柿澤 敏文（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果（実施した活動内容、目標達成度、得られた成果など）

【活動内容】

2 月 3 日	ミーティング
2 月 10 日	ミーティング
2 月 11 日	外部団体への説明会
2 月 17 日	ミーティング
2 月 21 日	企画開催予定日 1 日目—石の広場改修工事のため中止
2 月 24 日	ミーティング
2 月 28 日	企画開催予定日 2 日目—雨天のため中止
3 月 7 日	総合科目 T-ACT にて紹介
3 月 11 日	（震災のため）緊急ミーティング
3 月 13 日	企画開催予定日 3 日目—震災の影響により祭りが無期限順延のため中止

【目標達成度】（その根拠も述べる）

30%—本来の目的であった、「よっちょれ」練習会も「TSUKUBA 新まつり」のフィナーレ「よっちょれ」企画参加も天候や震災の影響で開催できませんでした。それでも、様々な団体さんや皆さんの協力的な人々と関わることで繋がりを作ることができました。また、T-ACT を初めて利用したことにより、その環境と活動ノウハウが少し垣間見れた気がします。以上のことにより、開催できなかった活動でも 0%の達成度ではなく、30%とします。

【得られた成果】

上記したように、たくさんの人々と関わる事ができたことがあります。学内で楽しいことをしていこう！元気なことをしていこう！という力が作用することは大切なことだと思います。今回の震災により筑波大学も多大な影響を受けましたが、だからこそ、時間のある学生が元気に頑張っていかな

ければなりません。今回、まずは学内で互いに手を取り合い、相互作用することができるという事実を経験して、どんどん学外へと広げていけたらいい！という展望が現実に近づきました。

今後の課題

今回は3月13日に開催される予定だった「TSUKUBA 新まつり」のフィナーレ企画のを知った後、これはもっと多くの人・学生で盛り上げなければ意味がない！と感じ、2月1日に企画の申請にあたりました。ですから、とても時間がない中、初めてT-ACTを利用するなど、右も左もわからない中での進行でしたので、難しかったです。もう2,3人中心となって動いてくれるメンバーがいたら良かったと思います。また、雨天時に中止以外になにができるかを検討できたら良かったと思います。

経験者からのメッセージ

樫村先生とお話をしたり、たまたまフォーラムにいた他のプランナーの方と気軽に話せる環境はとても楽しかったです。すごくいい雰囲気なので、思い立ったらまず相談してみてください！一歩を踏み出す勇気があれば、あとは仲間が助けてくれます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

T-ACTに関する感想

もっと具体的に何が利用できるサービスなのかをリストアップされているとこれを利用してやろう！など自発的に動けると思います。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

突撃！隣の学校。～べんきょうじゃない、かかわりありますか？～（10051A）

T-ACT プランナー

松谷 雄太（人間学群教育学類）

活動内容

子どもに勉強を教えたりして、学校とつながるサークルは多く筑波大学にあるけれども、勉強を教える以外で学校とつながって、学生が学校や生徒、教師、学校関係の仕事に就きたい自分のためにできることをやっていけるような環境がないかなとずっと思っていました。

就活を普通の企業志望者はやるけど、学校へ就職したい人の就活はない？それなら作り出そうと思い、これを考えました！

⇒子どもに興味がある！先生になる選択肢を考えている！学校が気になる。

学校で仕事をするカウンセラーになりたい！ etc.. 大歓迎です！

知ることでも何かが変わるはず！

教師の仕事って多忙でいろいろあるけれども、その一つを何か学生を使って楽にできたりできないか？そのことをすること実体験することによって将来先生になりたいと思う人にはビジョンが見えるのではないかな？

話相手に困っている子どもはいないかな。いつでも悩み事を相談できる場所を学生が主体となって作ってもいいのではないかな。居場所がない生徒のために何かできないかな？

筑波大学周辺の中学校へ行って、学校が学生に求めるニーズを調べることが目標！

最終目標は学生がそのニーズを満たすことができるようにすること！

学校に興味がある学生が勉強を教える以外でできることは何かを探る企画です！

活動期間

平成 23 年 3 月 1 日～平成 23 年 7 月 1 日

活動計画

平成 23 年
3 月

- ・活動開始
- ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る

4 月～6 月

- ・活動拠点を定めて、週一回就活開始！ニーズを聞いてみる！
- できれば、ニーズを聞きだし全部わかったら学生ができることを探し、それを実行するまで持っていく。

	7月初め	・活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる
備考欄	まずはニーズの調査から行います！もし、部活動のニーズがなければ活動もできないということでこうしました。そこからたぶんニーズが出てくると思います・・・	
T-ACT オーガナイザー	米倉 元気（心理学類） 田中 宏明（心理学類） 松藤 彩香（教育学類）	
T-ACT パートナー	片平 克弘（人間総合科学研究科） 樋口 直宏（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

・活動内容（しなかった）

・目標達成度（0%）

震災等があり、学校や周囲、自分自身も含め混乱する中、目標を達成するための行動ができなかったから。

・得られた成果

- ・企画を運営する方法を得ることができた。
- ・利害関係をしっかり検討し、企画スタートまで持ち込むことができた。
- ・様々なひとたちと T-ACT を通してつながることができた。

今後の課題

- ・モチベーションの維持
- ・自分のやりたいことと対象との利害関係の調節
- ・メンバー集め等
- ・実態の把握、学校への人脈作り

経験者からのメッセージ

T-ACT は学生のやりたいことを具現化できる他の大学にはないシステムです！なにかやりたいことがあったら、とりあえず相談しに来てみてください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

変化する間もなかった。

T-ACT に関する感想

もっと多くの学生がこのシステムを利用してほしい。そのためには・・・？

もっと教員にこのシステムを利用してほしい。

教員が T-ACT を先導するといいいのかもしれないと思った。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 「それでも運命にイエスという。」上映会イベント（10052A）

T-ACT プランナー 田中 宏明（人間学群心理学類）

活動内容

当イベントは、カンボジアエイズドキュメンタリー映画「それでも運命にイエスという。」の日本一周上映会のコラボレーション企画として行う。辛く困難な状況に置かれたエイズ患者の姿を追ったこの映画の上映会とともに、自分たち独自のテーマに沿ったコンテンツを行うことで、自分の今の状況を受け入れ、「イエス」といえる自分であるかを参加者一人ひとりに問い直してもらい、今後の人生に意図を持って歩んでもらうキッカケを創る。

活動期間 平成23年2月1日～平成23年3月31日

活動計画

平成23年 2月	第一週～第二週 ・活動開始 ・メンバーでMTGを行い、コンテンツ内容、会場などを決定していく 第三週～ ・ポスター、ピラなどによる告知
3月15日	・イベント当日
3月末	・活動反省、報告書を提出する

備考欄

<http://suy.client.jp/index.html/> イベント WEB ページ

T-ACT オーガナイザー

伊地知 毅
安藤 進ノ介
山口 智奈美
吉田 達朗
浅原 和麻
田川 鮎美
中本 望友
吉村 光司
米倉 元気

T-ACT パートナー

結城 俊哉（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

2月中旬：ゲスト決定・依頼、ポスター考案、告知文作成

下旬：会場確保、当日スケジュール確定、ポスター掲示、告知開始
 3月上旬：参加者リストアップ、ゲストとの最終打ち合わせ

・目標達成度（その根拠も述べる）

今企画は3月11日に起こった東日本大震災により中止となり、開催をすることができませんでしたので、達成度としては30%ほどでしょうか。

・得られた成果

多くの方のご協力を得て企画された今企画を実現できなかったのは残念でしたが、オーガナイザーにとって、国際協力とは何か、今を生きるとは何か、ということを考える大切なキッカケになったと思います。

今後の課題

- ・ゲストとの打ち合わせを優先したことで告知開始が遅れてしまった。
- ・コンテンツが話題性のあるものだっただけに、パーティシパントにいかにも広報し、魅力を感じてもらえるかを考慮すべきだと感じた。
- ・外部団体との打ち合わせは労力を使うので余裕を持ったプランニングが必要だと感じた。

経験者からのメッセージ

今企画は3月11日に発生した東日本大震災という不運な出来事により開催することができませんでした。

このような出来事は二度と起こってほしくはないですが、アクシデントが発生したときでも、冷静に最適な選択ができることは重要なと思います。これから企画を提案されるプランナーのみなさんには、ぜひともアクションを完遂していただきたいです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

筑波大生が、国際協力に限らず、何らかのアクションを起こしていくきっかけになっていれば幸いです。

T-ACT に関する感想

T-ACT はもっと多くの人に活用されるべきものだと思います。ふとアイデアを思いついたら、すぐに T-ACT フォーラムへ GO!



UFPFF 国際平和映像発表会選出作品
 カンボジアエイズドキュメンタリー
**『それでも運命に
 イエスという。』**
 制作：LUZ FACTORY 監督：兼田甲太 / 小川光一
 全国一周上映イベント@つくば

あの向井理樹主演映画『僕たちは世界を変えることができない。But, We wanna build a school in cambodia.』の原作者兼田甲太と、映画制作NGO団体『LUZ FACTORY』の小川光一がタッグを組み制作したUFPFF 国際平和映像発表会選出作品『それでも運命にイエスという。』を日本各地、32ヶ所で上映いたします。茨城県では世界を放する3人の特別ゲストをお招きし、講演をしていただきます。

承認番号：10052A

 T-ACT
 コミュニケーションプロジェクト

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 Tsukuba-Lightning-Talk (10053A)

T-ACT プランナー 菅野 卓也 (理工学群物理学類)

活動内容

勉学や課外活動など各方面で活躍する学生はたくさんいると思うので、それぞれの人に Lightning Talk をしてもらい、お互いの情報交換の場としたい。主に学生を対象とし、見学での参加も歓迎する。

Lightning Talk とは、最近流行している、5分で行うプレゼンテーションのことです。

活動期間 平成 23 年 2 月 22 日～平成 23 年 8 月 22 日

活動計画

2 月下旬	活動開始、第一回開催に向けての準備
3 月～5 月	何回か試行をし LT 大会の計画を固めると共に発表者を募集する
6 月～8 月	大規模 Lightning Talk 実施・活動報告書作成

備考欄

主な活動場所：学内の教室

T-ACT オーガナイザー

下 景楠 (知識情報・図書館学類)
山下 薫平 (社会学類)

T-ACT パートナー

池沢 道男 (数理物質科学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

- 2 月下旬 ミーティングを行い、どのような形で大会を開くかの構想を練ると共に参加者集めをはじめめる。
- 3 月 震災のため活動できず。
- 4 月 参加者が少数のため、参加者の更なる募集を計画するが、メンバー多忙により本格的に取り組めず。
- 5 月 4 月と同様。また、活動期間を考慮しこれ以上の参加者募集を断念。

・目標達成度
あまり達成できず

・得られた成果
計画をすることはできたが、それを実行に移すまでの大変さを身をもって体験できた。

今後の課題

参加者が少なかった原因として、

- 1、L.T. (Lightning Talk) を準備し行うという行為は意外と負担になるものである
 - 2、発表・フィードバックのみを行うものであり、いわゆるコンテストにおける賞の設定などがない
 - 3、主催者が学群生であり、知名度が低い・参加することのメリットが少ない
- などの理由から動機づけが生まれにくかったと考えられる。

こういった問題をクリアするモデルとして、23年度学園祭における「院生プレゼンバトル」(賞・副賞の設定をする、学長・副学長の審査もある・主催団体が大きく知名度をあげられた、など) が手本となりうるものであると感じた。

更に、3における知名度を上げるための活動も(ピラ配りなど)考えられたが、メンバーが多忙であること、夏休みを挟むため実質の活動期間が短いということなどの理由から活動を推進することができなかった。

最後に、準備を進めていく上で会を実施しそこで得られるメリットと独学で行った場合のメリットを比較すると、前者の負担が大きくなってしまふことが判明した。これは、アクションを実施する上での大きな課題となってしまった。

経験者からのメッセージ

アクションを企画し実行することはとても大変ですが、どの様に大変なのかはやってみないとわかりませんので、プランナーになることはこれから生きていく上でとてもいい経験になると思います！

運営者側から見たパーティシパントの変化

特になし

T-ACT に関する感想

特になし

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

学びをサポートします！〔ポータルサイト〕～筑波大学生が関わる企画・学生対象企画を紹介します～（10054A）

T-ACT プランナー

青山 真弓（生命環境科学研究科）

活動内容

【背景】

学生のうちにボランティアや講演会やワークショップに参加することは、自己研鑽につながり将来への糧となっていこう。そのような機会を提供する団体が筑波大学には多く存在する。しかし、現在それらの活動情報が Web 上で分かりやすく集約・提供されている場はあまりない。特に、教育関連の情報などは運営側からのニーズの割に公開情報の場が少ないと感じている。（スケジュールの活用を考えている）

今回、『筑波大学教育系ネットワーク』設立を提案した理由には 2 つある。

①情報を一元化することで、参加者は自分に合った活動を探しやすくなる。掲載内容は気軽に参加出来る情報やイベントを掲載していく。その結果として認知度が上がり受け入れ団体活動への活性化にもつながる。

②団体をネットワーク化しお互いに情報交換する中で、活動への相互乗り入れや、活動の相互補てん、広報活動協力など新たに持続的な運営を進めていける。

このように、志し高く活動している団体のサポートが出来るような仕組み作りが今回の提案の主たる狙いである。

【目的】

この活動には大きな目的が 2 つある。

- ①“学び場”の提供
- ②元東京教育大学という事もあり、教育に関する切磋琢磨出来る情報を学生に提供する事

【重点的に進めていく企画】

■先生ボランティア（近隣の小・中学校での学生ボランティア）〔つくば市からの情報〕

↑スムーズに学生が参加できるソフト面でのサポートを目指している。

■参加者&スタッフ募集

（ソーシャル思考の高い活動をしている団体等へのサポート）〔学生企画〕

↑筑波大学生が立ち上げた活動（大学に認められている活動）などへのサポート。

■教材開発作り（特に、勉強と社会が繋がっている事を体感できる参加型教材）

↑今までの一方的な授業手法だけではなく参加型授業手法を学ぶ場&教材開発の場提供

■“学び場”提供

↑筑波大学内には、有益な情報が溢れています。

インターネット上で見やすく情報提供。

また、大学生対象の情報

地域の小・中学校や市役所企画の情報や市民活動センターからの信頼ある団体企画のイベント情報など

（企業さんからの学びとなるであろう情報〔就活フォーラム内の講演会〕なども先生と相談の上で流せたらと思っています）

【コンセプト】

これから学びをスタートしたい筑波大学生へ

活動期間	平成 23 年 3 月 1 日～平成 23 年 8 月 31 日	
活動計画	3 月	・活動開始 ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る ・教育系団体に声をかけ説明会の段取りを行う
	4 月	新入生や在校生向けに教育活動を行っている団体の説明会を開催
	5 月	T-ACT で活躍されている団体や他団体とよりスムーズな情報公開を進める（掲載内容について先生などと相談する体制を整える）
	6 月	・学内で許可されている掲示版の内容を Web 上に掲載する仕組み、学生から情報を提供してもらう仕組みを構築する
	7 月	・様々な流れに関してマニュアルを作成する
	8 月末	・サークル化を目指す
備考欄	T-ACT でサポートしている団体が企画するイベント情報等もグループカレンダーで共有させてください。	
T-ACT オーガナイザー	佐藤 貴英（数理物質科学研究科） 倉世古 恭平（情報科学類） 内藤 達也（人文学類）	
T-ACT パートナー	唐木 清志（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

5 月 11 日 ミーティング

私たちの活動（TENT）

>学びをサポートします！〔ポータルサイト〕

～筑波大学生が関わる企画・学生対象企画を紹介します～

以下 TENT と記載します。

と同じく Web 上でポータルサイトを運営したい団体（TISA）

> TISA は筑波大学の留学生と日本人学生の交流の場を提供する団体。

と一緒に、ポータルサイトのあり方を模索。

6 月 22 日頃～教育系の活動を紹介する展示コーナーを 3 学粉クリ前の共同スペースに設けた。

・目標達成度（その根拠も述べる）

まだまだ、目標達成とは言えない状態です。

認知されていない事もありますが、より多くの活動を分かりやすく紹介出来る新しいサイトが必要だと感じています。

・得られた成果

T-ACTに参加し、共感して頂ける方と出会いました。

今後の課題

T-ACTの活動内容を分かりやすく紹介できるようなサイトは必要ではないでしょうか？

T-ACTのような新しい試みを意欲的に取り組んでいる学生の活動を Web 上でもう少し繋がれるように出来たらと思いました。

経験者からのメッセージ

持続可能な仕組みを常に心がける事

運営者側から見たパーティシパントの変化（参加者は変化した？）

T-ACTに関する感想

T-ACTの仕組みについてもっと意見を提案し、改善していけるような動きがあると良いと感じました。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 ビジネスセミナー ～聖書に隠された成功法則～（途中で取り下げ）（10055A）

T-ACT プランナー 大竹 英理耶（芸術専門学群）

活動内容

○活動目的

- 1、聖書の誤解を解く
- 2、聖書を純粋な本・参考書として広く知ってもらう
- 3、実際に聖書をどう社会に生かすか、学ぶ

多くの日本人は聖書＝宗教と考えていると思います。

私も嘗てそうでした。しかし、本当は聖書と宗教は別物です。聖書を読んだからといってキリスト教信者になるわけでもないし、何かマインドコントロールを受けるわけでもありません。

また、聖書はキリスト教信者だけが読む特別なものでもないと思います。

孔子の「論語」や日産社長カルロス・ゴーン語録集などと同じように、良く生きるための参考書の一つであると思います。

多くの学生に聖書のことを「本」として知ってもらいたいです。

○活動内容

聖書に書かれてあることを人生やビジネスに生かして成功された方を招き、講演会をしていただきたいと考えています。

○講師紹介（候補者が三人います。この中の一人をお願いします。）

* 阿部 正紀 東京工業大学名誉教授、物理学者
「科学と信仰 その本質と進化論」

* 香山 壽夫 東京大学名誉教授、建築家
「偉大なデザイナー 建築家の視点からみた聖書」

* 大垣 昌夫 慶應義塾大学 経済学部 教授
『世界観と行動経済学』

布教活動は絶対に行いません。

○講演内容

講演内容は講師の方によってそれぞれなので未定です。

私が講師の方に話してほしいと思っていることは、三つの活動目的と同じです。少しでも聖書のイメージが変わればよいと願います。

私は最近聖書を読み始めたのでまだまだ勉強不足なのですが、

聖書には、幸せになる（天国へ行く）ためには、俗世の欲（権力、富）を捨てなさいというようなことが書いてありました。

富を築き、社会での地位を得るためのビジネスとは真逆のことが書いてある聖書が、どうしてビジネスに生かせるのか、単純にセミナーとしても面白い企画だと考えています。

活動期間	平成 23 年 5 月 13 日～平成 23 年 10 月 13 日	
活動計画	平成 23 年 5 月	・メンバー集め・打ち合わせ
	6 月～7 月	・講師依頼
	8 月～9 月	・広報制作・開始
	10 月	・講演会
備考欄	参加費 500 円くらいを予定	
T-ACT オーガナイザー	岡 ともみ (芸術専門学群)	
T-ACT パートナー	中村 潤児 (数理物質科学研究科)	

活動報告

活動成果

【活動内容】

- 2 月下旬 パートナー／オーガナイザー探し／講師探し
- 3 月上旬 東日本大震災発生

大震災発生後、私たち BEST は復興支援活動をしていくことに決めた。
 その活動に集中するため、このビジネスセミナーの企画は取り下げさせていただくことになった。

今後の課題

- ・聖書を少しでも取り扱おうとすると、ものすごく神経を使わなければいけないこと
- ・本当にこの企画はやる意義があるのか、私たちサークルにとって、学生にとって、意味のあるものなのか、見極められていなかったこと

経験者からのメッセージ

運営者側から見たパーティシパントの変化

T-ACT に関する感想

報告するのをすっかり忘れてしていました。
 申し訳ありません。

先生方には本当に感謝しています。
 ありがとうございました！

卒業までに上手く T-ACT の制度を利用して、何か人の役に立つようなことをしたいです。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 Learning For All ～新しい教育×就職×社会のカタチ～ (10056A)

T-ACT プランナー 杜 迅 (理工学群工学システム学類)

活動内容

Google, Appleなどを抑え、全米就職したいランキング1位に輝いた教育NPO団体 Teach for America (TFA) をモデルとした Learning For All (LFA) という団体を立ち上げ、現在日本全国にその活動を広げようとしている方(松田悠介さん)をお呼びしてその活動を知ってもらうのが目的です。

願わくば、つくばでもこの活動を進めてもらえるような、そんなキッカケになればと思います。

新しい教育・就職・社会のかたちを多くの人に知ってもらって、そして考えてもらえたら幸いです。

Teach For America(TFA) について

1990年に当時プリンストン大学の4年生だったウェンディ・コップによって設立された教育NPO。教育機会の不平等やその他教育問題の解決に情熱のある将来有望な人材に従事させることをミッションとしている。2010年度の全米文系学生就職先人気ランキングではGoogle、Appleなどを抑えて1位を獲得した。TFAのモデルはアメリカ全土だけでなく、イギリス、インドをはじめ、世界16カ国に展開している。

Learning for All (LFA) について次世代を担う志高き大学生・情熱のある若き社会人を、効果的な学習機会が得られない子どもたちがいる地域・学校に教員として派遣することで、教育環境を立て直すと共に、将来様々な分野で活躍できるリーダーを育成することを目的とした団体。
(<http://www.learningforall.jp/>)

スピーカー：

松田悠介 (Learning for All 代表理事)

1983年千葉県生まれ。2006年日本大学文理学部体育学科卒業後、体育科教諭として都内の中高一貫校に勤務。体育を英語で教えるSports Englishカリキュラムを立案。部活始動では都大会の予選ですら勝つことができなかった陸上部を全国大会に導く。

その後、千葉県市川市教育委員会教育政策課分析官を経て、2008年9月、ハーバード教育大学院修士課程(教育リーダーシップ専攻)へ進学し、修士号を取得。

卒業後、外資系戦略コンサルティングファームPricewaterhouseCoopersにて人材戦略に従事し、2010年7月に退職。Learning for Allの創設代表者として現在に至る。

【講演内容】

- ・ TFAの活動を紹介
- ・ 日本ではどのように活動していくのかについて講演

活動期間	平成 23 年 2 月 23 日～平成 23 年 3 月 4 日	
活動計画	平成 23 年 2 月 22 日	・活動開始
	2 月 23 日	・メンバーを集めて企画
	3 月 4 日	・イベント開催
	3 月中	・活動終了・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。
備考欄	http://www.learningforall.jp/	
T-ACT オーガナイザー	長田 瞳（社会学類） 未永 加奈（社会学類） 林 裕行（教育学類） 北村 百代（教育学類） 下村 理愛（教育学類） 重原 美緒（教育学類） 矢田 晃一（社会工学類） 鮎川 亮太（社会工学類） 田中 みさよ（芸術専門学群） 成瀬 洋美（国際総合学類） 赤川 朗（数理物質科学研究科） 大曾根 圭輔（システム情報工学研究科） 霜越 安文（卒業生） 村 文孝（卒業生）	
T-ACT パートナー	久保田 優（就職課） 荒川 麻里（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

- 2 月中旬 メンバー集めとタスク分担
- 2 月 25 ～ 26 日 京都で松田さんと顔合わせ&打ち合わせ
- 2 月 30 日 NHK の人と打ち合わせ
- 3 月 1 日 ラジオつくばに出演
- 3 月 4 日 講演会

- ・目標達成度（その根拠も述べる）
90 点

運営メンバーの言う、いろいろな人を巻き込むことができたと思う。

140 人という参加者の中には、現役高校教師、中学教諭、塾の先生、一般の人、様々な専門の学群生、院生、卒業生などがいて、とても分野の広い人たちが呼べた。これにより多くの人に教育に関心を持ってもらうことができた。

中には石川県から訪れた方もいらした。

つくばから新しい教育、社会のシステムを作るという目標はまだ達成していないため、100点満点にはしなかったものの、今後に期待したいという意味で90点をつけた。

でも、ゲストの一人である五十嵐さんと知り合えたおかげさまで震災時、多くの学生がつくば震災ボランティアに参加したり、情報を回しあうことができた。

松田さんも、今後の計画としてLFA 筑波支部を立ち上げることに意欲的になっている。

・得られた成果

運営メンバー同士の交流

イベント運営の方法

マネージメントのやり方

講演者やゲストとのつながり

日本の教育のこれからについて多くの人にも考えてもらえたと思う

まだまだ成長が必要だと言うことを学んだ。

今後の課題

【運営に関して】

- * 講演が始まってからの運営でそわそわしていた。
- * 自分の持ち場を守ってしっかり全うする。
- * 人の仕事は人に任せる。
- * 大きな問題は起きなかった。
- * ツイッターは3A202 教室には向かない。
- * ワイヤレスマイクがピンマイクと同じと知らない人がいた。
- * ワイヤレスマイクを返却したことで質問時のマイクがなくなった。
- * 運営のリーダーをつくれれば良かった⇒今回の規模ではふさわしくない？
- * ミーティングで役割分担をしっかりすれば良かった。
- * ミーティング時に決めた役割と当日ふられた役割のブッキングがおきた
- * シェアすべき部分は事前にシェアして、当日はその持ち場の担当が判断する。
- * 事前にファシリや前説の確認をすべきだと思った。
- * みさよのポスターの顔写真がでかいのがよかった。
- * パネルの仕組みとして質問の選別法について事前に考えれば良かった。⇒選抜した質問をパラジさんに渡してそれを事前に入力してこちらから出せば良かった。
- * パネルの流れをメンバーも理解していたはずだったけど、まだ不十分だった。もっと目的を明確にして行動すれば良かった。
- * 京都にいったことは機能した。仲良くなれた。
- * メーリングリストがよく機能した。
- * おのおののノウハウがフルで使えた。
- * 告知がうまくいった。メーリス、ビラ、ツイッター、mixi、授業で宣伝、ポスター設置、ツイッター、中高への告知、全員で告知を頑張れた。
- * やりつくしたからビラ配りがたくさんできた。
- * すごい広い範囲に広まった。
- * NHK が機能した。
- * 片付けがスムーズだった。
- * イベントをやって終わらなかった。報告書や振り返りをして完了するのが良いと思った。
- * 振り返りのミーティングが今に生きた。
- * 一人一人が自分の持ち場に責任を持って、役割が機能していた。
- * みんなが頑張ってたから、自分の仕事も「やったるで！」っていう気持ちでできた。

- * 自然に自分の役割がもてる空気ができていた。
- * メーリングリストで、運営同士の理解がとれた。
- * 学生だけでなく、教育が狂いだけでなく、いろんな人が来てくれた。
- * 当日来場した人数をはっきり把握できていなかった。⇒できたら
- * 公演中の運営の座る位置を点在させて／決めておけばよかった。
- * Ust 配信で来れない人に見せることができてよかった。
- * 目的の上で呼ぶ人を決める等、段取りしっかりした方がいい。⇒今回は出来なかった訳ではない。
- * 遠方への対応を事前にくれたら良かった。帰りのバス等...
- * レジュメがしっかりしていた。やる気の出るレジュメだった。
- * びっしり着席させられた。
- * ひっちさんの完璧なレジュメは多くの人に影響した。
- * 迅はムードメーカー？
- * ひっちさんが仕事をまわして動かしていた。
- * トムがタイムキーパーとしての仕事を全うしていた。
- * どの部分に重きを置いて、どの部分が削って良いのかがはっきりしていれば良かった。パネルにおいて言えること
- * 担当者が仕事を任せっきりになった。
- * 実際に来る参加者の質を考えられなかった。⇒最初に「こういう人を呼びたい」と決めていなかったことはある。
- * 運営の質が講演会の質を決める。⇒今回はうまくいった。
- * ミーティングやりますっていうのをもっといろんな人が言えたら良かった。
- * 先輩に対する憧れが対抗心になった。
- * 同級生の同志ができた。
- * 迅は肯定することで盛り上げるリーダー
- * ひっちさんは全員の手綱をもつリーダー
- * 矢田さんはお母さんのように全員をフォローするリーダー
- * 京都に行ったときの内容を全体にもシェアすれば良かった。
- * パネルディスカッションを任せすぎた。事前にパネルの流れの共有がもっとできた。
- * パネルをただやりたいからやるのではなくて、意図をきちんと共有した方がよかった。
- * ミーティングの人数が少なかった。⇒いかにメンバー全体に共有すべきことを伝えるのか、周知するのかについて苦労した。
- * 朝ミーティングに集まらなかった。
- * 今までのリーダーらしいリーダーとは違うリーダーがたくさんいた。
- * ぎりぎりまで告知をしながら、
- * みんながみんな気配りができていたのはすばらしかった
- * 自分からできることを率先して動いていたのはよかった。
- * 講演会までの運び、過程が可視化できればよかった。
- * 全員の予定、全員の忙しさが分かるものがあれば良かった。
- * 個人の心境などを共有したりするのがよかった。会ったり、メーリスなど。
- * メーリングリストの反応がきちんとあるのがよかった。
- * 共有する仕組みについて改善点があった。共有ができればチェックするドキュメント等で対処できた？
- * パネラーのドキュメント等をみんなで出来れば良かった。
- * ターゲットをよくばりすぎた？いろんなニーズがあって、その分、パネルも難しくなった。
- * 軸がぶれなければよかった。
- * いろんなニーズを軸に向かわせれば良かった
- * LFA という手段に繋がれば、拡散しなかったかも？
- * いろんなニーズがあったとしてもそれに応じたやり方がある。それをみんなで考えられたら良

かった。

経験者からのメッセージ

このようなイベントは運営メンバーが質を決めます。
如何に運営メンバーのモチベーションをあげて
そして、ともに目標に向かって活動できるか
また、自信を持って自分の仕事をこなせるか
さらに、主体性を持って行動できるか
このようなことが大事になってきます。

また、ここでしか出会えないすばらしい先輩、後輩のつながりを
大事にしてください。

本当に多くのことを学べるはずですよ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

- ・自分のやってることに間違いは無かった。と感じている人がいた。
- ・NHK に密着取材される学生もいた
- ・LFA に興味をもった人がいた
- ・ツイッターなどで議論がたくさん交わされて、参加してない人までもがこのイベントを知ってるということになった
- ・遠くアメリカからも Ust をご覧になっている方もいらっしやった。

T-ACT に関する感想

ポスターの設置場所の事前説明と場所がわかる地図など。

今回、僕は友人の繋がりに恵まれて、経験豊かな先輩と出会いました。このような家に件豊かな先輩方のアドバイスが得られるシステムとかがって作れないですかね？僕もお手伝いします。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 カフェ libra ～図書館・カフェ・書店を運営しよう！～ (11001A)

T-ACT プランナー 赤山 みほ（情報学群知識情報・図書館学類）

活動内容

【問題意識】

- 書店と図書館の利害が対立していることについて

図書館は無料貸本屋と認識されており、それによって書店は図書館に対して良くないイメージを持っていると言われている。図書館と書店の共存モデルとして「図書館・カフェ・書店の複合施設」の運営の可能性を探りたい

【企画立案の経緯】

図書館と書店の利害が対立していることを授業で学び、それらの問題を自ら解決したいと考えたため

【企画内容】

- 疑似図書館・カフェ・書店の複合施設の運営

疑似図書館…賛同者が本を持ち寄り、疑似図書館を運営する

カフェ…飲食可能スペースの提供

書店…書籍部隣接のスペースを活用し、書籍部との共生を図る

【最終的な目標】

- 活動の成果を11月に行われる図書館総合展で発表し、図書館関係者に対し図書館と書店の共存の新しいモデルを提示すること

活動期間 平成23年2月21日～平成23年11月14日

活動計画	平成23年 2月	・活動開始 ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
	3月	・活動拠点を定めて、開設の準備
	4月～6月	・開設
	11月	第13回図書館総合展／学術情報オープンサミット2011へ参加 (日程 2011年11月9日(水)～11日(金)：場所 パシフィコ横浜)

備考欄 カフェについて：季節営業扱いにするため、3カ月以下の営業とする

T-ACT オーガナイザー 本田 咲美（知識情報・図書館学類）
山下 聡子（知識情報・図書館学類）

活動報告

活動成果

【活動内容】

2月27日	ミーティング
3月3日	ミーティング
4月上旬	池内先生へ交渉
4月中旬	学生課に場所使用の交渉
4月下旬	ミーティング
5月上旬	ミーティング
6月上旬	ミーティング

・目標達成度

ほぼ達成できなかった。

理由：開催する場所を確保できなかった。

・得られた成果

参加したいと言う人を集めて話し合う事は出来た。

食べ物を扱う、ということで保健所の許可が必要であることがわかった

今後の課題

- ・食べ物を扱うには保健所の許可が必要なこと
- ・開催場所の確保は学生課の許可が必要なこと
- ・チームを組む際には役割分担を明確にしておく必要があること
- ・震災の影響でやる気がなくなってしまった
- ・継続して話し合う事が必要

経験者からのメッセージ

思い立ったら一気にやってしまったほうが良い！

運営者側から見たパーティシパントの変化

T-ACT に関する感想

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 筑波大学グッズを作ろう！ TGP Tsukuba-Goods-Project (11002A)

T-ACT プランナー

ほうのき
朴木 彩乃（生命環境学群生物資源学類）

活動内容

目的：現在販売されているグッズは高品質・高価格であり、受験生や学生が気軽に買いづらく、お土産になるグッズが少ないので学生の視点で購入しやすいグッズを考える。

対象：筑波大学を見学しに来た高校生や筑波大生

最終目標：紫峰会と連携し、デザインの企画～販売、宣伝を行う
販売運営や利益は紫峰会に委託。学生はアイデアや発売後の広報などを行う。
気軽に買えるグッズを創ることによって、大学のPRや学生の大学に対する何らかの意識向上も期待できる。

活動期間

平成23年3月9日～平成23年9月9日

活動計画

平成23年 3月～4月	・メンバー募集
5月	・購入層などのマーケティング
6月～7月	・商品の決定、デザイン募集、決定
9月	・発売

備考欄

2012年度入試までに販売を間に合わせたい。
商品内容としては、
・シャープペンやボールペン
・クリアファイル
などを考えており、価格帯は500円以下（100円から～）、「手軽に買える」ものを考えている。また、現在筑波大学のブランディングとの連携も視野に入れて活動したい。

クリアファイルのデザインに関しては、学内に公募し、その中から選びたいと考えている。

T-ACT オーガナイザー

春田 智穂（数学類）

T-ACT パートナー

活動報告

活動成果

- ・筑波大学グッズの考案
- ・グッズ作りに関係しそうな人（紫峰会、学生課）に話を聞く
- ・授業以外の活動はなかった。

今後の課題

紫峰会の人に数年前は学生の意見を求めてグッズをつくりたいと考えアイデアを募集していたが、現在をつくっても売れない、紫峰会側もグッズの販売に消極的？という話をきき、紫峰会でのグッズ作りは難しく、またUTグッズ以外で大学グッズを創ることはできないので、実際に授業以降のグッズづくりへの計画は進まなかった。

経験者からのメッセージ

具体的な活動はバックアップがないと難しい企画もあったと思います。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

特になし

T-ACT に関する感想

授業からつなげたかったが、実際の活動はできませんでした。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 『つくば丼』 プロデュース計画 【出直し第1弾】 (11004P)

T-ACT プランナー 佐藤 純 (人間総合科学研究科 講師)

活動内容

筑波大学名物「つくば丼」こんなものがあったら、一度は食べてみたいと思いませんか？旅行の思い出に食べ物の話が欠かせないように、食はその場所と強烈に結び付きます。しかし、今の筑波大に関係する皆が共有できる食文化があるのでしょうか？ありません。でも今作れば、10年後には卒業生と受験生、さらには留学生がともに話せる文化にできるかもしれません。創りましょう。みんなで「つくば丼」を！

具体的には、「つくば丼」レシピコンテストを行います。1次審査委員を、学生代表数名、留学生代表、学生生活支援室長（未承諾）、栄養学の先生、芸術系の先生、食堂のコックさん等の方々に依頼し、「美味しい、新しい、ヘルシー」な丼のレシピを選んでいただきます。

そこで選ばれた2～3種類のレシピを、実際に作れるかどうか、利益が出るかどうか、などを専門の方に検討していただき、商品化してもらいます。

本企画のメインは、学園祭出店です。そこでの売り上げや感想も含めて検討し、最終的に最優秀つくば丼を決定します。

最終的に選ばれた「つくば丼」は、ご協力頂ける食堂、飲食店で商品としてメニューに加えてもらいます。権利等は行使せず、「筑波大学」や「つくば」の名物として広く使ってもらうことに主眼を置きます。細かい点については弁護士に相談します。

レシピ開発者の名前（ニックネーム可）は、レシピとともにホームページ（www.298don.com）で永続的に公開される。審査協力頂いた飲食店は、「元祖」を名乗ることを許可します。

活動期間 平成23年4月15日～平成23年10月15日

活動計画		<ul style="list-style-type: none"> 承認後すぐに活動開始 審査員候補者の勧誘、レシピコンテストの広報
	5月上旬～7月中旬	<ul style="list-style-type: none"> 「つくば丼」レシピコンテスト レシピ募集
	5月	<ul style="list-style-type: none"> 学園祭出展準備
	8月上旬	<ul style="list-style-type: none"> 第一次審査（レシピのみです。調理はしません）
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 試作品完成
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 数品を学園祭にて販売（そこでの売上・感想も審査対象）
	10月末	<ul style="list-style-type: none"> 最終発表 表彰 広報 活動終了・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄	今回は、昨年度の反省を踏まえ、すでに何人かのオーガナイザー候補者を見つけてから申請をしております。あらためて出直しますので、よろしくお祈いします！ http://www.298don.com/
T-ACT オーガナイザー	飯尾 充栄子（心理学類） 井上 雄貴（心理学類） 上條 菜美子（心理学類） 北島 沙希（心理学類） 酒井 雅江（比較文化学類） 赤堀 敏也（人文学類） 樋口 成彩（芸術専門学群） 明本 彩美（比較文化学類） Wong Chew Tat（社会システム工学専攻・留学生）
T-ACT パートナー	

活動報告

活動成果

【活動内容】

（申請前）

- 3月2日 初回ミーティング（構想の共有とメンバー募集計画）
- 3月8日 T-ACT プラン（本企画）を申請
- 3月11日 震災（・・・頓挫するかと思いきや）
- 4月1日 T-ACT 承認
「こんな時こそ！」ということで、T-ACT から承認。
- 4月13日 第2回ミーティング（新メンバー追加）
この段階で、コアメンバーがほぼ確定。
学生団体「WeM」結成。
以降の計画は、コアメンバーによる数知れない話し合いにより企画・運営が進められていった。
- 4月25日 総合科目でのメンバー募集（事前にチラシ作成）
- 4月下旬 レシピコンテストの具体案が固まってくる。
第二次審査の審査員候補者へのオファーが始まる。
同時に、企画支援者（カンパ）の募集も始まる。
- 4月28日 カスマグループ「『私の企画』応援します！」に、「つくば井と世界の井を食べちゃおう！」の企画申請。
- 5月5日 つくば井 web サイト公開（<http://www.298don.com>）
「つくば」と「つくば井」のイメージアンケート開始。
- 5月20日 モバイルサイトも公開（<http://www.298don.com/m/>）
- 6月1日 つくば井レシピコンテスト開催（～7月20日）
ポスター、チラシ（応募用紙付）を作成。
ポスターは大学各所をはじめ、スーパーや店舗などに、チラシは近隣の各家庭にポスティング実施（3000部）。
twitter とブログでも広報開始。
- 6月5日 ラヂオつくば出演（飯尾、北島、井上）。
- 6月上旬 カスマ企画内定獲得
- 6月24日 第19回「『私の企画』応援します！」発表会参加。

- (佐藤、井上、Chew Tat3名の参加。茨城新聞で報道)
カスミ店舗でもレシピコンテストポスター宣伝。
- 6月27日 英語版 Web サイト公開。
- 7月上旬 レシピコンテスト締切延長(7月31日まで)
- 7月31日 計57のレシピが投稿。
- 8月上旬 WeM スタッフによる第一次選考。10作品に絞る。
- 8月下旬 第二次審査開始。
審査員は以下の通り。
西川 潔先生 筑波大学学生担当副学長
加賀 信広先生 筑波大学学生生活支援室長
五十嵐浩也先生 筑波大学キャリア支援室長
白川 友紀先生 筑波大学アドミッションセンター長
藤井さやか先生 筑波大学 システム情報工学研究科
田中 順子先生 筑波大学 人間総合科学研究科
北澤 徳之 氏 紫峰会職員
竹山 氏 筑波大学 第二エリア大食堂
小平 氏 筑波大学 第三エリア大食堂
来栖 氏 飲食店「RanRan」店長
- 8月31日 第一次審査結果発表(Webにて)
- 9月20日 第二次審査結果発表
決勝戦に残った3作品は以下の通り。
「つくねと野菜のヘルシーな井」
「パンの街つくばの『パン井♪』」
「豚肉のブルーベリー煮込み井」
- 9月下旬 候補レシピ3種の試食を繰り返す。
オリジナルポスターとチラシの販売。
- 10月6日 カスミの企画プレス発表。
この発表により、以下の報道がなされた。
10月8日「つくば井:3候補を選考大学祭で試食販売し決定」(毎日新聞)
10月12日「つくば井:筑波大から新名物を」(毎日新聞)
10月16日「つくば井で国際交流」(茨城新聞)
企画向けのポスターも公表され、カスミ全店舗で宣伝。
- 10月8日~10日 学園祭(レシピコンテスト決勝戦)
3日間で440食が販売された。
当日スタッフは20名以上が参加。
新聞報道を見た一般参加者も多かった。
10日の夕方、優勝レシピが決定。
優勝は、「つくねと野菜のヘルシーな井」
- 10月中旬 「つくば井と世界の井を食べちゃおう!」の準備。
企画の中身は、つくば井と世界の井(マレーシア、インドネシア、中国の井料理)
を一般公募された参加者とともに作り、子どもたちは世界各国の遊びを体験し、国際交流を図るというもの。
その実施のため、筑波大学の留学生6名と、つくば市在住のインドネシア出身の主婦の方に協力してもらい、料理や遊びの準備を進めた。
- 10月31日 茨城放送からの取材。生放送。
- 11月5日 事前準備。買い出しと会場設営。
- 11月6日 カスミ企画当日。場所はカスミつくばセンター。雨。
8:00 準備開始。

- 9:30 受付開始。
15組の予定が、キャンセルあり13組が参加。
- 10:00 開催のあいさつと趣旨説明。
- 10:30 イベント開始。
「調理班」と「遊び班」に分かれ、それぞれ活動。
「調理班」では、つくば井、焼き豚井（マレーシア）**Rendang**（インドネシア）、南の中華風井を、それぞれグループに分かれて作った。
「遊び班」では、「アラウンドザワールド」（メキシコ）、「しっぽ取り」（ナイジェリア）、「ユンノリ」（韓国）、「消しゴムゲーム」「王冠ゲーム」（マレーシア）、「ボードゲーム（豆を使った）」「ゴム飛び」（インドネシア）、「ジャンケン」（ウクライナ）の8種類の遊びを紹介し、遊んだ。
- 12:30 会食。
- 13:00 つくば井表彰式。
- 13:20 記念撮影。
- 13:30 閉会。
なお、当日はスタッフは揃いの「つくば井Tシャツ」を着用し、参加者は記念品として料理のレシピ集と、オリジナル箸を持ち帰ってもらった。
会場にはACCSも取材に来ており、当日の様子は後日放映された。
- 11月11日 カスミの広報紙「チャーぶる」にレシピコンテストの様子と、つくば井レシピに関する記事が掲載。
- 11月14～20日 「つくばダイアリー」内「ズームインつくば」にて「つくば井と世界の井を食べちゃおう！」の様子が放映された。
- 11月17日 打ち上げ。これにて終了。

・目標達成度

【120%】

プランナーの妄想から発案されたレシピコンテストが、学生たちの力によって具現化することができた。学園祭のレシピコンテスト、カスミ企画ともに多くの協力者にお力添えを頂き、実施することができた。メンバーの実力以上の力が発揮できたのではないと思われる。

・得られた成果

- 筑波大学発のつくばの名物「つくば井」。
- 筑波大学およびつくば市民の「つくばへの愛」。
- 筑波大学生の潜在能力の高さに対する再認識。

今後の課題

まず、複数の企画を一連でおこなうプロジェクトであったため、スケジュール設定が難しかった点が挙げられる。しかし、オーガナイザーが密に打ち合わせを行い、準備を進めたおかげで、大きな予定変更は免れることができた。実施にあたっては、学園祭およびカスミのイベントにおける当日スタッフの調整がイベントの間際までなされた。しかし、当日急ぎょ協力してくれた人もいたことなど、多くの人のサポートによってそれぞれの企画自体は、問題なく実施された。

今後の問題は、レシピコンテストによって選ばれた「つくば井」の商標登録をどうするかという点にある。法律相談も利用させていただいたが、法的、経済的な問題が関係してくるので、今後慎重に検討していきたい。こうした問題は、社会と関わりあいをもつ企画においては必ず直面するものと思われる。

経験者からのメッセージ

企画名の中に【出直し第一弾】にもあるように、この企画は、以前に計画だけして実施できなかつ

た企画をやり直したものです。前回実施できなかったのは、協力者が集まらなかったことが理由です。しかし、今回出直すことができたのは、前回の企画を耳にし、今回協力を申し出てくれたオーガナイザーのおかげでした。そこから輪が広がり、素晴らしい多種多様な能力を持ったオーガナイザーが集結し、企画の実施にこぎつけたのです。彼らとは、この企画がなければ決して出会うことはなかったと思います。しかし考えてみれば、一度不発に終わった企画を出していなければ、この【出直し第一弾】はなかったと思うと、最初の企画もまったくの無駄ではありませんでした。むしろ、そこから始まったと言えます。

ここで得た教訓は、「まずはやってみること」です。失敗と思われたことも、長い目で見ると実は失敗でない可能性もあるということです。「具体的じゃないけど、こんな企画やってみたいな」「でも、そんな企画で人が集まるのかな?」「あまりうまくいかないかもしれないし」などと、心のどこかでムズムズしている人がいたら、まずは企画のエントリーだけでもしていただくことをお勧めします。その企画は、計画不足で予定通りにできないかもしれませんが、そもそも実施に至らないかもしれません。でも、きっとエントリーして、一步を踏み出すことで、少なくとも一步分は新たな地平が見えてくると思います。ぜひ、一步だけ進んでみてください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントの人とはそれまで接点がないので、あまり変化について知ることができなかった。しかし、オーガナイザーは確実に変化していたように思われる。企画を検討していけば、メンバー間で異なる意見を持つことが当然であり、その葛藤を解消しなければ企画は実現しない。調整役のオーガナイザーは、そうした過程の中で徐々にリーダーシップを発揮し、各系の担当者はそれぞれの責任を果たすとともに、必要に応じて周囲への協力を要請し、チームとしての体制が作られていったように見える。

T-ACT に関する感想

T-ACT については、来年度以降もぜひ継続してほしいと思う。しかし、運営委員の負担が大きくなりすぎない形で実施することが必要であると思われる。また、T-ACT に対する認知度は高まったものの、誤った認識を持っている例もあるため、今後も継続的に広報していかなければならないと思う。さらに、今回の企画を広報するに当たり、T-ACT についても宣伝しようと各メディアで話したのだが、取り上げられることは少なかった。どうしても企画の内容に関心が集まるため、その母体である T-ACT 自信には目が向きにくいようであることが分かった。その点も、今後の継続性と関係してくるポイントなのではないかと思われるので、ご検討いただきたい。



T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 沖縄空手を体験してみよう！（11005P）

T-ACT プランナー 湯川 進太郎（人間総合科学研究科 准教授）

活動内容

空手というと、K-1 や極真空手（フルコンタクト空手）、あるいは寸止め空手・防具空手など、いずれにしても殴り合い・蹴り合いの競技試合（組手）をイメージする方が多いと思われますが、本来の伝統的な武道空手は、こうした「自由組手」はほとんどまったく行いません。伝統武道としての空手は、一連の攻防動作をつなげた「型」の反復稽古を、呼吸法を伴いながらじっくりと行うことによって、身体を練ります。沖縄発祥の伝統的な空手の基本的な型を体験することにより、東洋の伝統的な身体文化に触れ、呼吸法によって健康増進につながり、ひいては護身術も身につきます。学生や教職員の方々、また特に外国人留学生の方々が、スポーツとは異なる、日本の真の武道的身体文化に触れる機会となればと思い、企画いたしました。

活動期間 平成 23 年 3 月 10 日～平成 23 年 9 月 8 日

活動計画

空手は、まずは一度体験してみることで、そして肌に合えば続けていくことが大切ですので、定期的に稽古会を催すことが肝要です。そこで、興味や感心のある方が、その定期稽古会に自由に参加する、という形式が良いと考えています。

毎週木曜日 18:00～19:00
第二エリア B 棟 4 階の空きスペース（2B411 と 2B412 の間）

<http://mindful-karateka.blogspot.com/p/shito-ryu-karate-do-workshop.html>

備考欄

定期的に稽古会が開催可能かどうかを模索しています。今のところ、上記の、毎週木曜日の夕方（18:00～19:00）に、定期的に私自身稽古しています。上記ブログは、その案内です。

T-ACT オーガナイザー

T-ACT パートナー 佐藤 純（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

毎週木曜日の夕方（18:00～19:00）に定期的に沖縄空手の稽古を行った。当初は興味を抱いてくれた人も数名いたけれども、やはり、専門的な内容のためか、残念ながら、T-ACT を通じて継続して稽古に参加する人はいなかった。

今後の課題

T-ACTとして沖縄空手を広く知ってもらうためには、もっと広報活動をした方が良かったかもしれない。ただ、学内には複数の空手サークルもあり、「沖縄空手」とは何かということ自体、それらの空手サークルと区別がつかない（何が違うのか分からない）というところから、そもそもハードルが高かったかと思われる。

経験者からのメッセージ

一般的に気軽に参加できるものの方が受けるのかと思いました。

運営者側から見たパーティシパントの変化

T-ACTに関する感想

十分過ぎるほど、システムは素晴らしい。あとは利用者がどう利用するか、でしょう。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 図書館を復旧させよう（11006P）

T-ACT プランナー 加賀 信広（人文社会科学研究科 教授）

活動内容

東北関東大震災により、本学図書館では100万冊を超える図書が落下したとの情報があります。落下図書の保護と早めの開館のために、図書・雑誌等を元の書架に並べる作業が必要になりますが、これには大量の人手を要します。作業を行う学生ボランティア（教職員でも可）を募集して、みんな図書館を復旧させたい。

活動期間 平成23年3月31日～平成23年4月15日

活動計画

平成23年 3月31日	・オーガナイザー学生を募り、図書館と連絡をとった上で、ボランティア活動の内容、募集の手法等を決定する。
4月1日	・復旧作業ボランティアを開始する
4月15日	・活動終了、メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

備考欄

T-ACT オーガナイザー 長田 瞳（社会学類）

T-ACT パートナー 畔上 泰治（人文社会科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

- 3月30日 ミーティング、広報開始
- 4月1日 参加者名簿を作成し、中央図書館復旧作業を開始（4階）
- 4月1日～4月15日 復旧作業に参加し、随時、参加者名簿の拡充、参加者・図書館との連絡、メールでの問い合わせ対応、広報等を実施。
- 4月18日～4月21日 期間を延長し、復旧作業を実施（4階・新館）

目標達成度

100%

期間中大きな問題もなく、早期復旧・サービスの再開に貢献することができた。

得られた成果

- ・早期復旧・利用再開が実現し、予定していた本館だけでなく、新館の作業も一部前倒しで進めるこ

とができた。

- ・復旧状況に関して写真やデータを随時更新し、図書館内や WEB 上で伝えることで、学生の関心を高め、多くの参加者を得られた。
- ・学内サークルによる取材や、図書館長からの表彰などもあり、T-ACT 自体の宣伝効果もあった。
- ・自分の空いた時間で無理なくできるボランティアということもあり、実際に手を動かし貢献を実感することで、震災後の参加者自身の回復のきっかけにもなった。

今後の課題

- ・大学外の方からの参加申し込みが数件あり、対応が難しかった。図書館側の判断で、学外者の協力は得ないこととなり、申し込みをお断りした。今後は、企画の段階で対象者を限定し、広報段階から詳細をきちんと明記したほうが良い。
- ・期間延長の際の告知不足。T-ACT としてはあまり機能しなかった。
- ・パーティシパントの声をもう少し聞けるような機会を創ると良かった。

経験者からのメッセージ

(オーガナイザーからの声)

意図をもって取り組みれば、最後には自分がやりたかったこと以上の経験と成果が得られている、そんな空間を T-ACT では創ることができると思います。

まずは想いを口にするところから。

運営者側から見たパーティシパントの変化

(オーガナイザーの目)

参加者にとって慣れない作業だったが、元の状態に少しずつ戻っていく書架にやりがいをもって作業してくれていたように感じた。

自分の目で現状を把握し、目の前のやるべき作業に行動を移すことで、参加者自身が前進するきっかけにもなっていたようで、とても有意義だったと感じる。

T-ACT に関する感想

(オーガナイザーから)

急遽動き出した短期間のプランだったので、T-ACT のサポートがとても有難かった。復旧作業は体芸図書館など、今後も行われると思われるので、今回の活動を活かしてほしい。

急募！ 図書館を

復旧させよう！

☆☆中央図書館の復旧作業を手伝ってくれるボランティアを募集します☆☆

みんなで“知層”を積み上げ直そう！



登録・申し込み先
T-ACTホームページからどうぞ！
<http://www.t-acttsukuba.ac.jp/>

4月1日(金)～15日(金)【土日を除く】
場所：筑波大学中央図書館
時間：10:00～12:00 13:15～15:00 15:30～17:00
※上記時間のいずれかでかまいません

T-ACT
つくばアクションプロジェクト
承認番号：1100P

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 学び場さくら塾 4th season (11007A)

T-ACT プランナー 金岡 孝浩 (人文・文化学群人文学類)

活動内容

学び場さくら塾は、2010年5月にできたばかりの無料の学習塾です。

さくら塾は、大学、地域住民、保護者の方々の協力の下に成り立っています。様々な人びと、組織と協働し、地域に根ざした教育組織にしたいと考えています。

活動も第四期に差し掛かり、より多くの学生講師によって運営を進めていきたいと考えており、登録を更新する事に致しました。

第四期は教育内容をより一層充実させるとともに、対外的に活動の広報を行うことで生徒の規模を拡大することを目指す。

さくら塾は、単なる学習指導にとどまらず、大学と地域をつなぐさまざまな取り組みに積極的です。第一期の昨年度7月は留学生と芸術専門学群の学生を招いて交流会を行いました。8月には大学生と中学生のTALK SESSIONも行いました。今後も、継続的にさまざまなイベント作りをしていきたいと思えます。

さくら塾では、学生講師が週3日(火曜、金曜、日曜)、桜3丁目21にある県営桜アパートの集会所に向き、無料で小中学生に勉強を教えています。火曜日(19:00~21:00)は中学生に英語と数学、金曜日は集団形式で社会科、日曜日(10:00~11:30)は小学生に百マス計算、漢字、算数(その他、地図の勉強、工作、など特色のある教科)を指導しています。一般的な学習塾とは異なり、生徒との距離が密接なところが特徴です。教育に熱い方、地域活性化に興味がある方、ボランティアに燃えたい方は、子どもたちを巻き込んだイベント運営に興味のある方はふるってご参加下さい。現在、学生講師および運営メンバーを募集しています。

お問い合わせは、
info@manabiba-sakura.org まで。

また内容についての詳細は、WEBページをご覧ください。
<http://www.manabiba-sakura.org/>

活動期間 平成23年4月1日~平成23年8月31日

活動計画	平成23年 4月	・指導開始・アイラブつくば基金の申請を行う。
	5月	・春日地区による指導を始める。

備考欄	8月	・夏期講習（予定）。夏休みの宿題補助など。
T-ACT オーガナイザー		松本 紘一郎（教育学類） 狭間 龍亮（応用理工学類） 横田 真之介（情報科学類） 荒井 菜摘（国際総合学類） 杜 迅（工学システム学類） 脇屋 真証（国際総合学類） 村田 翔吾（教育学類）
T-ACT パートナー		田中 マリア（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

- 4月：活動開始、新入生の募集と補助金の申請。
- 5月：新規開校の保護者さんとミーティング。
- 6月：アイラブつくば街づくり基金に採択される。
- 7月5日：春日校開講。生徒数15人で指導開始
- 7月16日：台坪校開講。生徒数10人で指導開始
- 8月：活動4期目終了。

毎週火曜日：小中学生15人を指導。

毎週金曜日：中高生6人を指導。

毎週土曜日：小学生10人を指導。

<目標達成度>

毎日の指導で「生徒のできないことをできるようにする」ことを行った。

また、学生講師のオリジナルの授業も盛んに行われた。歴史マンガやスケッチブックを使った社会の授業や、理科の範疇を超えた地球科学、自然科学の授業を行うなど、特に理科や社会の面で積極的に行われた。

<成果>

新たに春日交流センター、台坪ふるさとコミュニティセンターでの指導を開始し、週三回の指導を生徒数を増やして継続することができました。

また、生徒と学生講師は仲良しで毎回の指導を楽しみにしており、保護者さんからの僕たちの普段の指導に対する感謝の言葉をいただいております。

数値としての成果は出づらいつ活動ではありますが、数値化されない部分での成果は大きいと感じております。

今後の課題

学生講師数の確保が最大の課題です。

生徒数の増大は著しく、現状の学生講師数ではこれ以上の生徒増加は望めないでしょう。

より多くの子供たちに、僕たちの「教育」に価値を見出してくれている人たちに、僕たちの教育を提供したい。

そのためには、今後学生講師数は拡大していかなくてはならないでしょう

経験者からのメッセージ

子曰く、過ちて改めざる。これを過ちと謂う。

人間は不完全な存在です。行動すれば間違えるし、失敗します。

ですが、その過ちから目を背けたり、過ちを恐れて行動しなくなってしまうたら、本当にそれは「ただの過ち」になってしまいます。

間違えたこと、失敗したことを正面から受け止め、顧み、改善点を発見して次につなげ、より良いものを生み出すこと。

それが、過ちに対しての責任であり、何かをなそうとする人の責任なのでは無いでしょうか。

失敗を恐れないでください。過ちを過ちのままにしないでください。

マイナス1を作ってしまったら、プラス2を作って恩を返す。

それで、いいのではないのでしょうか。

運営者側から見たパーティシパントの変化

さくら塾に指導機会のみを求めて参加していた学生も、子どもたちと触れ合ったり運営陣とコミュニケーションをとっているうちに、だんだんと運営にも主体的にかかわるようになっていった。

また、特に目的意識無く参加していた学生も、生徒との触れ合いの中でだんだんと教育というものに関心を抱くようになった。

T-ACT に関する感想

十二分です。お世話になりました。そして、ご迷惑をおかけしました。

さくら塾は T-ACT のおかげでここまで来ることができたといっても過言ではありません。設立当初から今に至るまで、T-ACT の支援を受けることができたことを感謝しております。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

working group for 被災地就活生応援計画 (11008A)

T-ACT プランナー

中居 康祐 (理工学群社会工学類)

活動内容

問題意識・・・以前まで募金やボランティア活動をしていたが、何かと受け身になりがちだし、実際募金がどのように活用されているか不明瞭。また、本質的にサポートになることとは何か？現地に行くことは、ガソリン不足や渋滞の原因にもなりかねないし、現実的に何が出来るか？を考えた。

→就活生・学生目線での支援。具体的には、東北地方からの学生が東京で宿泊するホテル探しの代行など。実際に私も不便に感じたことを支援する。

経緯・・・震災の影響で被災地の就活生は、不安にかられているだろう。私は、ライバルではなく仲間だと考え、今こそ手を貸し合う時だと考える。

目標・・・希望する就活生全員にサービスを提供できることを当面の目標とする。
(対象・・・被災した就活生)

(サービス・・・ホテル代行、無料で都心に行けるような就活パス→企業と交渉)

活動期間

平成 23 年 4 月 15 日～平成 23 年 9 月 30 日

活動計画

平成 23 年
5 月～8 月

- ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- ・実行のために何が必要かを考える、準備する。
- ・企業との交渉、対象となる学生のニーズや人数の把握

9 月

- ・9月に就活する被災した学生のためのサービスを実行

備考欄

T-ACT オーガナイザー

盆子原 歩 (社会工学類)
斎藤 良之 (武蔵野大学)

T-ACT パートナー

吉田 あつし (システム情報工学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

途中で取り下げのためなし

今後の課題

活動時間の確保、人員の確保が問題としてあげられる。
都内での活動になること、企業との交渉が必要になることも大きな問題だった。

経験者からのメッセージ

十分に時間と人員を確保しましょう。また、外部との交渉が必要になる場合は、情熱だけでなく、あなたが行いたい企画を行うことでどんなメリットを周りに与えられるかなどを考えましょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

なし

T-ACT に関する感想

ご協力有難う御座いました。これからも、宜しく願い申し上げます。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 チャリティセミナー：大学時代に知っておきたかったこと（11009A）

T-ACT プランナー 菅野 卓也（理工学群物理学類）

活動内容

3月11日に日本で起きた震災による被害は、とてつもなく大きなものだ。被災者の方に対して、募金と講演会をコラボレーションさせ、様々な方向に何重にもメリットを生み出す形で貢献をしたい。

【セミナーの内容】

「大学時代に知っておきたかったこと」をコンセプトに、4名のプレゼンターがプレゼンを行います。

プレゼン（1人あたり30分×4名）

1. 「社会人になるために必要な意識変革」

【概要】 学生時代と社会人で求められる要素は異なります。
社会に出るために求められる意識を身につけましょう！

【講師】 池田 秀一 キャリアコンサルタント

2. 「就活におけるソーシャルメディア活用」

【概要】 twitter、facebookを始めとしたソーシャルメディアを企業側が活用し始めた今、就活生側としての有効活用方法をいくつか提案します。

【講師】 中島 大 株式会社スゴログ 代表取締役

3. 「大学では教えてくれないIT知識」

【概要】 ショートカットキーやGoogleの活用法、情報のInputからOutputの効率化など、大学では教えてくれないITの利用法をお教えします。

【講師】 千葉 順 株式会社HEART QUAKE 代表取締役

4. 「ホントにホント？好感度チェック」

【概要】 30分で仕事に役立つモノの考え方、身に付けられるかチャレンジしよう！

【講師】 松山 葉子 某IT企業 人事・総務部長

【活動計画】

・開催日程は決まっていません。主に、当日参加者の告知・募集がしっかりできる日程にしたいと思っています。

・依頼講師との話：来ていただく事に関して、了解を得ています。

・寄付の方法：参加費を寄付とする。（募金箱を設置し集まったお金があればそれも寄付する。）

・講演会自体に対する講師謝金は不要

・募金は、全額寄付にしたいと思っていますが、オーガナイザーが集まればその方と話して決めたいです。また、講師の方の意向も尊重したいと思っています。

現在の募金候補先は、ビジョン東日本サポートネットワーク（通称：ビジョンネット）です。理由は、義援金とすると支援までに時間がかかってしまうこと、ビジョンネット内に筑波大OBの方がいらっしゃるからです。

・事務経費、講師謝金：今後検討すべき点だが、現時点では事務経費、講師謝金として交通費のみを除く全額を寄付としたい。ただし、交通費に関しては講演者と相談しながら決定したい。

活動期間	平成 23 年 4 月 4 日～平成 23 年 6 月 30 日	
活動計画	平成 23 年 4 月	・メンバー招集・講演会に向けての準備
	5 月	・講演会実施・運営
	6 月	・反省会（活動報告書をまとめる）
備考欄	<p>学生オーガナイザー、教職員パートナーは未定です。</p> <p>学生は直接声をかけている最中です。教職員の方は、呼びかけに応じて頂ける方がいらっしゃいましたらその方をお願いしようと思っています。</p>	
T-ACT オーガナイザー	鹿志村 むつき（化学類） 杜 迅（工学システム学類） 山口 慶子（看護学類）	
T-ACT パートナー	松田 裕雄（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

3 月 29 日	講師側と直接交渉（その後、4 月 5 月とメールにて調整）
4 月上旬	T-ACT へ申請、オーガナイザーを募る（その後、週に 1 回のペースでミーティング実施）・パートナーを探すなど
4 月中旬	教室の確保・広報（twitter/facebook/ビラ/ポスター）の開始など
4 月下旬	引き続き広報を続けるビラ配布やポスター設置など
5 月上旬	セミナー当日の準備の洗い出し・実施
5 月 13 日	チャリティセミナー開催

・目標達成度

最低限の到達目標…達成

被災地支援の目標…あまり達成できず（参加者が少なく、金額が少なかった）

・得られた成果

寄付した金額：2700 円

寄付先：ビジョン東日本サポートネットワーク

スタートアップから実施まで、プロジェクトを発足させ遂行するという一連の流れを経験できた。

今後の課題

・会場準備の反省点

いつから準備ができるか把握できていなかった。

開始時間の遅れ

電源の確保（講師席、プロジェクター）

準備する人の手配（どのくらいいるか、誰にお願いするか）

・会場の反省点

参加者に対して会場が大きすぎた。

- 講師の良さ、能力を最大限に引き出せなかった。
- オーディエンスの反応が薄くなりがちだった。
- マイクの使用、壇上ということから距離感が生まれてしまった。

スライドが見つらかった。

- 解像度の設定(調べておく、伝える)や Mac ユーザーの D-sub ケーブル変換を用意しておけばよかった。

席対参加者がアンバランスだった。

- 参加者数把握、会場（教室）変更も視野に入れたほうがよかった。

・告知における反省点

- キャンセル可に設定したことにより登録数は増えるものの、実際に来る人は少なかった。
- 告知開始が遅かった。

経験者からのメッセージ

良い経験になると思うので、ぜひぜひがんばってください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

不明

T-ACT に関する感想

特になし

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

茨城県復興チャリティーフットサル大会（11010A）

T-ACT プランナー

安藤 進ノ介（社会・国際学群国際総合学類）

活動内容

<企画立案の経緯>

東日本大震災後、全世界的にボランティア活動等の支援の輪が広がっている。自分も学生として現状に対して何かアクションを起こしたいと考え、仲間を募りました。私たちがだした結論は「フットボールを通じて活気を与えること」です。サッカーをすることでそこに明るい空気が生まれます。サッカーをするだけでそれが災害の支援になる。チャリティーフットサル大会を通じて何かアクションを起こしたい人へのきっかけを提供し、つくば市から被災地へと寄付と元気を届けたい。

この様な思いから今回の企画を立ち上げました。

<目標>

大会開催費を除く全額を茨城県内の被災地復興支援に充てる。
また復興支援義援金の用途や成果をホームページにて報告予定。

<事業概要>

開催日：6月18日

開催場所：フットファイブ

チャリティー支援先：茨城県災害対策本部

参加者目標数：200人（高校生・社会人・大学生 16チーム）

協賛・後援：茨城県を中心とする企業や団体（つくばFC やカスミ）に後援を頂く予定

※校内告知用のポスターに企業のロゴ等はいれない

大会費用：大会参加費 10,000円×16チーム

会場費 30,000円～40,000円

雑費（展示作成の為の材料費など）10,000円

合計 200,000円程度

告知手段：校内でのポスター掲示、及び SNS

※任意でスポーツ保険に加入してもらう

活動期間

平成23年4月1日～平成23年6月18日

活動計画

平成23年
4月

- ・会場の確保（フットファイブ）
- ・後援を頂ける企業等にアポイントメントをとり交渉を開始
- ・大学内にて大会の告知、スタッフ及びチームの募集開始

	5月	・引き続き後援を頂ける企業や団体と交渉 ・スタッフやチームの募集も継続して行う ・5月下旬にスタッフ向け説明会を実施
	6月	・大会にむけて最終準備 ・大会開催後は活動報告をまとめ義援金の用途もまとめホームページなどで報告
備考欄	http://worldfuttsukuba.web.fc2.com/index.html	
T-ACT オーガナイザー	田中 宏明（心理学類） 田川 鮎美（心理学類） 米倉 元気（心理学類） 寺田 力優（社会工学類）	
T-ACT パートナー	庄司 一子（人文社会科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

3月 ミーティング

大会の開催場所、必要な経費の計算、目標参加数、協賛企業の決定
支援先の決定

4月 ミーティングおよび協賛企業へのアポイントメント取り

営業と企画・広報班の二つのセクションに分かれて行動。
週一回のミーティングで進捗状況を確認しあった。

5月 ミーティング及び営業

営業は実際に企業に電話やメールでアポイントメントをとり、協賛を頂くために企業へ足を運んだ。
関東鉄道、大塚製薬、REDBULL、LIBERADADEへ出向く。
やまよし製菓はメールと電話でアポイントメントをとり、協賛を頂く。
REDBULL 以外から協賛を頂くことが出来た。
また、車で実際に茨城沿岸部へ足を運び被災地の現状を確認した。

6月 ミーティング・最終調整

当日の動きや、試合のスケジュールの作成
及び備品などをそろえる。

今後の課題

問題

参加費を10,000円に設定した場合、利益が5万円程度しか確保できなかったため、十分な金額の募金が行えなかった。

また、今回は募金策を茨城県災害対策本部に設定したが集めた5万円がこういった形で使用されるか不明であり、事後報告できないという結果になった。

サッカーを通じて、つくば市及び筑波大学以外との大学間の交流が生まれたことは今回の大会の成功した点である。

経験者からのメッセージ

3ヶ月間以上の準備期間を要するプロジェクトをやる際には、間延びしないように心掛ける事が必要。

協力者が多い場合は予定をしっかりと合わせることも非常に大切。

運営者側から見たパーティシパントの変化

フットボール×社会貢献がどういうものなのかを参加者に伝えることが出来た。

新しい社会貢献の形とし、参加者には認識されたと思う。

T-ACT に関する感想

パートナーの教授がいないとプロジェクトを発足することが出来ないのは、新しいプロジェクトを発足する際の欠点だと感じた。

1年生など教授とそれほど教職員と接点のない人もいる。

今回の企画を運営するにあたっては、パートナーの教職員には助言は一切仰ぐ事は無かったし、必要な時にプランナーが教職員に助言を頂けば良いと思う。

プランを作成する一つの「条件」としてのパートナーは要らないと思った。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 世界一大きな授業「女の子と女性の教育」(11011A)

T-ACT プランナー 伊藤 絵里 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) が主催する「世界中の子どもに教育を」キャンペーンの一企画である「世界一大きな授業」プログラムに参加する。これは、世界中で、4月18日～24日の期間中に、今年度のテーマである「女の子と女性の教育」についての授業を行うことで、学校に通えない子どもたちの現状を知り、世界中の子どもたちの教育を願う企画である。授業の内容や資料は共通であり、申請し次第 JNNE から郵送されてくる。それゆえ、私たちの責務は、授業を分かりやすく遂行し、より多くの人々に関心を抱いてもらう・理解してもらうことである。

授業 (セミナー) の開催場所は、筑波大学構内、高校1校、一般向けにつくば市民活動センターを考えている。大学構内では4月21日に、つくば市民活動センターでは4月24日に実施予定である。高校1校とは、プランナーの母校であり、女子教育に力を入れている聖徳大学付属取手聖徳女子高等学校であるが、現在交渉中である。

授業の内容は決められているので、今回の活動で最も力を入れる必要があるのは広報活動である。

また、「女の子と女性の教育」というテーマであるが、児童労働について言及する部分もあり、先に提出した「フェアトレードで児童労働をなくそう」という企画との関連もある。

【参考 URL : http://jnne.org/gce2011/pdf/leaflet_2011.pdf】

活動期間 平成23年4月5日～平成23年4月30日

活動計画	平成23年 4月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・活動開始 ・大学内教室確保、高校との連絡やりとり、つくば市民活動センターとの連絡やりとり ・ポスター作製とツイッターなどを利用した広報 ・届いた教材で勉強
	4月13日～	・ポスター掲示開始
	4月18日～ 24日	・随時セミナーを開催、各回フィードバックを実施
	4月25日～ 4月末	・報告書作成と提出

備考欄

T-ACT オーガナイザー 小口 詩織 (国際総合学類)

活動報告

活動成果

【活動内容】

教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）が主催する「世界中の子どもに教育を」キャンペーンの一企画である「世界一大きな授業」プログラムに参加した。これは、世界中で、4月18日～24日の期間中に、今年度のテーマである「女の子と女性の教育」についての授業を行うことで、学校に通えない子どもたちの現状を知り、世界中の子どもたちの教育を願う企画である。

授業（セミナー）は、筑波大学構内、一般向けにつくば市民活動センターで開催された。大学構内では4月21日に、つくば市民活動センターでは4月24日に実施した。

授業の内容は決められているので、今回の活動で最も力を入れたのは広報活動であった。

また、「女の子と女性の教育」というテーマであるが、児童労働について言及する部分もあり、先に提出した「フェアトレードで児童労働をなくそう」という企画との関連もある。

【参考 URL:http://jnne.org/gce2011/pdf/leaflet_2011.pdf】

4月21日 イベントの実施（学内）

4月24日 イベントの実施（学外）

・目標達成度

完全に目標を達成したとは言えない。大学構内でのイベントには20人近くの参加者が集まったが、つくば市市民活動センターでのイベントにはあまり人が集まらなかった。広報活動をもう少し早くから始めるべきであった。

・得られた成果

「女の子と女性の教育」についての授業を行うことで、学校に通えない子どもたちの現状や、世界中の子どもたちの教育について参加者に知ってもらうことができた。

今後の課題

広報活動が思った以上に難しかった。ポスターなどを貼ることができる場所が少なかった。

経験者からのメッセージ

運営者側から見たパーティシパントの変化

T-ACT に関する感想



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 院生プレゼンバトル (11013A)

T-ACT プランナー 石田 尚 (システム情報工学研究科)

活動内容

【問題意識】 → 「雙峰祭＝模擬店祭」からの脱却

筑波大学最大の行事である学園祭（雙峰祭）は毎年盛大に行われます。そのメインは何と言っても様々な企画ですが、2010年度の企画の件数の内訳を見ますと、「学内研究企画」（以下、学研企画）の件数は31件である一方で、「飲食・販売」の件数が344件でした。さらにここ数年、企画件数全体における学研企画件数の割合は減少し続けています。このように学術的な企画の件数が模擬店の10%にも満たないというのは、研究型の総合大学における学園祭のあるべき姿とはほど遠いと私たちは実感しました。

社会における大学の役割のうち、学術研究は大きなウエイトを占めています。また各大学の社会での存在感や発信力に関しては、それぞれの大学の学術研究が大きな原動力の一つとなっています。筑波大学は研究学園都市の中に立地し、言うまでもなく研究型の総合大学です。このような筑波大学の一番の“売り”である学術研究をより活発なものにすることは筑波大学の発展に大きな貢献をすると信じています。

そこで、今年度は“学園祭の学術方面への変革”に焦点を当てていきます。まず筑波大学で最大の行事である学園祭から改革し、徐々に大学全体により学術的な雰囲気を浸透させていく予定です。

【企画内容】

今回は、大学院生による研究発表会を企画します。これは、雙峰祭で開かれる「院生プレゼンバトル」の予選として行います。

ここで発表内容は、専門知識を備えた院生とはいえ、多くの方が知的好奇心をくすぐられるものであることを前提としています。学術的な風土を確固たるものにするために、発表内容は専門外の方々にもわかりやすく、興味関心を持つような見せ方を重視します。

【企画立案の経緯】 → T-ACTにより①学内を巻き込む②高い意識を持った仲間を集める

今回の「院生プレゼンバトル」は、10月の雙峰祭の最終日に、筑波大学の大学院生が研究科、専攻の枠を越えて研究に関するプレゼンテーションを行い、その能力を競うというものです。広く研究科、専攻全体に対して参加者を募ります。

本戦では、実質的にプレゼン筑波大No.1を決めるものであり、当日は非常に白熱したものになることが予想されます。また審査員として、学長、つくば市の研究所の方々、筑波大卒業生、近隣高校生を招待する予定です。そして学長にはすでに了承を得ています。

しかし、「院生プレゼンバトル」で発表者のクオリティを保ち、学内のみならず研究学園都市中に轟かせるためには、

■学内を巻き込んだ大規模な予選会

■高い意識を持った運営仲間

これら2つの要素が必要不可欠です。その為に今回は、T-ACTにて申請させて頂きました。

【最終的な目標】

「筑波研究学園都市の学術交流を推進し、学術的な風土を強固なものにする」ことが最終的な目標です。その為に本年度は、筑波大学の大学院生にとって、毎年の目標となる企画の第一歩を立案するものであります。

活動期間	平成 23 年 5 月 9 日～平成 23 年 10 月 17 日	
活動計画	5 月	・運営メンバー集め
	5 月中旬～ (8 月中旬を 目処に)	・プレゼンテーション参加者への打診
	6 月中旬	・場所、日時の詳細決定、公式アナウンス
	7 月中旬	・運営方法の協議、広報活動、審査員を決定
	9 月初旬	・発表者正式決定・広報活動
	9 月下旬	・企画開催
	10 月中旬	・振り返り、活動報告書の提出、結果をアナウンス
備考欄	我々は新たなメンバーを随時募集しております。最終目標に掲げたような大きな活動を展開するためには、まだまだ人手やアイデアが足りません。みなさんの力を必要としています。活動全体でなくても、広報やアイデア出しの部分だけ協力してくださるという方でも結構です。連絡をお待ちしております。みなさんで協力して筑波大学のさらなる発展を目指しましょう。	
T-ACT オーガナイザー	赤瀬 直子 (人間総合科学研究科) 上道 茜 (システム情報工学研究科) 服部 竜己 (数理物質科学研究科) 伍井 智彦 (システム情報工学研究科)	
T-ACT パートナー	加賀 信広 (人文社会科学研究科)	

活動報告

活動成果

【活動内容】

【つくば院生ネットワーク全体 (TGN) のタイムテーブル】

主な活動内容に関しては、下記の通りです。

その他にも、グループに分かれてのミーティングや大学側や学園祭実行委員とのミーティングが 30 回以上行われました。

2011/04/04	TGN メンバーミーティング
2011/04/11	T-ACT 申請
2011/04/13	大学院共通科目 打ち合わせ
2011/05/10	TGN メンバーミーティング
2011/05/20	学園祭企画一次メー
2011/05/26	TGN メンバーミーティング
2011/06/03	院生プレゼンバトル準備会
2011/06/28	春日キャンパスミーティング
2011/08/22	テリトリー崩しの会 (現・tTFT) にて広報活動
2011/09/05	TGN メンバーミーティング
2011/09/17	大学院共通科目 授業 1 回目, 出場登録メー切①

2011/09/24	大学院共通科目 授業 2 回目 , 出場登録メ切②
2011/09/30	予選会前日準備
2011/10/01	予選会
2011/10/03	本戦リハーサル①
2011/10/04	本戦リハーサル②
2011/10/07	物品借り出し & 会場準備
2011/10/08	ポスターセッション
2011/10/09	ポスターセッション & 辻プレゼン
2011/10/10	本戦
2011/10/18	大学院共通科目担当教員との反省会
2011/10/21	TGN メンバー & 出場者との反省会

【目標達成度】

■定量的指標

院生プレゼンバトルには本戦（口頭発表）とポスター発表の両方があり、それぞれの来場者、及び参加者は予想以上の達成度となりました。

ポスター発表者：47名

ポスター発表投票者（来場者）：900名

予選参加者：48名

本戦参加者：6名

本戦口頭発表来場者：400名以上（冊子の予定数をオーバーしたためカウント出来ず）

■定性的に俯瞰した場合の目標達成

本企画の目的として、学園祭を通じて筑波大学に学際的な風土を拡充させることを掲げておりましたが、前項の定量的な指標と併せて、下記の点においても目標が達成できたと考えられます。

1. 大学院共通科目「異分野間コミュニケーションのためのプレゼンテーション・バトル」と協働しておりました。そのため、この一連の活動を通じて、「異分野間の学術的なコミュニケーション」を促す風土が生まれたのではないかと推察します
2. 10月1日の予選会開催後に、参加者同士及びTGNのメンバーによる懇親会を開催しました。この懇親会では、多分野間の情報交換を行ったため、目的に貢献できたと考えられます
3. 本戦中の、質疑応答及びディスカッションのパートでは、招待審査員である諸先生方の他に、広く筑波大学の学類生や大学院生から発言がありました
4. 院生プレゼンバトルが終了した後の日程で、TGNとして「Workshop: transTerritory Forum TSUKUBA 異分野融合による大学イノベーション」で招待講演を行うなど、学生から学術的風土を拡充した例として紹介されました。【参考】報告書 URL：http://tfft.tsukuba.ac.jp/report_WS11_111123.pdf

以上、定量的・定性的に見て今回の企画の目標は達成され、学術的な風土の拡充という成果が得られたと考えられます。

今後の課題

1. 評価項目について

（問題点） 何のためのプレゼンテーションなのか、参加者の受け取り方にばらつきがあったこと。「研究」プレゼンテーションか、「分野紹介」のためのプレゼンテーションなのか混同しがちであった

（改善案） 本企画の目的が「学術的風土の拡充」であるため、「研究内容」への評価項目にもっと重点を置くべき

2. 指揮系統

(問題点) 最高責任者は誰だったのかが曖昧だった

(改善案) 各グループに分かれてアクションプランを実行していく際に、独立型の組織のスピード感は重要だが、プロジェクトの役割分担が曖昧だったので、コミュニケーションとタイムテーブルの管理を徹底する

3. 得点集計

(問題点) 集計に人員が割かれすぎた？

(改善案) 自動化する（マークシートなど）

4. 著作権

(問題点) Ustream によりインターネットを通じて全世界に発信していたが、キャラクターを使用したプレゼンテーションもあったため、急遽対策が必要となった

(改善案) 事前にガイドラインを作成し公開する

5. 発表者に分野の偏りがあった

(問題点) そもそも文系のエントリーが少なかった。文系院生のプレゼンテーションスタイル（例：歴史学ならば1時間以上の発表もしばしば）に、プレゼンバトルがフィットしない可能性がある

(改善案) 文系学生のネットワークや、友人紹介などを利用し予めネットワークを作っておく

6. ポスター発表が盛り上がりにかけた印象がある

(問題点) 本戦（口頭発表部門）との差をつけすぎたこと（賞品、広報の仕方 etc.）本戦については、6名のうちで、上位3名が iPad2 を獲得でき、さらに高校生が選出する高校生翔を獲得すると、エスプレッソマシンが賞品であった。一方、ポスター発表に関しては、参加者47名のうちで優勝者1名だけがエスプレッソマシンを獲得できるという厳しい戦いになり、参加のモチベーションが十分だったとは言い難い

(改善案) 賞品を均等に用意するか何らかの仕組み作りが必要

7. 会場での「リハーサル」が不足していた

(問題点) 特に広い会場では、その会場ごとに特性があるが、それらが想定範囲外だった。例えば、空調の関係で予想以上に室温が暑かったことや、発表時に照明をおとすと発表者の顔が見えないことなど

(改善案) 開催日が近づいたら、当日予想される人数や人の流れ、その波及効果まで加味したりリハーサルを行う

経験者からのメッセージ

「成し遂げたいことの大小に拘らず、まずは行動を」

当たり前の事かもしれませんが、この一言をメッセージとしてお送りします。今回の「院生プレゼンバトル」は、構想から実行まで約1年の時間を費やしました。大学が抱える問題「総合大学にも拘らず、その強みを活かしきれていない」ということに対して、大学側も巻き込んだ活動となったため、非常に大規模かつ、利害関係者も多岐にわたったことがその理由です。

ところが、T-ACTのような人と人との交差点において何か行動を起こすと、まるで自然とできる渦のような広がり成していくものだと実感しました。自分だけあるいは、今いるメンバーだけでは解決できないようなことも、誰かの助けを借りて実行可能だったりもします。実際に今回は、T-ACT フォーラムで出会ったメンバーが目標達成に、対して多大なる貢献をしてくれました。

また、コンサルタントの檜村先生や学生生活課の方々には、「大学の巻き込み方」から当日運営の

詳細に至るまで、多くのアドバイスをして頂きました。だからこそ、今回、非常に影響力のある企画となり、大学に新たな潮流をもたらせたものと信じております。

多くの方々の力を借りるには、まず自分が目標達成の方向に動くこと。考えてばかりいると、いつの間にか「やらない理由」を探すようになってしまうかもしれません。

まずは行動すること。

そうすれば、必ずあなたの周りに渦ができていくことと信じております。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントから頂いたアンケートの結果を見ると、大きく2つのことが「変化」として取られました。

1. 「研究を伝えること」の重要性

本企画「院生プレゼンバトル」は、パートナーのほとんどが大学院生、そして予選参加者、本戦発表者も全員が大学院生でした。これまで大学院生というと、自分の研究のことだけを考えているというのが一般的な認識でした。

異分野との交流を促進する本企画に触れて、次第に「自身の研究を広くわかりやすく伝える」ことの魅力やそのスキルの今後の必要性に気づいた方も多いのではないかという印象でした。

2. 「自分たちも何かできることがあれば」

これは参加した大学院生、及び一般来場者のうちの学類性・他大学の学生から感じ取った変化ですが、TGN そのものの活動に興味を示して下さった方が多くいらっしゃいました。こうした変化はTGNが目指す「科学技術立国の要である筑波研究学園都市を中心とし、豊かな世の中を実現」への一歩ではないかと考えます。

T-ACT に関する感想

当初は実現可能性が低いと思われた企画でしたが、多くのお力を借りて成功できたため、取り立てて要望はございません。

しかしながら、敢えて上げるとするならば、企画を終えた「先輩」が後輩に対してメンターにつくような仕組みがあれば、よりよい形で学生の主体的な活動が発展するのではないのでしょうか。

今後とも宜しくお願い致します。

ありがとうございました！

はじめまして、
TGN です。
つくば院生ネットワーク

@TGN_Account

大学院生の皆さん。
そろそろ、
本気だしますか。

@TGN_Account

10/1(土)
**院生プレゼン
バトル開催**

金賞・銀賞・銅賞には iPad2 (予定)

@TGN_Account

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 アマクボ・カスガ平和にし隊（前半）（11014A）

T-ACT プランナー 渡辺 伸子（人間総合科学研究科）

活動内容

筑波大生のたくさん住んでいる天久保と春日は、犯罪被害の多い地域でもあります。みんなで防犯のための見回りを行い、犯罪の抑止を図りましょう！

天久保3丁目班、天久保4丁目班、春日3丁目班、春日4丁目班の4つの班に分かれて、週2回程度、暗くなってからみんなで歩いて見回り・声かけをしていきます。時間は19時～20時くらいを考えています。毎週必ず参加しなくても大丈夫です。できるときに、できる限り参加してください。柔軟に運営していく予定です。

歩くのは体にいい！とか、友だちほしい！という理由での参加、大歓迎です！

参加資格は、天久保または春日に住んでいること！住んでなくても、自分は天久保または春日に貢献しなければならないという熱い使命感のある方は参加OKです。

説明会を兼ねた初回ミーティングを、5月中に実施したいと考えています。

なお、5月から9月となっていますが、10月以降は「アマクボ・カスガ平和にし隊（後半）」として再出発する予定です。

●参加資格

・筑波大生であること。学類生だけでなく、院生もウェルカム！（プランナー自身も、博士前期課程からつくばに来たので友だちがいません！わたしと友だちになりたい人もぜひ参加してください！）

*同時並行で、防犯ポスター作りも計画しています。絵心のある人、Mac 使える人、センスある人、ぜひご参加ください！

※当企画は、「平成23年度社会貢献プロジェクト（第1期）」として採択された「大学周辺地域の安全推進活動」の一部です。

活動期間 平成23年5月2日～平成23年9月30日

活動計画	平成23年5月	・メンバー集めと物資集め。顔合わせ。
	6月～9月	・見回り開始

備考欄

T-ACT オーガナイザー 大竹 真依（障害科学類）

T-ACT パートナー 佐藤 有耕（人間総合科学研究科）
望月 聡（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

- 6月27日夕刻 警察よりご指導をいただきながら、初回パトロール実施
- 7月11日夕刻 パトロール実施
- 7月21日夕刻 パトロール実施
- 9月5日夕刻 パトロール実施

今後の課題

できれば、もう少し頻繁に実施したい。

経験者からのメッセージ

派手なことを単発でやるだけではなく、地味で長期の活動も大事だと思います。
他者に惑わされることがないように。近視眼的になりすぎないように。
学内の活動ですが、市民的成熟を目指した企画がもっとあってもいいのではないかと感じます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

けっこう親身になって参加してくれるようになった人もいる一方、立派な幽霊メンバーになられた人もいて、むずかしいものだと感じました。

T-ACT に関する感想

カタカナ語が多くてわかりづらい。「パーティシパント」とかわかりにくいので、「賛同学生」とかにしてほしいですね。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 Tsukuba for 3.11 (11016A)

T-ACT プランナー 中川 遼太 (生命環境科学研究科)

活動内容

【経緯】

3月11日の震災後、4月9日～17日までの9日間に渡って宮城県南三陸町に災害ボランティアとして活動を行ってきた。実際に自分の目で現地の状況を見て、現地の方々と話をする中でこれから必要となってくる支援の内容が明確になってきた。例えば、散髪であったり、マッサージといったサービスが現地で受け入れられる状況になりつつあるし、実際に現地のニーズもあると感じた。

活動を終えた今、今後も継続的な支援の必要性を感じ、つくば発信で被災者支援ができるのではないかと考え、今回の企画を考えるにいたった。

【問題意識】

現地では、物資の供給過剰が“第二の災害”を引き起こしているところもあり、物資の支援を行うことは非常にセンシティブなことであると実感した。生活の質を向上させるサービス(ex. 散髪、マッサージ)といった支援も行われており、そういった支援が必要なフェーズになっていると感じた。だが、実際の現場では十分な支援が行われていないのではないかと問題意識をもっている。

【目標】

被災地の方々が経済活動を再開できるまでの代替的支援

【内容】

被災地支援から被災者支援

美容師による散髪や、整体師・マッサージ師による支援など、手に職をもった方々と筑波大生で協調して、現地の被災者の方々に支援する。現地の状況や被災者ニーズに応じて支援の内容を柔軟に変化させていく。

活動期間 平成23年4月27日～平成23年10月26日

活動計画

4月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・活動開始 ・オーガナイザーを集め打ち合わせ ・他ボランティア団体との打ち合わせ (活動拠点の決定、移動手手段の確保) ・学生ボランティア参加呼びかけ ・学外のボランティア参加呼びかけ (つくば市のフリーペーパー、WEB等)
5月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修 (目的の共有、注意事項の確認)

	5月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの派遣 (月に1回1週間程度) ・毎回の報告を通して現地でのニーズ把握 ・広報は継続して行いボランティア人数の安定を図る
	10月末	<ul style="list-style-type: none"> ・活動終了 ・メンバーで活動を振り返り、活動報告書を提出 ・次の活動に向けての企画立案
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	永島 洸平 鴨川 一也 吉井 玲香 宮本 匠 合田 未央 幸川 潤二 山下 裕之 水落 裕樹 千葉 友希子 大内 晴佳 中原 萌里 辻村 夏穂 田中 みさよ 平松 真由美 片山 美希 木下 拓耶 木村 昌司 鈴木 仁美 櫻井 史穂 藪下 みき	
T-ACT パートナー	松下 秀介 (生命環境科学研究科) 氏家 清和 (生命環境科学研究科)	

活動報告

活動成果

【活動内容】

【ボランティア派遣】

Youth for 3.11 プログラム 24名

NPO コモンズプログラム 13名

サマーキャンプ in つくば 25名のボランティア提供・筑波山プログラムの企画・運営

気仙沼プログラム 延16人 (7月・8月・9月の計三回)

【活動報告など】

活動報告会 (5月9日・5月19日・6月20日・9月18日)

シンポジウム (6月9日)

交流会 (9月15日)

ボランティア説明会（9月30日）
 気仙沼シンポ（10月28日）
 ブログでの活動報告（<http://profile.ameba.jp/tsukubafor311/>）

メディア掲載

【新聞・学内広報誌】

茨城新聞（5月25日・5月27日・6月17日・8月10日・8月25日・10月9日）
 毎日新聞（5月18日・9月9日・10月10日）
 産経新聞（5月19日）
 朝日新聞（5月27日）
 常陽新聞（5月18日）
 筑波大学新聞（293号（6月13日）、294号（9月5日））
 STUDENT（11月号掲載予定）

【テレビ】

NHK「おはよう日本」（6月10日）

・目標達成度（その根拠も述べる）

50点

学生が動くためのきっかけになりえたことは評価できると思うが、効果的な支援が実現できたかと自問すると、決して満足いく結果ではないと思う。

少ない人数ではあるが、学生のきっかけになれたことを甘めに評価してこの点数です。

・得られた成果

人との出会い・つながり。

今まで経験することのなかった新しい経験。

今後の課題

月日の経過に伴い、多くの方の意識の低下・風化が起きてしまう。

それをどのように喚起していくかが重要なポイントになる。

また、多くの支援が今もなお行われている中、学生（もっと言えば筑波大生）だからこそできる支援というのがより求められてくる。

資金も知識もコネもない学生でもできるオリジナルな支援の模索が必要であると感じております。

経験者からのメッセージ

できること（can do）、やりたいこと（want to do）、やるべきこと（should do）。活動中はこの3つが重なることをできるように心がけてました。全て満たせれば楽しい活動になると思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

現地に行った多くの方に意識の変化があったと思います。

T-ACTに関する感想

半年間大変お世話いただきました。

手とり足とりご指導いただきました、檜村先生・半田さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 「JAPAN IS SAFE !!」プロジェクト (11017A)

T-ACT プランナー 高橋 正敏 (システム情報工学研究科)

活動内容

問題意識：

東日本大震災後、募金、節電などの方法でボランティア活動を行ってきた。しかし、私たちにしかできない支援活動をしたと考えられるようになった。

活動：

震災地水戸のサッカーチームである水戸ホーリーホックの試合において
本学留学生と共に、「JAPAN is SAFE」の横断幕を掲げ、サッカーの試合を見れるくらい水戸は安全だと国内外にアピールする。

経緯：

自分の専攻に留学生が多数在籍していたこと、修士論文の研究対象として水戸ホーリーホックを選択していたことなどから上記の活動を考えるに至った。

最終目標：

国内外に広がる風評被害を防ぐため、日本は安全だと本学学生自ら発信する機会を作ること。

活動期間

平成 23 年 4 月 26 日～平成 23 年 5 月 30 日

活動計画

4 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・活動開始 ・学内においてサポーターを募る、横断幕作成、バスなどの見積
5 月初旬	<ul style="list-style-type: none"> ・行程の詳細決定、バス、チケットなどの詳細決定、メディアへ活動を紹介
5 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ・試合当日、SNS、ツイッターなどで情報発信を依頼
5 月末	<ul style="list-style-type: none"> ・活動終了 ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄

T-ACT オーガナイザー 三上 昂 (システム情報工学研究科)

T-ACT パートナー 岡田 幸彦 (システム情報工学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

- ・ 活動内容
- 5月4日 水戸ホーリーホック試合視察
- 5月6日 茨城交通様とバス交渉
- 5月9日 T-ACT 授業へ参加、横断幕等購入
- 5月10日 水戸ホーリーホック萩原様とチケット交渉
- 5月14日 イベント当日

・ 目標達成度

you tube facebook 等での活動報告を行い、微力ながら活動、又「JAPAN IS SAFE!!」のコンセプトを社会へ周知できたと考え、目標達成度は75%とする。

・ 得られた成果

水戸経済新聞、soccer king（ネット版）、YahooNews（茨城版）において取り上げていただけたこと。

今後の課題

- ・ 当初予定していた人数に大幅に届かなかった点
- ・ yahoo News の掲示板においてコンセプトについて痛烈な批判があった点
- ・ 多少の予算オーバーをしてしまった点

経験者からのメッセージ

自由に社会的に活動できるのは学生の間だけだと思うので、思いの限りを T-ACT さんにつけて実際に実現してみてください！！

運営者側から見たパーティシパントの変化

水戸のサポーターと共に日本の安全をアピールするという社会的な活動を行い、又 Yahoo News 等で批判を受け社会的に自分たちが影響力を持ちえる存在だという事を意識したように感じた。実際には少しへこんでたように感じた。

T-ACT に関する感想

特になし。

非常に助けていただきました。

JAPAN IS SAFE!!
風評被害を防げ！！

ともに
叫ぼう！！

当日スケジュール

- 10:00 集合(野球場側の駐車場)
- 10:30 出発
- 12:30 到着(K'sデンキスタジアム)
- 13:00 キックオフ
- 14:30 試合終了
- 15:00 スタジアム出発
- 17:00 学校到着

目標応援人数:300人
※料金:2800円がかかります

水戸を代表するサッカーチームである水戸ホーリーホックの試合において本学の留学生と共に「JAPAN IS SAFE!!」の横断幕を掲げ、日本の安全性をアピールするとともに震災を受けた水戸を盛り上げる。

連絡先 システム情報工学研究科 M2 三上 崇 mikami@itk.tsukuba.ac.jp

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

Wall Art Festival in India 報告会～アートの中で、持続可能な新しい支援の形～ (11018A)

T-ACT プランナー

鈴木 萌 (医学群看護学類)

活動内容

2011年2月。インドで最も貧しい地域であるビハール州のとある小学校にて開催された芸術祭“Wall Art Festival”

日本とインドのアーティストによって、真っ白な小学校の壁に生まれた迫力満点の泥絵や鮮やかなミティラー画。

みんなの夢を乗せた1000枚の連凧が大空に舞う。

アートの力でみんなの笑顔が生まれる、繋がる。

なぜ、インドで芸術祭が開催されたのか？インドの教育事情や村の人々の暮らしとは？

開催理由をはじめ、数々の障壁を乗り越えての開催への道のり、フェスティバルまでのプロセス、さらにフェスティバル当日の様子などを、インド在住のスタッフを交え、伝えます。

アーティストや、私を含めたボランティアメンバーの参加や、メイキング映像、オフィシャルカメラマン・三村健二による写真パネルの展示も行います。

<仮プログラム>

18:00～入場開始 (写真展)

18:30～報告会スタート。代表挨拶

18:40～メイキング映像

19:00～ゲストトーク (アーティスト浅井裕介、未来芸術家の遠藤一郎をお招きして)

20:30～質疑応答など。

当日は募金を行い WAF2012 活動費として全額寄付する。

保健所の許可が下りればチャイを配りたい。

チャイ付きで300円の入場料とし、アーティストの交通費に全額回したい。

活動期間

平成23年5月11日～平成23年6月9日

活動計画

5月11日～	・活動開始 (メンバー集め、ポスター制作、広報など)
6月9日	・開催

備考欄

Wall Art Festival 公式 HP <http://wafes.net/index2.html>

T-ACT オーガナイザー

西川 瑛海 (地球学類)
西川 真菜 (国際総合学類)
舞田 萌 (国際総合学類)
狩野 裕子 (国際総合学類)
浜田 咲栄 (国際総合学類)
草刈 緑 (卒業生)

T-ACT パートナー

水野 智美（人間総合科学研究科）

活動報告**活動成果****【活動内容】**

- ・ 活動内容
- 5月14日 ゲストとミーティング
- 5月17日 パートナーとミーティング
- 5月19日 ポスター制作依頼
- 5月23日 教室確保、オーガナイザー確保
- 5月27日 フライヤー作成、印刷
- 6月6日 ビラ配り、T-ACT 授業にて宣伝
- 6月9日 企画実施

・ 目標達成度

90%

目標参加者 30 人を大きく上回る 50 人が参加してくれた。

その後の交流会の参加者も予想の 2 倍の約半数が参加してくれた。

感想やアンケートから企画側、参加者、ゲストみんなの満足度が高かった。

「インドに行きたい、WAF にぜひ参加したい」と言う人が多く出た。

チャイを出せて、写真展示がスムーズにいらしたら 100%。

・ 得られた成果

インドや WAF に興味を持ってくれる人を多く出せたこと。

メーリス、facebook、twitter、mixi、ポスター、ビラ、口コミなど様々な宣伝をしたことで、様々な学類、院生、筑波大生以外の来場者を確保でき、広く WAF を宣伝できたこと。

自分自身初めてイベントを企画したことで可能性を広げられたこと。

ゲストの方に「またぜひ呼んでほしい」と言っていただき、今後に繋がったこと。

今後の課題

- ・ 物品確保、確認は早めに行う…前日にバタバタしてしまった。
- ・ 教室の下見は事前にしっかりと…写真パネルが凸凹の壁に貼れなかった。マイクがつけられない機器だった。
- ・ 教室でイベント前に授業があるかないか確認…6 限まであって準備が慌ただしかった。

経験者からのメッセージ

やりたいことがあるなら

伝えたいことがあるなら

やってみてほしい!!

一人じゃ大変だけれど、思いを伝えれば賛同してくれる人がきっといます。

準備は大変だけれど、達成感とそこから得られるものはとっても大きいです。

何よりも楽しむこと!

トラブルがあってもなんとかなるから大丈夫!

周りがきっと助けてくれます ^^

運営者側から見たパーティシパントの変化

目がキラキラしているように見えました。

質問コーナーからみんながいろんなことを考えているのがわかって、伝えなかったことが伝わったように感じました。

感想から「インドに行きたい！」って人が多くて嬉しかったです。

アートやダンスや歌など、普段関わりが少ない分野にも興味がわいたのではないかなと思います。

T-ACT に関する感想

いつでも相談に行けて、心強かったです。

ポスターなどをカラーコピーしてくれるのはとってもありがたい。

学生からどんどん発信しやすいこの仕組みはずっとあり続けてほしいなと思います。

またイベント開催したくなりました！

ありがとうございました！



Wall Art Festival in India
報告会

Art × India × 支援
アートの力が繋いだ笑顔。
アートの力で生まれた絆。

“アートの力で、
持続可能な新しい支援の形”

Photo by Kedji Vignera

2011年6月9日(木)
18:30~21:00
会場:筑波大学5C216
参加費:300円
報告会内容:ゲストトーク、写真展、
ムービー上映

 Director: おおくにあきこ <small>Wall Art Project代表 フリーライターが年刊刊 誌をフィールドにインド と一帯の現場を軸に、母 親としてPTAの会で活動 したことをきっかけにボ ランティア活動開始。</small>	 Coordinator: 浜尾和雄 <small>東京学芸大学卒業後、環 球・アートをテーマに包 含着な活動をして現場を 歩き回り、コーディネート に専念。</small>	 Artist: 津野和介 <small>絵師 WAFには2010年に就いて の活動、支援者として という新しい活動領域は の身近な人たちにシン パティをもち出した。今 回はスジャーブ材から11 種類の土と筆灰を採取し て織いた。</small>	 Artist: 浅野一郎 <small>美術家団体 事務局に「未来へ」と題し 「未来へ」をテーマに 活動。事件に揺られた夫 婦の夢を継ぎ、日本中を 回りながら「One Eye Fe ture」を発展させてい る。</small>
---	--	---	--


承認番号 11041A
Planner: 筑波大学看護学部中 鈴木明
mizuaki.04@gmail.com

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 筑波にマイボトル自販機を！（11020A）

T-ACT プランナー 原 朋弘（社会・国際学群国際総合学類）

活動内容

以前実行していた、「筑波にマイカップ自販機を！」の継続版です。
環境問題が重要視される現代、ごみ削減のためにできる新しいアイデアを考えていてたどり着いたのがこの企画です。

自動販売機から排出されるごみを、自分のコップや水筒を利用することによって大幅に削減することがこの企画の最終的な目標で、まずは筑波大学にそのマイボトル自販機を設置することを目標としています。

現在日本には、マイカップを利用することができる自販機は存在しますが、水筒などのマイボトルを利用できる自販機は存在しません。移動の多い筑波大学では、持ち運びに有利なマイボトル自販機を設置することが、より多くの人々の利用を促せると考えているため、私たちは現在「マイボトル自販機の筑波大学における設置」に焦点を絞ってこうと考えています。

大規模な需要のある筑波大学ならば、日本初の試みを実験できると考えていますし、この活動は先進的な動きとして、大学のブランディングにも貢献できると考えています。

活動期間 平成 23 年 5 月 9 日～平成 23 年 11 月 9 日

活動計画

5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・活動開始 ・本格的な計画書・企画書を作成し、大学に提示する方法を検討する
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との交渉方法を模索する傍ら、大学に自動販売機を設置している業者さんと話し合いの場を設け、情報収集する。時間があれば、自動販売機作製会社とも話し合いの場所を設け、マイボトル自販機を作る可能性を探る。
7 月・8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・交渉・話し合いを続ける傍ら、実際にマイカップ自販機を設置したり、設置の推進をしている期間と話し合う。
9 月～11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、話し合いを進めて、マイボトル自販機の可能性を探る。 ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄

T-ACT オーガナイザー

佐々木 誠 (国際総合学類)
 正久 卓哉 (国際総合学類)
 田村 英子 (国際総合学類)
 鶴園 宏海 (生物資源学類)

T-ACT パートナー

白川 直樹 (システム情報工学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

< 2010 年 >

10 月 11 日：「筑波にマイカップ自販機を！ (10027A)」承認

< 2011 年 >

1 月：マイカップ自販機を実際に導入している企業 (NTT コムウェア様) や、マイカップ普及させようとしている財団法人 (マイカップ・マイボトルキャンペーン事務局) を訪問。

2 月：マイカップ自販機を実際に導入している企業 (東電環境エンジニアリング様) を訪問。

2 月：導入のために必要なデータを集めるために、アンケートを実施 (有効回答数 621 人)

→「マイボトル式自販機があれば、利用しますか？」という問いに、64.9%の学生が「利用する」と回答

3 月：つくばエコシティ推進賞 2010 グリーン賞受賞

5 月 9 日：「筑波にマイボトル自販機を！ (11020A)」承認

5 月：「筑波大学における「マイボトル式自販機」設置要望企画書 第一次案」作成

6 月 4 日：学生生活課と交渉。導入は難しいとの返答をいただく。

6 月：学内広報誌「STUDENTS」への活動掲載

11 月：日本コカ・コーラと富士電機リテイルシステムズとの協力体制を構築

タンブラー式自販機 (デispenser) の試作機が完成

(2011 年 11 月 9 日：T-ACT としての活動期間終了)

< 2012 年 >

1 月：「筑波大学における「タンブラー式自販機」設置要望企画書 第二次案」作成

2 月：ベンダー会社である利根コカ・コーラボトリングとの交渉 (予定)

・目標達成度

50%

→日本コカ・コーラや富士電機リテイルシステムズなどとの協力体制を構築し、他大学の学生団体と協力しながら試作機を作成できたことは非常に評価できると考えている。

今後は、大学生生活課と利根コカ・コーラボトリングとの交渉を行い、導入することに対して承諾を得る必要がある。

・得られた成果

①マイカップ・マイボトル自販機に対する興味のある学生 (オーガナイザー・パーティシパント) 同士の結びつけ

→元々このような活動をしたかった学生同士の結びつけることができた。

→興味を持ってくれた知り合いの学生に対して説明する際に、「T-ACT」でこのような活動をしていると説明ができ、活動に協力してもらう際に、信頼度の高い活動であることをアピールすることができた。

- ②日本コカ・コーラや富士電機リテイルシステムズとの協力体制の構築、試作機の製作
→活動を通して知り合うことのできた、他大学の学生団体と協力することで、非常に影響力の大きい企業の協力を得ることができた。

今後の課題

1年間 T-ACT として活動を行ってきたが、大学生生活課の承諾を得るために様々な課題が存在している。

その中でも大きな問題となるのが、「1つの営利業者に対して有利になってしまわないかどうか」ということである。

ベンダー業者に対して、自発的な取り組みを行うように働きかけを行い、こうした課題を克服していきたいと考えている。

経験者からのメッセージ

最初は自分の頭の中だけで描いていた構想や計画の規模が次第に大きくなり、「他人に迷惑をかけてしまうかも」という気持ちが膨らむかもしれません。

しかし、失敗を恐れずに困難にも強い気持ちで立ち向かうことが、自分を成長させると信じている仲間と共に、ぜひともチャレンジングな活動を行ってほしいと考えています！

運営者側から見たパーティシパントの変化

最初は、プランナーやオーガナイザーの意見に対して賛同するだけであったパーティシパントが、次第に自分の意見を積極的に述べるようになり、「この活動を "自分" もっと引っ張りたい！だからミーティング以外の時間でも活動したい！」といった意思表示をするパーティシパントもいました。

積極性のほかにも、礼義（社会人とのメールのやり取りの方法）やタイムスケジューリングの方法など、様々なことを吸収してくれたと思います。

T-ACT に関する感想

とにかく来年以降も、筑波大生の積極的な活動を支えるプログラムとして、存続してほしいと考えています。

筑波大学は、他の大学と比べて、学則などが厳しく、学生の自主的な活動が行いにくいいため、自主的な活動をサポートしてくれる T-ACT の存在は、非常にありがたかったです。

また、T-ACT には非常に魅力的な活動があるのに、それを広報しきれていない部分があると考えます。

なので、学内の目立つ場所（T-ACT フォーラムに近い 1D 棟とかでも構いません）に、T-ACT の活動報告スペースを設けて、今よりさらに学生同士のつながりを深めあえるプログラムになっていたできれば、と考えています。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

Table For Two in 筑波大学 ～学生に健康を、アフリカに給食を～ (11021A)

T-ACT プランナー

中村 良孝 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

- ・ 開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病に大学の学食を通して同時に取り組む社会貢献活動の推進。これまでに第三学群食堂に協力を得て、TFT メニューを提供。1385食をアフリカに寄付として援助。
- ・ 深刻な貧困状況が続くアフリカの子どもたちへの支援。現在アフリカの5カ国の子どもたちの給食を支援。
- ・ より多くの学生にTFTを知ってもらうための宣伝活動、およびTFTを導入してくれる食堂を増やす。また、学園祭に出店する。

また新たな導入先を増やすための交渉を行う予定。学内食堂を優先的に行い、余裕があれば学外への交渉も行う予定。

すでに第三学群食堂では協力を得て導入を開始。1食につき20円が寄付として援助される。

活動期間

平成23年5月2日～平成23年10月31日

活動計画

5月	・ 活動開始。メンバーを集める。TFT強化週間を実施。強化週間では導入先の食堂でTFTメニューを1週間出してもらい、メンバーを集めるため周知活動を行う。
6月	・ TFT説明会を実施。6月の強化週間についての話し合い。
7月～10月	・ 強化週間の実施および学園祭の準備、出店。学園祭に出店し、収益を寄付金とする。メニューには地元野菜や風評被害を受けた野菜(健康に害のないもの)を使用する予定。

備考欄

T-ACT オーガナイザー

秋山 キナ (国際総合学類)
井口 沙央里 (国際総合学類)
中井 秀美 (国際総合学類)
長谷川 莉子 (心理学類)
中村 俊太 (生物資源学類)
佐々木 めぐみ (生物資源学類)
森 麻衣 (生命環境科学研究科)
金井 朋恵 (比較文化学類)
伊藤 薫平 (生命環境科学研究科)
船山 舞 (国際総合学類)

T-ACT パートナー

首藤 もと子（人文社会科学研究所）

活動報告**活動成果****【活動内容】**

- | | |
|------|---|
| 5月 | 新メンバー獲得へ新歓の打ち合わせ（毎週月曜日） |
| 6月 | 三食にて新歓を実施。TFT メニューを試食してもらいながら、説明をする。
新メンバー加入。
TFT 強化週間を実施。1週間で400食寄付。 |
| 7～8月 | 夏季休業につき活動無し |
| 9月 | 学園祭・世界食料デーに向けた打ち合わせ（毎週木曜日）
上村さん（初代 TFT 大学連合代表）来校。 |
| 10月 | 世界食料デーキャンペーン
YEH と協力し、三食にてキャンペーン実施。750食寄付。
学園祭 2日間出店。235食寄付 |

・目標達成度

- ①求職支援による飢餓の削減と啓蒙活動を行うことができた。
- ②交渉活動については行うことができなかった。

・得られた成果

- ①新メンバーを獲得することができた。
- ②飢餓の削減と学生の健康に貢献できた。特に今回は過去最高の金額を寄付することができた。
- ③学園祭とキャンペーンにより啓蒙活動ができた。

今後の課題

- 学園祭にて TFT が PR できなかったこと。立地が悪すぎたこと。
- 他の活動に追われて交渉ができなかった。
- ミーティングの実施日の関係で来られないメンバーがいたこと

経験者からのメッセージ

プランにもいろいろな種類があると思います。その中で共通していて、一つ気付いてほしいことは、T-ACT はただサポートを得る活動ではないということです。TFT では T-ACT のサポートを受けることで寄付が可能になっています。これにより飢餓の削減を行うことができますが、それだけではありません。自分たちの残した功績はもっと身近に役に立っています。T-ACT を通じて可能となった功績は将来の自信となり、また支えてくださっている T-ACT の評価にもつながります。自分たちの活動が認められることが T-ACT への最大の恩返しになるということです。このように、T-ACT のプランナーには自分の活動がどれほど有益かを自覚して、活動してほしいと思います

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントではなく全員をオーガナイザー登録してしまいましたが…。パーティシパントを新メンバーとすると、大きな変化が新メンバーにはありました。

TFT はまず存続のためメンバーを集めることから今年度の活動が始まりました。メンバー集めには結果として成功しましたが、執行側のメンバーが減り、新メンバーにもすぐに仕事をやってもらう必要が出てきました。その中で始めは受け身であった新メンバーが、次第に積極的に動き、意見を出すようになったことは大きな変化でした。そして学園祭が終わるころにはもう全員が主体的に動ける

ようになっていました。

特に今年で執行をしていた三人（秋山、井口、中村）が代替わりをします。このようにメンバーが育ってくれたことは TFT 存続に向けて大きな進展となりました。

T-ACT に関する感想

ぜひ来年度も存続していただきたいです。TFT のメンバー集め、イベント実施、学園祭の実施など今年度の活動は T-ACT がなければ成し得なかったことでした。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名

チャリティセミナー第2弾：MVP 営業マンが語る！就活で自分自身を売り込み内定を獲得する方法（11022A）

T-ACT プランナー

菅野 卓也（理工学群物理学類）

活動内容

3月11日に日本で起きた震災による被害は、とてつもなく大きなものです。被災された方に対して、募金と講演会をコラボレーションさせ、様々な方向に何重にもメリットを生み出す形で貢献をしたいと思っています。

学びと、チャリティと、一石二鳥。人の輪が繋がれば一石三鳥。

無償で講師を務めてくれる社会人の方と、話を聞きたいという学生をつなぎ、生まれたお金を震災の復興の支援とすることで、ひろく社会へ貢献したいと思っています。

【セミナーの内容】

2001年筑波大学体育専門学群卒
近藤大介さんに講演して頂きます。

近藤さんの紹介：

営業マンとしては数々の受賞歴があり、求人広告メディアの営業マンで企業側にとってどんな人材が必要かのコンサルティング営業の経験や、新卒採用担当者として面接やESの選考などを担当してきた。

上記の経験から、「就活は自分自身を企業に売り込む営業」という概念をもち、昨年夏に就活生を対象に大規模セミナーを行っている。

『MVP 営業マンが語る！就活で自分自信を売り込み内定を獲得する方法』という内容で、一般的な新聞やメディアで報道される内容とは一線を画し、現場目線から就活の本質を語り、現在までで約2000人の学生が参加している。

【活動計画】

- ・開催日程は決まっていません。主に、当日参加者の告知・募集がしっかりできる日程にしたいと思っています。
- ・依頼講師との話：来ていただく事に関して、了解を得ています。
- ・寄付の方法：参加費を寄付とする。（募金箱を設置し集まったお金があればそれも寄付する。）
- ・講演会自体に対する講師謝金や交通費は不要

現在の募金候補先は、ビジョン東日本サポートネットワーク（通称：ビジョンネット）です。理由は、義援金とすると支援までに時間がかかってしまうこと、ビジョンネット内に筑波大OBの方がいらっしゃるからです。

- ・事務経費、講師謝金：なし

活動期間

平成23年5月6日～平成23年10月31日

活動計画	5月	・メンバー招集・講演会に向けての準備
	6月	・講演会実施 ・運営・反省会（活動報告書をまとめる）
備考欄	・学生オーガナイザーは未定です。 学生は直接声をかけている最中です。	
T-ACT オーガナイザー	成瀬 洋美（国際総合学類） 山口 慶子（看護学類） 杜 迅（工学システム学類） 鹿志村 むつき（化学類）	
T-ACT パートナー	松田 裕雄（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

5月中旬

メンバー招集・講演会に向けての準備を行った。

初回ミーティング開催・以降随時ミーティング（平均して週に3回ほど）及びネットでの情報共有をした。

5月下旬

T-ACT 申請の許可が出た。

学生生活課に確認をとり、HOPE100 との共催が最終決定した。

5月30日 会場の仮押さえを行なった。(2B411)

5月31日 HP・Twitter・facebook・メーリングリストでの広報を開始した。

6月6日 ミーティングを行い、告知のターゲットを定めた。

6月8日 授業前後のビラ配りを実施した。

6月11日

授業前後のビラ配りを実施した。

TAKE@WAY ホームページでの告知の打診をした。

図書館入り口と就職課チラシ置き場へチラシを設置させて頂いた。

6月16日 学食にて告知（昼休み）を行った。

6月23日 15時から準備を行い、16時から19時に講演会を実施した。

・目標達成度（その根拠も述べる）

開催：達成

集客：目標達成できず（参加者の目標 200 名に対し実際の参加者 47 名だったため）

・得られた成果

集まった4万7千円はビジョン東日本サポートネットワーク (<http://www.visionnet.jp/>) へ寄付しました。ご協力ありがとうございました。

今後の課題

- ・開催時期と時間について
一学期期末試験前の5、6限に当たる時間に実施したため、参加したくてもできない人が出てしまった恐れがある。良い条件であれば集客人数が増えた可能性がある。
- ・ミーティングについて
全員がミーティングに参加できる日時がなかったため、意思疎通を図れていない点も多かった。少なくとも週に1回は全員でのミーティングが望ましい。
- ・コアオーガナイザーの人数について
今回は3人だったが、よりよい運営をするためには5人程度が望ましいと思われる。

経験者からのメッセージ

自身&チームがそのアクションを通して何をしたいかという目標意識が大切だと思います。それは何かに迷った時に判断する基準になるからです。

また、その目標を伝える事により応援してくれる人が増えると感じました。

熱い思いは、自身を、そしてまわりの人を動かします。

また、周囲の人のアドバイスを参考にしてください。自分はこれが苦手だったということが今回のアクションを通じて学びました。納得いかない点があったらどんどん掘り下げて聞いてみてください。

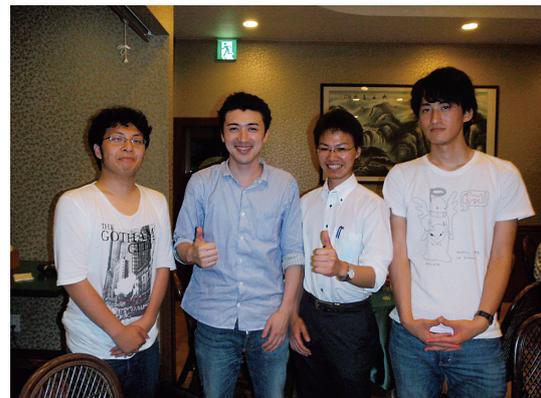
運営者側から見たパーティシパントの変化

講演会後のアンケートでは有意義な時間であった等好評な意見を頂きました。これは、参加者が情報を得たり就職活動へのモチベーションが上がったりといった変化につながったのではないかと捉えました。

T-ACT に関する感想

アクションの計画を立てる段階から、準備を進める段階・直前まで、大変お世話になりました。

また物品に関しては、テープ・名札・プロジェクター・延長コード・レーザーポインターをお借りしました。ありがとうございました。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 途上国の暮らしにふれてみよう！（11023A）

T-ACT プランナー 渡辺 健太（生命環境学群生物資源学類）

活動内容

<背景>

私は生物資源学類に所属し、途上国の開発経済学を専攻しています。

また、一人旅が趣味で、今までにカンボジアやベトナムなどの途上国を放浪してきました。そこで、日本にはない貧困の風景をいくつも見たのです。学校にも行けず働く子供。裸足でものを乞う子供。ゴミを漁る子供。路上にたたずむ目の虚ろな子供。

生で見たことにより問題意識は急激に高まります。帰国後自分でも何かできることはないか考えました。

私自身は途上国を放浪してきた実体験があるので、共感や危機感を抱くことは容易ですが、多くの日本人は恵まれた日常生活の中で途上国の貧困を案ずることなど難しいと思います。

しかし、グローバリゼーションが進む現代社会では、私たち先進国の人間も途上国の貧困とは無関係ではありません。外国産のものを購入すれば、その国の経済に参加していることになるからです。

そして、今回の東日本大震災です。日本人のこれまでの生活様式が見直されるべき時が来ているのかもしれない。

そういった背景の中で、途上国の暮らしを身近に感じることができ、貧困に問題意識の有る人が増えれば、世論が変化し、世界の貧困の解決につながるがあると思います。

<目的>

貧困を身近に感じ、問題意識をもってもらう。

<活動内容>

学内での体験型のセミナー、イベント（途上国の民芸品を手作業で作ってみよう、など）

※具体的内容はまだこれから話し合っ決めていく予定

活動期間 平成 23 年 5 月 10 日～平成 23 年 6 月 30 日

活動計画	5月10日	・活動開始 話し合いを進めて計画を練る
	5月中旬	・企画決定。広報開始。
	6月中旬	・イベント決行
	6月下旬	・活動報告書まとめ
備考欄	関連ブログ http://ameblo.jp/mammoth-pro/	
T-ACT オーガナイザー	原田 剛史（生物資源学類） 糸井 裕香（生物資源学類）	
T-ACT パートナー	松下 秀介（生命環境科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

5月24日	ミーティング
5月31日	ミーティング
6月7日	ミーティング・集会願提出・ポスター貼り
6月14日	ミーティング・廃油キャンドル作成
6月17日	廃油キャンドル作成・ビラ配り
6月21日	エコキャンドル作りワークショップ開催
6月22日	イベント実施

・目標達成度

大きな反響を起こすという目的はある程度達成できた。多くの来場者に足を運んでもらえたし、翌日の新聞の一面にも掲載されたので。

・得られた成果

来場者にキャンドルの良さが理解してもらえたと思う。
団体にキャンドルを作成してくれないかという依頼が増えた。

今後の課題

同時並行で多くのコンテンツを詰めていくことの難しさを実感した。
前日のキャンドル作りワークショップは、あまり手が回らず、結果として参加者が極めて少なかったので反省点である。

経験者からのメッセージ

どうせ T-ACT を利用するなら大きいことを！！

運営者側から見たパーティシパントの変化

特になし

T-ACT に関する感想

T-ACT に対する意見ではないかもしれませんが、大学の備品（マイク、ライト、コードなど）を借りた際、コードと器具が合わなかったりして当日ぎりぎりの時間まで焦ることになった。余裕を持って確認しなかった自分たちにも問題があるが、もう少し説明があってもいいかと思う。



1000000人のキャンドルナイト
でんきを消してスローな夜を

★ワークショップ『オリジナルエコキャンドル作り』

- 日時：6月21日 18:30-20:00
- 会場：牛久喜キャンパス 0500ラウンジ2Fホール
- 持ち物：お好きなキャンドル芯の増量。
靴こきなどで汚損致します。
- 参加費：200円（送料別）
- 定員：20名
- その他：下記のメールアドレスに名前を記載してご連絡ください。

★100万人のキャンドルナイト in 筑波大学

- 日時：6月22日 19:00-21:00
- 会場：校舎裏
- プログラム：Night Cafe 管理費別
特選炭焼き 参加費別
キャンドル作り 参加費別
大気観測システム

※入場自由・参加費無料
※雨天延期（当日、HP上で連絡致します）

アンダー：生物資源学類4年次 渡辺 大
協賛：T-ACT（つくばエナジーと中核連携委員会）
ご連絡先：03-8052-2588
tact@mammoth-pro.jp
HP: <http://ameblo.jp/mammoth-pro/>

環境省
環境政策
環境情報
環境教育
環境文化
環境芸術
環境科学
環境技術
環境産業
環境国際
環境未来

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

子どもたちとオセロゲームを楽しむ地域社会活動に参加しませんか!? (11024A)

T-ACT プランナー

倉橋 裕紀子 (人文・文化学群日本語・日本文化学群)

活動内容

この企画は、地域社会活動に大学生の参加機会をつくることを第一の目的としています。

プランナーはかつて県内で中学校教員をしていた? 年前の卒業生です。現在は競技オセロを通して市内の子どもたちとかかわっており、平成 22 年夏につくば市春日交流センター (旧公民館) で地域サークルを立ち上げました。(オセロゲームは、ルールが簡単でも子どもと大人が対等に遊べるボードゲームです。)

親子連れが多い地域市民サークルですが、大学生のお兄さんお姉さんが混じり、遊び相手をしてもらうことで、多世代の交流、人付き合いが生まれ、人へのマナーも学ぶことができるのではないかと考えています。少子化で一人っ子の家庭も多い中、子どもたちには貴重な体験となるはずです。子どもたちが様々な人間関係を持てるように、オセロゲームを通じて一緒に地域の子育て活動へ参加しませんか?

教職を目指している方はもちろん、子どもや保護者と接する活動なので、いずれ親になり、子どもを育てる時にはきっとこの経験を活かすことができると思います。そして自分自身の成長にも繋がることでしょう。

つくば市内の地域サークルなので、参加者には行政や研究関係の仕事に就いている人も多く、様々な社会人と接することで、卒業後に社会の中で自分が働いているイメージを持つこともできると思います。活動を続けていく中で学生時代の生活や将来の仕事についてなど、相談ののってもらえる人間関係を築くことができれば、きっと有意義な経験になるはずです。

活動に必要な道具 (オセロ盤など) や会場設営 (交流センター、カピオ) は、(春日交流センターサークル) つくばオセロクラブで準備します。

(経費は日本オセロ連盟 <http://www.othello.gr.jp> が負担しています。)

現在は月 1 回の活動の予定ですが、参加する学生が多ければ学内サークルに活動を発展させ、回数を増やすこともできればと思います。

活動期間

平成 23 年 6 月 12 日～平成 23 年 12 月 4 日

活動計画

< Step1 >

春日交流センターで毎月開催されているオセロクラブの練習会 (無料) に参加して、幼小中学生とオセロゲームを楽しむ。(今年度、春日交流センター予約済みの日は 5 月 1 日、6 月 12 日、7 月 3 日。以後、第 1 日曜日の予定で毎月 1 回、練習会は続きます。連絡先: tkb_othello@yahoo.co.jp)

	< Step2 > オセロクラブの活動の中で、小中学生の初心者におセロを教え、対戦をする。目上の人に対するマナーを教えたり、子どもやその保護者と過ごす時間を持つ。
	< Step3 > 希望者はつくば市内で開催される初心者向けオセロ大会に参加し、成績により、段級位の認定を受ける。(大会参加費500円がかかります。個人負担になります。)
	< Step4 > 学内に希望者が集まればサークル活動にする。互いに練習を積む事で、オセロの腕を上げ、子どもへの指導力も身につける。
	活動終了後、自分の進路や興味に沿って活動報告書をまとめる。
備考欄	つくば市春日交流センター（旧春日公民館）での活動になります。
T-ACT オーガナイザー	佐藤 貴英（数理工学物質科学研究科） 津留 奏太（社会学類）
T-ACT パートナー	飯田 浩之（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

広報活動

(学内)

- ・ T-ACT ポスター・ビラ印刷 5月26日
- ・ ビラ配り 6月2日、6月9日、6月16日、6月23日、9月15日、11月17日
- ・ T-ACT 公開シンポジウム（9月22日）参加

(学外)

- ・ かるがも・ねっと（筑波大学共生教育学研究室）発行の「つくば市子育て支援カレンダー」に「練習会案内」の掲載を依頼。
- ・ つくば市各地域交流センターに「練習会案内」を掲示。
- ・ 日本オセロ連盟茨城ブロック HP に「大会・練習会案内」を掲示依頼。
- ・ ASA 学園都市・学園並木（9万部）に「大会・練習会案内」を掲載依頼。（3ヶ月に1度）
- ・ 筑波学院大学に「大会・練習会案内」を掲示、配布依頼。

実施した活動内容

日本オセロ連盟茨城ブロック HP 参照

<http://www.othello.gr.jp/psb/s.html>

<第1回>

2011年6月12日（日）13:00～17:00

つくば市春日交流センター 和室

参加者 親子連れ9家族と大人7名（男性4名、女性3名）

水戸市在住の連盟公認指導員に1時間ほど初心者向けオセロ講座を依頼。

残りの時間は自由対局。埼玉県、千葉県からも参加があった。

- ・立ち上げから1年が経過して、1回参加して来なくなってしまう親子連れが多かった。その反省から、今回から初心者向けオセロ講座を半年（6回）で修了し、6回中3回出席すれば、全部テキストがそろえるようにした。

<第2回>

2011年7月3日（日）13:00～17:00

つくば市春日交流センター 和室

参加者 親子連れ8家族と大人6名（男性4名、女性2名）

水戸市在住の連盟公認指導員に1時間ほど初心者向けオセロ講座を依頼。

残りの時間は自由対局。初めて学生の参加があった。

- ・BCC一斉メールで、事前に全員へ練習会の連絡を入れることにした。
- ・(資)つくばジャーナル「フレッシュ21」（発行10万部）の取材を受けた。

<第3回>

2011年7月10日（日）10:00～16:30

つくばカピオ 中会議室

参加者 大人9名（男性6名、女性3名）、中学生3名、小学生4名、園児1名 合計17名

- ・対局時計を用いての初心者向け大会を開催した。（練習会に参加したことがある人は、17名中8名）
- ・初心者といっても有段者並みの実力を持つ大人もいて、優勝争いはかなり盛り上がった。（優勝は小学生）
- ・途中で帰ってしまった幼稚園児もいたが、賞品（菓子、オセロの解説本など）を全員に渡るようにした。

<第4回>

2011年7月31日（日）13:00～17:00

つくば市春日交流センター 和室

参加者 親子連れ5家族と大人8名（男性7名、女性1名） 合計15名

水戸市在住の連盟公認指導員に1時間ほど初心者向けオセロ講座を依頼。

残りの時間は自由対局。大阪より大学生2名が参加して、終了後、社会人のグループと交流を持っていた。夏休みで県外の人が多かった。

- ・9月の初心者向け大会について、有段者の部・初心者の部と二部制で行うことにした。

<第5回>

2011年9月4日（日）13:00～17:00

つくば市春日交流センター 和室

参加者 親子連れ6家族と大人5名（男性3名、女性2名） 合計18名

水戸市在住の連盟公認指導員に1時間ほど初心者向けオセロ講座を依頼。

残りの時間は自由対局。T-ACTシンポジウムポスターについて話し合い。

- ・設立して1年が経過し、連盟からの補助金について「つくばオセロクラブ」収支報告書を配布した。

<第6回>

2011年9月23日（金・祝）10:00～16:30

つくばカピオ 和室

参加者 大人9名（男性8名、女性1名）、大学生2名、中学生1名、小学生6名、合計18名

- ・対局時計を用いての初心者向け大会を開催した。（練習会に参加したことがある人は、17名中8名）千葉や愛知など県外からも参加があった。
- ・大学生2人が大会進行に協力してもらえたお陰で、運営がとてもスムーズに進んだ。受付が集中してしまい、始まりの時間が遅くなってしまったのが課題。（スタッフが足りない）

- ・廊下で遊んでいた小学生が試合開始に気がつかず、大会に出られないと思ってベソをかいてしまったハプニングがあったが、お互いの親に納得してもらって時短で試合をしてもらった。
- * 同じ和室で有段者向け大会も開催された。参加者は大人7名（男性5名、女性2名）小学生1名合計8名。
- ・ ACCS の取材があった。放送予定日は10月12日（水）～14日（金）
放送時間：7:45/10:45/12:45/18:15/20:15
- * 7時台は、前日のものが流れます。（毎週水・土更新）

<第7回>

2011年10月2日（日）13:00～17:00

つくば市春日交流センター 和室

参加者 親子連れ5家族と大人6名（男性2名、女性4名）合計17名

- ・ 今回から初心者と有段者を分け、くじで初戦の対戦相手を決めてみた。
対局が終わった者同士、声を掛け合っただけで次の対戦に移ったが、参加者から「知らない人でも声をかけやすくなった」「有段者に打ち筋を教えてもらって良かった」などの声が聞かれて、とても好評だった。
- ・ 講座は小学生に前に出してもらって、最善手進行をみんなで考えた。全員の子どものスポットを当てたので、親子連れの方に楽しんでもらえた。
- ・ 産総研の研究者（オセロ六段）が参加して、多面打ちをしてくれた。

<10月30日「つくばオセロクラブ」は「日本オセロ連盟茨城ブロック」に吸収されました。T-ACT 最終活動日12月11日>

- ・ 目標達成度（その根拠も述べる）

11月10日、今後のT-ACTの活動について説明をしました。出席した2名の大学生に学内でのサークル設立について話が出してみたところ、協力してもらえることになりました。

つくば市の「放課後子ども教室」への講師派遣、交流センターでの練習会参加（毎月第1日曜日）などを計画しています。

2016年のオセロ世界選手権は日本開催の予定なので、それまでにサークルとしての活動を軌道に乗せたいです。最終的な目標達成までもう一息です。

筑波学院大学のテーブルゲームサークルにも声をかけています。他大学間の学生同士の交流もできるようになればいいですね。

- ・ 得られた成果

オセロゲームを通して様々な人たちに出会えたことが一番の収穫です。

今後の課題

- ・ ビラ配りをしていると「なぜオセロなのか」に質問が集中しました。

多くの学生が社会人と話す機会を求めているのを実感したのですが、「オセロ」という入り口の狭さに苦戦しています。

きっと「オセロ」でなければ、もう少し応募があったのかも ...。

- ・ 研究者の登録も3人あり、親子連れの小学生の父親のほとんどは大学関係者や研究者なのですが、土日でも忙しくてなかなか出席がなく困っています。（母親が連れてくる場合が多い）

- ・ 「オセロ」自体もまだ歴史が浅く、プロ制度もありません。しかし全員が趣味で楽しんでいるので、逆に様々な専門を持った人に出会うことができます。（特に理系・文系どちらが有利とも言えない）今後、子育て支援（放課後子ども教室）や障害児教育、看護の現場での活用は望めないでしょうか。

可能性を探ってみたいと思います。

●「ゲーム」としての利点

- (1) ルールが簡単で幼稚園児から老後まで、生涯にわたり楽しめる。
- (2) 対人ゲームなので、コミュニケーションを必要とする。
- (3) 指先を使うことで、脳の活性化が図れる。
- (4) フレンドリーデザインである。盲人用オセロ（升目が凸になっている）もあり、全国大会が開かれていた。

●「競技」としての利点

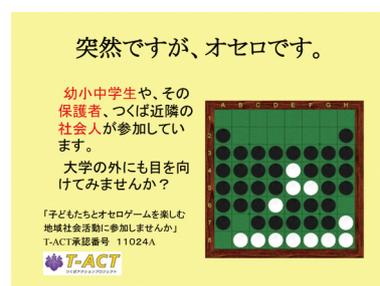
- (1) 短期間での上達が見込まれる。(1,2年続けて初段が目標。始めてから数年で世界チャンピオンになった人もいる。)
- (2) ルールは簡単だが、一生かかっても極められない奥深さがある。
- (3) 2011年5月、日本オセロ連盟が公益法人になったので、今後の発展が見込まれる。(全日本、名人戦などの全国大会や地域ブロック予選、段級位の認定もある)

●「町興しツール」としての利点

- (1) 発祥地の水戸を含め、日本では10年に1度世界大会が開かれている。
- (2) 1局あたりの時間が短く、また1日の対戦数が多いので、大会では多くの人と知り合いになれるチャンスがある。
- (3) 団体戦、親子大会やペアオセロなど（競技以外の）娯楽性を持った大会も存在する。
- (4) 震災後、電気を使わない家族団らん用ゲームとして、需要が増えている。(イメージがよい)

<練習会を運営していく上での課題>

- ・ どうしたら練習会に参加者が増え、固定するか。
- ・ 初めて来た人が楽しめ、続けられるようにする内容。
- ・ 一般や学生に向けての募集方法。
- ・ 有段者も継続して参加したくなる内容。
- ・ 指導後継者がなかなか育たない。(ボランティアのため) 少しずつ解決していきたいと思っています。



茨城県水戸市で戦後に生まれた「オセロ」。

2016年の第40回世界大会は日本での開催が予定されています。

2006年度の第30回世界大会は筑波学院大学からお手伝いに来ていただきました。筑波大学にオセロの同好会や部が設立できれば、将来、大会運営にボランティアで参加するのも、いいですね！

プランナー自身も今後、小学校の放課後教室などで普及に務められるように努力したいと思います。

経験者からのメッセージ

- ・ なぜこの活動を行うのか、明確な目的・目標が必要。(企画申請の段階から、ビラ配りまで、とにかく人に説明する場面が多いです。)
- ・ 最初の設定にとらわれず、落ち込まず、常に前向きに頑張りましょう。くじけそうになったら、最初の「目的」を思い出して！
- ・ 申請の準備やパートナーの先生を見つけるのに、意外と時間がかかるので（最低でも1ヶ月）、思い立ったらすぐに行動すること。時間は限られています。

- ・ビラは 100 枚配布して、1 人足を運んでくれるぐらいのもの。ビラは相手の反応を見つつ需要を探るツールと割り切りましょう。
- ・周囲にどこまで頼んでいいのか不安になるが、参加者を募るには何をしてほしいのか、自分が何をしたいのか希望をはっきり伝えないと活動が始まらない。まず、自分の思いを口に出してみよう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

◎オーガナイザーから大学生参加者への「役割」として、初めて来た人たち（特に小学生）に対しての「声かけ」を希望しています。

オセロ経験者の小学生（特に有段者）は、大人でも勝てないほど強いので、初めて来た子どもたちはなかなか話しかけられません。小学生は場に慣れるだけで精一杯なので、楽しんで帰れるようにお手伝いしてほしいと思っています。

→男子は小学生と対局、女子は受付でプリントを渡してくれたり、うまく仕事を見つけてスムーズに練習会が運ぶようになってきています。3 回ぐらい出席して、ようやく小学生と仲良くなってきました。

◎小学生から後期高齢者まで、ルール説明が必要な人から有段者まで、年齢層もオセロのレベルも幅広い参加者がいます。いろいろな世代の人と話してみたいと思っています。

→経験者と初めて来た人との壁があるので、最初の 1 時間を有段者同士の対局禁止の時間帯にして、「有段者の指導対局」の時間としたい。

有段者の席を固定する。初心者は受付で指示された有段者との対局が終わったら好きな場所に並び、別の人と打つようにする。

◎今は親子連れの参加者が多いので、もう少し大学生の参加者が増えることを期待しています。ぜひ友達を連れて参加してください。

→参加者に小学生低学年男子が多いですが、この年代はまだまだ母親にくっついてます。女子学生のがいいかもしれません。

高学年になると男子学生の出番です。その辺りも意識して対戦相手を選んでみてください。

T-ACT に関する感想

筑波大生は（特に親元から離れている人も多いので）人間関係が大学の中だけで完結してしまいがちです。社会に出た時に”世間一般の人の考え方”にかなりギャップを感じる人が多いのではないかと思います。私は卒業後、教員の仕事に就いた時、「保護者（親）」の物の見方や「塾に来ていない層の子どもたち」との接し方で、いろいろ苦労しました。

私が T-ACT の活動をしてみたいと思った動機でもありますが、学生時代には学業と共に、自分の卒業後のライフステージをイメージするため、多くの世代（タテ）の人たちと、幅広い（ヨコ）関わりを意識的に持ったほうが良いと思います。将来、どんな仕事についても市井の人たちとコミュニケーションは必要なのです。

大学卒業後、いきなり社会に出るのは誰しも怖いものです。また筑波大学（生）が外からどのように見られているかを知る良い機会です。

T-ACT に限らず、学生時代に多くの人と関わりを持てるように、これから学外の人との活動をもっと増やしていただければと思います。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 学生プロレス興行 (11028A)

T-ACT プランナー 久保 希久男 (医学群医学類)

活動内容

学生プロレスを雙峰祭で行います。運営スタッフやレスラーを募集したいと考えています。

私は筑波大学で唯一の学生プロレスをやっている学生です。一橋大学の学生プロレス団体に所属して、一橋大学、東京大学、武蔵野美術大学、東京農工大学などの学園祭で学生プロレス興行に筑波大生として一人で参加しています。

昨年、一昨年と所属する学生プロレス団体を雙峰祭に誘致し、学生プロレス興行を小規模ながら実現しました。しかし、新しい筑波大生のレスラーがいなければこれ以上の発展はありません。また、私の引退とともに筑波大における学生プロレスの灯が消えてしまうことでしょうか。

不況や震災に見舞われてあらゆる面で自粛ムードが蔓延し、本当に馬鹿なことがやりにくい状況の中で、学生らしく馬鹿なことができる場こそがプロレスであると私は信じています。

T-ACT で募集したメンバーが雙峰祭のみの参加ではなく、他大学への学園祭へ筑波大学代表として継続参戦していただければ、いずれ公認サークルとして筑波大学に「プロレス研究会」を設立することが可能であると考えています。

企画メンバーには「レスラー希望者」と「運営スタッフ (リング設営およびセコンドのスタッフ、リングアナウンサー、実況アナウンサー、マネージャーを含みます)」の2種類があります。

レスラー希望者で実際に関わってみて運営スタッフ側にまわるメンバーや、その逆の場合もありますので、関わっていく中で自由に各自が選択できます。

私たちの学生プロレス団体は、その他の学生プロレス団体とは異なり、危険な技を禁止してお笑いの要素に重点を置いています。母体となる一橋大学のプロレス研究会が文化系サークルとして登録されていることがその理由でもあります。

通常のプロレスと異なり、学生プロレスはリング上のレスラーだけではなく、セコンドやリングアナウンサー、実況スタッフ全員に役割を与えて演出を構成する興行形態をとっています。いかにお客さんを盛り上げていく試合を作り上げていけばいいのか、そして1試合1試合だけのクオリティーだけではなく、全試合を通した興行全体でお客さんに評価されるにはどうしたらよいかを全員で話し合い、お客さんすべてが満足するイベントをこれまでも続けてきましたし、筑波大学においてもそれを実現したいと考えています。

インターンや留学で自分磨きをすること、資格をとってスキルアップを目指すことは確かに大切なことでしょうか。しかし、学生時代にしかかけない汗があると私は思っています。そういう意味では、学生プロレスとはかけがえのない「青春の無駄づかい」をする場といえるでしょう。

活動期間	平成 23 年 6 月 1 日～平成 23 年 10 月 9 日	
活動計画	6 月	・活動開始 ・メンバーを集め、学生プロレスの主旨を共有する。 これまでの興行のビデオ鑑賞など
	6 月～9 月	・レスラー希望者は一橋大学小平キャンパスで練習をする。
	10 月 9 日	・双峰祭 ・学生プロレスを継続したいスタッフは、引き続き他大学の学園祭に参加する。
備考欄	ホームページ http://www.geocities.jp/hwwa1978/home.html	
T-ACT オーガナイザー	小平 義之（情報学群情報メディア創成学類）	
T-ACT パートナー	入江 賢児（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

10 月 8 日 学生プロレス興行開催

- ・目標達成度（その根拠も述べる）
学園祭実行委員会から上々の評価を得た。
- ・得られた成果
来年の新歓活動に向けての HP 作成やビラ配布などのサポートメンバーを獲得した。

今後の課題

一定の知名度と理解を得られたので、これを活かした本格的な新歓活動を来年春から行う。具体的には HP・PV・ビラ作成。

経験者からのメッセージ

したり顔で現状分析と批判にいそしむ良識者よりも、行動を起こす偽善者であれ！

運営者側から見たパーティシパントの変化

「感動」という言葉からもわかるとおり、人を動かすのは「理屈」だけでは物足りない。いかに対象者の「感性」に訴えるべきか。

T-ACT に関する感想

十二分に支援していただきました。申し分ありません。ありがとうございました。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 ヤシマ作戦 in Tsukuba – SAVE POWER 25 – (11029A)

T-ACT プランナー 川瀬 雅士 (理工学群工学システム学類)

活動内容

【立案の背景】

○節電目標 25%削減は、事実上 50%の節電をしなければ達成できない！！

筑波大学での節電目標の 25%削減は、通常の全学電力使用量のうち約 50%は機器設備の維持等の電力（ベース電力）で節電対象にならない為、残りの 50%の電力使用の中で達成しなくてはなりません。

○学生は大学の電力使用の 76%に関わっている！！

実際、学生が大学の電力使用に関わっているのは、全体の電力使用量の約 76%にも及んでいます。（教育の場では 10%、研究の場では 60%、生活の場では 6%）

○学生に対する節電への働き掛けが足りない！！

大学本部から教員や職員への節電の働きかけはされているものの、大学の主な構成員である学生への働きかけが足りないのが現状です。

○節電で被災地復興に貢献できる！！

現在、東京電力管内で余剰電力が出来ただけ東北電力へ電力を融通することになっている為、節電に取り組むことで、復興に向け電力を必要としている被災地へ電力供給の面で貢献できます。

参考 URL: http://kaden.watch.impress.co.jp/docs/news/20110513_445500.html

以上の背景から、

学生が一体となったヤシマ作戦（節電に取り組める環境づくりを進め、実際に節電に取り組む）が筑波大学には必要と考え、本企画を立案しました。

学生主体となって節電に取り組む例を見ないこの企画。

筑波大学でヤシマ作戦を実行し、社会に貢献してみませんか？

【活動目標】

計画停電を防ぎ、被災地に電力を送る！

そのために、筑波大学でのピーク消費電力を 25%削減する！

【活動内容】

この企画に参加してくれる方には、

以下の活動に携わって頂きます。

1. 節電アクションシールラリー

【内容】

大学の建物内に節電に取り組んでもらえるようなシールを、電灯のスイッチやエアコンの操作パネル等に貼る活動

【期間】

6/13（月）、6/17（金）のお昼休み（予定）

2. 節電アクションポスターの配布、掲示

【内容】

大学内に節電に取り組んでもらえるようなポスターを
配布・掲示する活動

【期間】

6月第3週中に実施予定

3. ツイッターを使って節電行動をつぶやく

【内容】

自分の節電行動を SNS のツイッターを使って、
ハッシュタグ（#84ma_298）でつぶやく活動

※この活動はツイッターのアカウントを持っている人で、この活動に協力してくれる人対象です。

【期間】

随時

※少ない日数の参加でも大歓迎！一緒にヤシマ作戦を盛り上げましょう！

また、コアメンバーも随時募集中なので、積極的に関わられる人も絶賛募集中です！！

【立案までの経緯】

○4月中旬：有志で集まり、筑波大学でどのように節電に取り組めるか考え始める

○4月下旬：有志、大学の先生や大学職員を交え MTG を行う

○5月中旬：環境系サークルを中心に節電関連イベントを開催する

○5月下旬：T-ACT のアクションとして全学で取り組める活動の企画を練り始める

活動期間	平成 23 年 6 月 13 日～平成 23 年 10 月 1 日	
活動計画	6月第1週 《企画立案》	○ T-ACT 化に向けた MTG の実施 ○ T-ACT 申請
	6月第2週 《活動準備》	○ T-ACT 承認 ○ 人員募集（説明会の開催、各団体への PR 活動） ○ シールや、ポスターなどの準備 ○ メーリングリスト開設
	6月第3週 《活動開始》	○ 節電シールラリー【6/13(月)、6/17(金)実施予定】 ○ 節電ポスター配布、掲示作業 ○ 節電行動ツイート（#84ma_298）
	6月第4週 ～夏休み 《任意の活動》	期末テストや夏休みの為、 節電に取り組める場所、時間で任意の活動をする。

備考欄	<p>※活動期間は10月までとしていますが、電力供給状況などにより、早めに終了する可能性があります。</p> <p>※この企画は筑波大生（学群、院生）全員に取り組んでほしいという希望を込めて、あえて、予定希望人数は16,000人（現役筑波大生のおおよその人数）にしています。</p>
T-ACT オーガナイザー	<p>小貫 哲志（社会工学類） 鈴木 航（化学類）</p>
T-ACT パートナー	<p>内海 真生（生命環境科学研究科） 岩本 浩二（企画室講師）</p>

活動報告

活動成果

【活動内容】

- 4月10日：【ミーティング】有志で集まり、筑波大学でどのように節電に取り組めるか考える。
- 4月21日：【ミーティング】有志、大学の先生や大学職員を交えミーティングを行う
- 5月20日：【イベントの実施】環境系サークルを中心に節電関連イベントを開催する
- 5月22日：【ミーティング】T-ACTのアクションとして全学で取り組める活動の企画を練り始める。
- 5月28日：【ミーティング】T-ACT化に向けたの実施
- 6月3日： T-ACT 申請
- 6月13日： T-ACT 承認、人員募集（説明会の開催、各団体へのPR活動）
- 6月15日： 活動に必要なシールや、ポスターなどの準備
- 6月17日： 節電シールラリー、NHK水戸放送局からの取材
- 6月20日： 節電シールラリー、節電ポスター配布、掲示作業

・目標達成度（その根拠も述べる）

【80%】

理由：

- 本企画の目標は筑波大学内での節電目標25%減の達成であったが、未達であったため（結果：約20%減）

・得られた成果

- 個々のメンバーの成長

少ない運営メンバー数であったが、個々の強みを活かせる役割分担を行ったことによって、効率的に企画を進めることができた。そのうえ、個々が自分の強みを伸ばすことができたと考える。

今後の課題

- メンバーに責任の重い役割を担わせたこと

アクション中に、学群長などに交渉をすることがあった。その交渉を全て一人のメンバーに任せたことにより、そのメンバーだけに重い役割を担わせてしまった。

今後は、責任の重い役割はなるべく分担できるように、複数のメンバーでその役割を担うようにする。

経験者からのメッセージ

T-ACTは、企画の立案から企画の実施、終了まで様々な相談に乗ってくれたり、支援をしてくれます。そして、T-ACTに承認されれば、大学内で活動しやすくなります。

ぜひ、大学内で実現したい企画があれば、T-ACTを活用してみてください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

○節電の重要性の認識、節電意識の醸成

本企画では参加者それぞれに、節電の重要性を説明していき、実際に節電行動することが出来た。この企画をきっかけに参加者が自宅での節電行動を積極的に実施できたということから、節電の重要性の認識および節電意識の醸成が出来たと考える。

T-ACT に関する感想

特にありません。

企画から実施に亘り、様々なご迷惑をおかけいたしました。温かいご支援、ご協力をくださりましてありがとうございました。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 つくば理学カンファレンス (11030A)

T-ACT プランナー 林 彩 (理工学群数学類)

活動内容

学生にとって、自分の専門とする学問の知識を深めることは必要なことですが、その基礎となる部分や隣接する部分に対する知識を合わせて持つことは、事象の理解や応用的な面から考えて重要なことだと私は思います。

しかし、その基礎となる分野や隣接する分野に対して、理解を深める機会というのは今はなかなか多くないように感じています。

筑波大学では様々な分野を専攻している学生が多いと思いますが、専門以外の分野に対してのおもしろさや興味を持つ機会が少ないのではないかと考えています。

また、私は高等専門学校（高専）出身ですが、高専は工学系が中心となったカリキュラムが組まれているため、隣接分野や基礎科学としての理学に対して理解する機会というのがなかなか少なく、それが原因で理学へ対しての興味・関心を持つ学生が少なくなっている現状があります。

そこで、筑波大生や高専生、その関係者を中心として、理学に対しての興味や関心を広く持つてもらうために勉強会を開催することを考えました。

この勉強会は、筑波大学生を中心に運営し、ポスターセッション形式、プレゼンテーション形式で、発表者の方に理学に関するお話をしていただき、理学に対しての理解を深めてもらうことを目的とします。

参加対象としては

- ・ 大学関係者（学生、教職員）
（特に高専から大学に編入学してきた学生に高専生に対してアドバイスをしてもらう）
- ・ 高専生
（特に大学に編入学を検討している学生に大学の雰囲気を感じてもらう）
- ・ 高専関係者（教職員、卒業生など）
- ・ 興味のある一般参加者

を想定しています。

なお、今回の東日本大震災で被害を受けた筑波大学関係者、高専関係者も多いため、支援のために募金箱を設置することとします。

活動期間 平成 23 年 6 月 15 日～平成 23 年 11 月 30 日

活動計画	平成 23 年 6 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ・活動開始 ・イベント開催に必要なメンバー募集を開始する。 ・高専カンファレンスとして行うための開催宣言を行う。 ・メンバー間での打ち合わせ、連絡に用いるメンバーリストを整備する。 ・発表形体等企画の概要をとりまとめる ・発表形体の決定 ・特別企画の決定 ・特別講演（基調講演）者の決定
	6 月～9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの告知に必要なポスター、パンフレットの準備を終わらせる ・実行委員でのミーティングを行い、顔合わせを行う。（決めることがあれば、ここで決定させる） ・パネルディスカッション発表者、一般発表者、LT発表者の募集する→発表者の決定
	9 月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者募集開始 ・事前最終ミーティングを行い、メンバーの当日の分担などを決定する
	10 月 7 日	・準備（会場設営）
	10 月 8 日	・活動日当日
	10 月中旬	・参加者に振り返りをしてもらい、それをフィードバック
	11 月末	<ul style="list-style-type: none"> ・活動終了 ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる
備考欄	ホームページ http://kosenconf.jp/?031sciences	
T-ACT オーガナイザー	道井 俊介（システム情報工学研究科） 中澤 暦（化学類）	
T-ACT パートナー	坂井 公（数理物質科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

2011 年 2 月	活動について発案
2011 年 6 月 15 日	T-ACT 活動開始
2011 年 8 月 11 日	ミーティング（on Skype）
～ 2011 年 8 月 15 日	発表者募集方法たたき台作成
～ 2011 年 8 月 30 日	学実委への各種申請
2011 年 8 月 20 日～ 2011 年 9 月 15 日	発表者募集
2011 年 9 月 1 日	発表者プロシーディングサンプル提示

2011年10月8日 当日

その後、振り返り

また、基本的にやりとりは、メーリングリスト上で期間中ほぼ毎日行いました。

・目標達成度（その根拠も述べる）

75%くらい？

良かった点は、参加者が思った以上に集まってくれたこと、楽しんでもらえた様子であったこと、プロシーディング集を残すことができたこと。

改善点は、スタッフ集めに苦勞したこと、発表内容が比較的数学に偏ってしまったこと。

・得られた成果

学園祭期間中という時間で勉強会をしたにもかかわらず、多くの人が足を運んでくださった

今後の課題

- ・節電のため、活動日時を変更せざるを得なかった
- ・学内スタッフが少なかったため、自分自身が「ボトルネック」化した
- ・個人依存的な部分が残ってしまった
- ・学園祭実行委員会との関係（立ち位置がよくわからなくなった）

経験者からのメッセージ

やりたい！と思ったことは、とりあえずやってみるのがいいと思います。何事にも言えると思いますが。

運営者側から見たパーティシパントの変化

正直、自分のことで精いっぱい、うまく見れていませんでした。

ただ、リソースの割り振りをもう少し正確にすれば良かったかなとは思いました。

T-ACTに関する感想

特にはありません

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 筑波大学 ^{メンネルコール} Männerchor ～男声合唱への誘い (11031A)

T-ACT プランナー 川邊 貴英 (人文・文化学群人文学類)

活動内容

筑波大学 Männerchor (メンネルコール) とは、男声合唱を熱く歌い上げる団体です。男性の学生はもちろん、女性、または教職員の方も歓迎いたします。詳細は、以下をご覧ください。

【背景】

昨年、2010年に「第1回全日本男声合唱フェスティバル in みやざき」が開催されたことを筆頭に、現在「男声」合唱に注目が集まっています。筑波大学では2003年度に「筑波大学メンネルコール」が解散して以来、男声合唱の熱い歌声を聴く機会は、著しく減ってしまいました。3.11の悲劇を受け、日本が再生へと向かう今、「男声」の力強さで、この“筑波”から日本を元気にしようではありませんか。

【取り組む曲】

- ・遠藤謙二郎 編『男声合唱曲集 シブリの森から』(ドレミ楽譜出版社、2007)
- ・多田武彦 作曲『雨』(音楽之友社、1981)

【団体アイデンティティー】

- ・強いつながりの構築
- ・プロの指導を受ける
- ・柔軟な「組織」

これは、「筑波大学 Männerchor」第一弾企画です。第二弾では、演奏会の開催を目指します。初心者・兼サークル歓迎します。また、教職員の方も参加できます。女性の方も歌うことは出来ませんが、参加はできます。

少しでも興味をもたれた方、是非気軽に参加してみてください。

また、詳しくはホームページ、または以下のメールアドレスまでお問い合わせください。

E-mail; maennerchor.of.univ.tsukuba@gmail.com

ホームページ; <https://sites.google.com/site/maennertsukuba/>

※文字数の制約上、以上は「筑波大学 Männerchor T-ACT 企画書」からの抜粋でございます。さらに詳細をご覧になりたい方は、お手数おかけいたしますが、<https://sites.google.com/site/maennertsukuba/principle> にアクセスし、ご覧ください。

活動期間

平成 23 年 6 月 14 日～平成 23 年 12 月 14 日

活動計画

5 月～ 10 月	・パーティシパントの募集、発声練習、曲音取り、曲の合わせ
10 月	・学園祭への出展
11 月～	・プロの指導、OB との合同練習、曲の更なる精錬

備考欄	ホームページ https://sites.google.com/site/maennertsukuba/
T-ACT オーガナイザー	大出 彩佳 山田 梨紗子 渡邊 雅也 前田 邦憲 西村 悠 石川 幹生 嶋田 佑貢 出井 利奈 鷺谷 知洋 細谷 祐希 山根 優生 川島 裕貴 本橋 卓也
T-ACT パートナー	中内 靖 (システム情報工学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

- 5月3日 東京六大学合唱連盟定期演奏会鑑賞
- 5月10日～ ミーティング (毎週火曜日)
- 6月1日 六本木男声合唱団倶楽部 イェール・アリーキャッツ ジョイントコンサート 鑑賞
- 7月5日 第1回練習 (以降、毎週火曜日練習)
- 9月3日 男声合唱団K O Σ M O Σ 男声合唱団「風」Joint Concert 鑑賞
- 9月24日 筑波大学管弦楽団 第70回定期演奏会 鑑賞
- 10月9・10日 学園祭「じゃがそば!」出店
- 12月11日 芝浦工業大学音楽部メンネルコール 第51回定期演奏会 鑑賞
- 12月22日 一般学生団体として認可

今後の課題

●オーガナイザー間での、情報共有が難しい

メンネルにはじめて生じた問題が、「情報共有」でした。プランナーの中では考えがまとまっているが、それをオーガナイザーに伝えるのが難しい。また、私が伝わっていると思っていても、伝わっていないことも多々ありました。この問題については、Wikiをつくることで一時解決することができましたが、今もなおWikiでは補いきれない部分が存在します。従って、こればかりは普段から、プランナーとオーガナイザーの交流を密にし、お互いの事を理解する必要があると思います。



●「サークル」ではないという立場

私は、T-ACTをサークル設立の足がかりとして利用させていただきました。しかしながら、T-ACT期間中はあくまでT-ACT団体であって、一般学生団体ではありません。つまり、微妙な立場なのです。具体的にいえば、渉外の時に少々難しい局面がありました (e.g. 今の現状を芸サ連の方に説明するときなど)。

現在、メンネルは一般学生団体であるので、前述のような問題はありませんが、もしT-ACTをサークルの立ち上げに利用するとしたら、気をつけた方がよいと思います。

経験者からのメッセージ

●サークルの立ち上げにも使える！

T-ACT は本来、短期間プロジェクトの為の仕組みですが、サークルの立ち上げ時にも利用できます。私は1年生の5月に男声合唱団を復活へ向けて動き出したのですが、1年生の5月では、大学につながりや基盤などは一つもない。そんな状況に突破口を開いてくれたのが、T-ACT です。T-ACT の強みは、なんといっても広報活動が広く出来ること。特に、食堂等に設置してある電子掲示板は宣伝効果が高いようです。また、自由にコピーがとれることも大変ありがたい。オーガナイザーへの事務書類や宣伝ビラの作成も、T-ACT だからこそ難なくできました。

●「上手に」甘える

T-ACT フォーラムには、樫村さん・半田さんがいらっしゃって、いつでも相談に乗ってくださいます。

企画を運営していると、困難にぶつかることが数多くありますが、そんな時もお二人に相談すれば、力になってくださいます。また、T-ACT システムを通して知り合った、他の人に頼ってもよいでしょう。私の場合、出身校が同じだったM先輩とT-ACT を通じて出会い、様々な面で助けられた記憶があります。

何かをやるうとした困ったとき、そんな時はT-ACT に甘えてみてはいかがでしょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

●男声合唱への「誘い」

男声合唱という世界は、(自分でいうのもなんですが)マイナーな世界です。

合唱に縁がある人だったらいざ知らず、縁がない人にとっては一生触れない世界でしょう。この企画を通して、合唱初心者是一名だけでしたが、彼は「こんな世界があったなんて、知らなかった」と、目を丸くしていました。この世界に、また一人男声合唱の魅力を知った人が増えたこと、これがこの企画の大きな成果でしょう。

また、合唱経験者の中でも、男声合唱は聴いたことがないという人もいました。

この人にとっては、メンネルでのコンサート鑑賞が、既存の「合唱観」をブレイク・スルーする、よい起爆剤となったことと思います。

●自信が生まれた

この企画は、ほぼ学群1年生のみで運営していましたが、学群1年生だけでも、これだけの成果が残せるのだ、という現実が自信につながったと思われます。

実際、学園祭の模擬店運営では、多少の混乱はあったものの、想定以上の利益が出ており、それらはメンネルの活動費へと還元されています。

大学に入って、右も左も分からない頃から活動してきた成果が、このような形となって現れたのはメンネル全員が誇るべき成果でしょう。

T-ACT に関する感想

これまで「筑波大学 Männerchor ～男声合唱への誘い」をサポートいただき、ありがとうございました。

この場を借りて、パートナーの中内先生、T-ACT 専任教員の樫村さん、半田さんには、厚く御礼申し上げます。

要望もこれといっていないですが、敢えて挙げるとすれば、T-ACT の Twitter アカウントをもう少し活用していただけるとありがたいです。T-ACT の HP と食堂の電子掲示板以外、なかなか T-ACT の企画について情報を得る手段がないように思います。

以上が私の愚見ですが、参考にしていただければ幸いです。末文になりますが、「筑波大学 Männerchor ～男声合唱への誘い」を運営するにあたり、私をサポートしていただいた皆様様に、改めて感謝申し上げます。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

つくばサイクルプロジェクト (Tsuku-Bike) (11033A)

T-ACT プランナー

佐藤 良太 (システム情報工学研究科)

活動内容

本企画では、廃棄自転車を活用したコミュニティサイクルシステム構築への模索を行う予定です。この企画を通じ、廃棄自転車の有効活用及び新しい自転車利用への足がかりを築きたいと考えています。

活動期間

平成 23 年 5 月 1 日～平成 23 年 10 月 31 日

活動計画

5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・活動開始 ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
5 月～ 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティサイクルシステムの構築、社会実験のための費用工面、放置自転車の入手及び自転車整備、大学、行政、地域企業への協力要請、web ページ等による広報、社会実験
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・活動終了 ・社会実験を振り返り、導入可能性について検討する。大学などに提案を行い、本格運用を目指す。

備考欄

※法律相談によって権利関係、または運営関係の諸問題の解決スキームを探る (現在相談中)
 ※大学と交渉し、社会実験の実現に向け奔走中

T-ACT オーガナイザー

川村 竜之介
 山本 克己
 宮川 雄貴
 山本 泰弘
 田中 魁偉

T-ACT パートナー

岡本 直久 (システム情報工学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

毎週火曜日 18 時半より MTG

- 6 月 27 日 企画室と今後の方針について話し合い
- 9 月 2 日、3 日 富山のコミュニティーサイクル事例見学
- 9 月 22 日 T-ACT シンポジウム ポスター出展

- 9月27日 ホームページ公開
- 10月9日 筑波大学学園祭 ポスター出展
- 11月14日 法律相談
- 11月30日 企画室と今後の方針について話し合い

- ・目標達成度（その根拠も述べる）
5割

ホームページの開設など、広報面では注力できたものの、肝心の企画の立案のペースは遅かった。ただ、3期目の活動の萌芽的要素を育むことができた点は良かった。

- ・得られた成果

サイクルシェアリングの構想には、人手、資金面、法律面から行き詰っていました。

今期から新たなパートナーとして入った山本君が、サイクルシェアリングの前哨戦としてレンタサイクルを行ってみれば良いのではという提案があり、また少しずつ前に進むことができました。

また、この活動がある程度認知されるようになり、筑波大学内問わず、外部からも問い合わせが来るようになったのは大きな収穫だと思っています。

今後の課題

- ・メンバーの確保（活動に携わった大部分の学生が卒業してしまうため）
- ・本格実施への一步を踏み出す（筑波大学企画室、都市交通タスクフォースなどの資金を活用して、有意義な実証実験を行う）
- ・他団体（3Eカフェなど）との連携
- ・代表者佐藤のワンマンに同意してくれる人がついてくると感じになっています。もっと皆で運営していけるような組織にしたい。

経験者からのメッセージ

やってみたいと思ったら、とりあえず登録してみる。まずはそこからです。思い立ったが吉日。だんだん進めていくうちに流れができていくものです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

皆、運営側という理解なので、この設問は答えられません。

T-ACTに関する感想

T-ACT、恒久的に継続して欲しいです。何かやりたいと思う学生にとって、T-ACT 程心強いパートナーはいないと思います。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 「がんばっぺふくしま」第1回応援バスツアー（11035P）

T-ACT プランナー 青柳 悦子（人文社会科学研究科 教授）

活動内容

（概要）

福島県に精通した本学卒業生とともにいわき市・郡山市やその周辺を訪ね、現地の人と交流しながら現状への理解を深める日帰りバスツアー。また、おみやげなどの購入によって福島県を応援する。今後できることを探すのもこのツアーの目的。

（詳細）

今回の大震災にあたって誰もが「何かしたい」と思っているのではないのでしょうか。でも特別な能力もないし、つてもないから…、とこれまであきらめてきた人も多いのではないのでしょうか。

福島県はつくばからも近いですが、地震・原発事故・風評被害などにみまわれてしまいました。人々は日々どんな思いでいるのでしょうか。現地の「状況」はどのようなのでしょうか。百聞は一見にしかず。

いわき市・郡山市や周辺の、学校、農家、食品販売店などを訪ね、本学卒業生やその知人など、現地の人々から話を伺います。

いま、普通の人々が「震災後」をどのように生きているのか、実際に肌で感じることで、日本の今を問い直すチャンスにもなるでしょう。

このバスツアーは社会人である卒業生やその知人なども参加するので、筑波大の学生や教職員が、学外者と交流するチャンスにもなります。

牧場で食事したり、観光を兼ねた楽しいおでかけの側面ももたせます。

活動期間

平成23年6月27日～平成23年7月31日

活動計画

6月末～ 実施日まで	随時スタッフで打ち合わせ 訪問場所・接する人物などの決定：（現在の想定）高校、農家、工芸工房、食品業者、市役所関係者（個人的に）、避難者である高等専門学校生、など 訪問ルート 借上げバスの手配 バスツアー当日に一日で浴びる放射能についての予測
6月末	・（T-ACTの申請が認可され次第）～7月12日（くらい）参加申し込み期間
7月前半	・バスツアーについての事前説明会
7月17日（日）	・バスツアー当日 ・借上げバスにより、新宿－我孫子－つくば（筑波大学）で参加者を乗せ福島へ。 ・訪問後、同日内に帰着

	7月後半	・総括。活動情報のHPなどでの公開
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	榎 健太郎（比較文化学類）	
T-ACT パートナー		

活動報告

活動成果

【活動内容】

・活動内容

筑波大学卒業生の橋本由浩氏（コマツ勤務、福島県出身）を中心にした、福島応援活動の一環として、いわき・郡山を訪ね、現地の人々の話を聞き、交流するバスツアー。

- 6月25日 総合科目 T-ACT の授業で、この活動の宣伝をさせてもらう（チラシ配布）
 7月1日 橋本氏との打ち合わせミーティング
 7月9日 橋本氏および現地の会沢さん（高等専門学校生）が訪問コースの下見
 7月15日 筑波大学アイソトープセンターで、放射線のスポット線量測定器1台・積算線量測定器2台を借りる
 7月17日 ツアーの実施

ツアーコース

- 08:30 TX つくば駅から貸し切りバスでスタート
 （常磐道）いわき中央インターで降りる
 （国道49号）平バイパス
 10:40 福島高専着：高等専門学校生〔原発近くからの避難者〕会沢さん、および筑波大卒業生高校国語教諭の荒川氏と合流
 （国道6号線）北上
 11:00 「四ツ倉道の駅」で休憩（津波災害状況認識）
 さらに北上して広野町（原発20キロ圏立ち入り禁止地点）まで行ってUターン（近辺の無人化した地域の状況をまのあたりにする）

★車中で、会沢さん、荒川氏のそれぞれに、震災直後の避難体験や現在までの生活状況、日々考えていることなどについてのお話を聞かせてもらう

- 12:30 いわき市の福島高専に戻り、2人と分れる
 （いわき中央インターから常磐道に入り、すぐ磐越道に入る。）
 磐梯熱海インターで降りて、その後北上して郡山郊外の石筵ふれあい牧場へ

- 14:00 石筵ふれあい牧場着
 バーベキューを食べながら現地の3名の方と交流し、お話をきく
 ・コマツ郡山工場勤務の中村氏
 ・会津で食品加工業を営む小椋氏
 ・郡山で工芸活動を展開する女性美術家の松岡氏

- 16:30 牧場出発
 帰路の車中で、原発作業員の方たちへのメッセージを書く

- 20:00 つくばセンター到着

- 7月19日 参加パーティシパントの簡単な感想を集める
- 7月20日 原発作業員たちへのメッセージをデジタル化して作業会社責任者に送信。内容が多くの作業員の励ましになるとのことで、当該会社の社内用HPに載せてもらうことになった。
- 7月28日 橋本氏ほか企画メンバーで反省会。および、原発作業会社責任者に作業員へのメッセージの現物を渡す。

* 今後、福島訪問ツアーについての感想をまとめる予定

・目標達成度：8割

今回はとにかく現地に行ってみること、そして現地の人から直接話を聴くことが目的だったので、実行できただけで成功。

もともと企画メンバーの知り合いだった人たちとの交流なので、訊きにくいことも立ち入って聞けた面がある。

ただし参加者が少なかった（T-ACT 関連で7名、一般社会人5名）のは残念。

宣伝期間が短かったせいもあるが、7月半ばまでに実施するというタイミングが重要だったので、仕方がない。

準備途中で、参加人数の少なさや、その他の突発的な事情のせいで企画を中止することも考えたが、思い切って実施することにしてよかった。

・得られた成果

原発災害に直面する人々の苦労はそれぞれに深刻であるけれど、苦しんでいる事柄の種類や受け止め方は多様であるということをもざまざと知ることができた。

またニュースなどの報道で知るのとは違って、実際に身を置いてみることで、見えない放射能の脅威が人間の生活と心に与える影響について感じる機会を持つことができた。

今後の課題

企画を思いつき T-ACT に申請したのが6月半ばすぎ。承認されて宣伝を始めたのが23日以降だったので、遅かった。やや尻込みもあり、宣伝活動が消極的だったかもしれない。T-ACT の総合科目でチラシを配らせてもらったがそこからは参加希望者が一人も出なかった。

遠慮せず、恥ずかしがらずに、積極的に身近な人や知り合いなどに働きかけるのが大事かもしれない。

（今回、実施日間に、職場で近い齋藤先生が参加を表明してくれて嬉しく思った。逆に、自分のまわりの人に、あまり働きかけなかったことを反省した）

T-ACT をもっと教員どうしのなかで流行らせることも大事かもしれない、と思った（T-ACT 運営委員としての感想）。

経験者からのメッセージ

T-ACT という枠組みのおかげで、思いつきを「かたち」にするのが、たしかに楽になる。

ポスターやチラシをつくったり、活動計画や、一緒に運営してくれる人を探すのも、実現までのよいステップになる。

その一方で、T-ACT の枠組みが要求していないことが、活動の成功の度合いにつながってくるように思った。自分の友人を総動員したり、その人たちの個人的な強みを生かすことが大事。

結局、模範的な「型」なんてないので、自分の入れ込み具合に応じてどんどん工夫してやってしまうことが重要だと思った。

途中、不安な時期はきっとある。でもそれはおそらくだれもが直面すること。その手探りな感じも、後では貴重な経験になる。

特別すごい企画でなくても、起こしてみた人には未知の（プチ）冒険！

それでいいじゃないの。

T-ACT フォーラムの専任教員榎村先生と、専任スタッフ半田さんは、本当に助けになってくれる。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者がすくなかった（学生5名）ので、申し込んだ人は、いきなり自分たちがコアメンバーみたいな親密状況で、居心地が悪かったかもしれない。

でもほぼ社会人と同数で、まる一日同じミニバスで過ごす体験は、貴重だったと思う。

必然的に経験の質は濃くなり、現地で会った人たちの話すことや、そこから想像されること、また風景・景観の語ることから、強い印象を受け取ったようだ。

帰路の車中で原発作業員あてに書いてもらった各人のメッセージの内容に、それが十分に現れていた。

T-ACT に関する感想

パーティシパントがT-ACTサイトに登録してくれない。

もはや、登録してくれないことを前提に、参加者との連絡をとるシステムを確立した方がよいのかもしれない。

T-ACTのサイトが地味だ。

新着イベントのページに、活動ごとに小さな写真や画像などがつくるとよい。

各企画の紹介のページには、ポスターなどが一緒に掲示されるようになるとよい。

今は「文字だけ」の画面は、生理的にダメという若者もいそうだ…

電子掲示板用のコンテンツを作った場合、それもサイト上で見られるようになっていると楽しいだろう。

T-ACTへのリンクを筑波大学HPの教職員専用ページにも貼ってほしい。



【がんばっぺふくしま】 第一回応援バスツアー

本学卒業生（社会人・福島県出身）
と共に現地の人々とふれあい、
実情を学びながら、
自然にもふれあう日帰りツアー！

地元特産品をちょっとお
みやげに買う事で
福島県の応援にも
なる！

お昼はバーベキューを予定！
観光気分でも気軽に
参加してください！





石碓(いしむしろ)ふれあい牧場

朝出発～夕・夜帰着の1Dayと1っぶ

- 貸し切りバスでいわき市・郡山市などを訪ねます。
《訪問先予定》・学校
・農家
・工芸工房
・食品加工業者 など
- 昼食は石碓(いしむしろ)ふれあい牧場でバーベキュー！！
- バスは、新宿・我孫子・筑波大学などで乗車可能の予定
- 参加料金：バス代 2,000円(ほか実費)
- 申込み：T-ACTの参加申込みフォーム → 
※要ユーザー登録(無料)

定員
先着30名様

あるいはプランナー青柳(人社研教員)
aoyagi.etsuko.gn@u.tsukuba.ac.jp まで！

放射線量が心配な方に：
現在の情報による試算では、この1日の旅で受ける放射線量は、
5マイクロシーベルト程度。
(東京=ニューヨークを飛行機で往復すると、190マイクロシーベルトと言われます)

プランナー
青柳悦子(人社研教員)
承認番号:11035P

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

子ども向けサイエンスワークショップの作り方 (11036P)

T-ACT プランナー

尾嶋 好美 (生物学類 サイエンスコミュニケーター)

活動内容

子ども向けに科学実験を行いたいという学生は多いのですが、どのようにプログラムを作ればいいのか、注意点は何かなどをわかっている人は多くありません。

そのため、サイエンスワークショップのプロを呼んで、研修をおこなうことにしました。今後の自分自身での実践につなげてもらいたいと考えています。

こどもと一緒に科学を楽しむには? ~サイエンスワークショップの作り方~

【日時】 7月1日 16:30 - 17:30

【場所】 筑波大学総合研究棟A 107

【講師】 NPO 法人体験型科学教育研究所 奥山勇太郎先生

筑波大学サイエンスコミュニケーショングループ・スカウトでは昨年より多くの活動を行っているが、7月1日のワークショップは筑波大学の学生を対象とした初めての試みである。

活動期間

平成23年6月22日~平成23年7月1日

活動計画

6月末~
実施日まで

・ 広報

備考欄

T-ACT オーガナイザー

和田 怜子 (生命環境科学研究科)
長友 亘 (生物学類)

T-ACT パートナー

Matt Wood (生命環境科学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

7月1日 (金)

予定通りにワークショップを実行した。

参加者は15名であり、T-ACT 経由は1名であった。

奥山先生によるワークショップは「メビウスの輪を切る」といった体験をしつつ、科学実験教室で

は「起承転結」が重要ということを学んだ。

新たに4名がSCOUTに加わり、メンバーを増やすという目的は達成された。

今後の課題

もう少し早めに広報活動をするべきでした。また、試験終了直後ということで、ワークショップの時期としては、あまり良くありませんでした。とはいえ、参加してくれた人にとっては、様々な学びがあったのではないかと思います。

経験者からのメッセージ

やりたいことがあったら、まず「こんなことをしたい」と周りに言ってみましょう。同じような思いを持つ仲間が見つかるはずですよ！

運営者側から見たパーティシパントの変化

SCOUTに参加するかどうか迷っていた人が、参加を決めました。ワークショップの効果があったということですね。

T-ACTに関する感想

直前の登録にもかかわらず、対応していただいたことを感謝しております。

子どもと一緒に科学を楽しむには？

7月1日(金)
16:30~17:30
総合A107
申込不要

サイエンスワークショップの作り方



ワークショップ

初等教育で大切にしたい 科学体験プログラムとは

- 体験を元に感動と言葉をどう共有して生きる力につなげるのか？
- 体験の後で、プログラム作成の仕組みをワンポイント解説します。



奥山先生紹介



小学校教員を今年の3月に退職後、NPO法人体験型科学教育研究所にてオリジナルの科学教育プログラムの作成や実施を行う。東芝科学館や渋谷区の科学館「ハチラボ」などでサイエンスワークショップを多数開催。平成20年度文部科学大臣優秀教員表彰、第一回リアルサイエンスマイスター賞等受賞。

やってみない？ SCOUTで！

SCOUT(スカウト・Science Communication of the University of Tsukuba)は筑波大学の学生が中心となって活動しているサイエンスコミュニケーショングループです。

これまでの活動:

- 保育園、学童クラブ、ショッピングセンターなどでのサイエンスワークショップ
- 科学に関する記事や情報を伝えるウェブサイトの運営
- 芸術的な美しさを競う科学フォトコンテストの開催

実際にワークショップを行ったり、ウェブサイト用の記事を書いたりすることは、あなた自身にとっても、スキルや経験などを得るとも良いチャンスになります。一緒にやりませんか？

SCOUTの活躍を紹介します。



「科学あそびラボ」子ども向けのサイエンスワークショップ
生命環境科学研究科M1 和田 伶子



「Tsukuba Science」科学情報ウェブサイト
生物学科4年生 長友 亘



就職活動での「SCOUT」の価値
生命環境科学研究科D3 野村 純平

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 「僕らの夏休み project」に参加しよう！（11039A）

T-ACT プランナー 杜 迅（理工学群工学システム学類）

活動内容

～思い・企画経緯～

未曾有の震災がおこりました。

家を流された子ども、親を流された子ども、兄弟を流された子ども、家族や家庭を、思い出のすべてを、津波に流されてしまった子どもたち。

いつもなら、新しい学年に夢を膨らませ、待ち遠しいはずの夏休み。

学生たちが「何か」をしたいと思っても、ただ共に泣くだけです。

それでも学生たちに何が出来るかを一生懸命考えました。

物資や義援金は集められないけど、時間なら費やすことができます。

ひとつの大学が、ひとつの小学校とこれから長期的に交流を持ち、直接ふれあって行く事が出来ます。

ともに夏休み、春休みの思い出を新たにひとつずつ積上げたいと思います。

今後の東北、さらには日本の将来を背負って立つ子どもたちにもう一度希望を持ってもらいたい。

10年後、この子どもたちがまた大学生となる頃、次世代の子どもたちとふれあう社会を作りたいと願っております。

このような思いでこのプロジェクトは始まりました。

筑波大学の教育サークルとして子どもたちに勉強をおしえたりしないか？

とこの企画の責任者で友人でもある方に誘われたのがキッカケです。

【申請の経緯】

これまで、筑波大学では「FreeEducation（一般学生団体）」を中心に参加を考えていましたが、他にも多くの大学やNPOが参加しています。

1つのサークルとしての参加だけでなく、筑波大学の学生でこのプロジェクトに賛同し、協力したいと思ってくれる学生を全学から募集したいと思い、申請に至りました。

このプロジェクトの中心は学外の「ebook 情報センター」と呼ばれる任意団体です（URL 参照）。活動するにあたり、この団体の枠組みの中で活動します。

現地入りの方法はNPO法人「Youth for 3.11」と協力して東京からバスで現地入りの予定です。

【日程】

8月4日～8月7日

【参加大学】

筑波、文教、明治など

【訪問地域】

岩手県宮古市 赤前小学校

【内容】

*教育支援

*レクリエーション

*お祭り開催

を中心に子ども達と3泊4日をとめます。

①全国の学生達が夏の長期休暇を利用し現地へ訪れ、子どもたちにふれあい、ともに活動して行く事で、コレからの日本を背負ってたつ子どもたちのお兄ちゃん、お姉ちゃんの役割を担って行きます。

②多くの学生達に参加してもらい、活動の輪を広げて行く事で、東日本大震災におけるボランティア活動をただの旅で終わらせない仕組みづくりをして行きます。

③現地の民謡やお祭り等を活動内容に多く取り入れ、子ども達からお年寄りまで参加してもらうことで、その地域の伝統や文化の継承と継承が出来る活動内容にしていきます。

【主催】

僕らの夏休み project 実行委員会

<http://3-11.ebook.or.jp/index.html>

【協賛・協力・後援】

「未来を築く子育てプロジェクト」実行委員会

協賛：住友生命保険相互会社

後援：厚生労働省

<http://www.sumitomolife.co.jp/child/index.html>

活動期間

平成 23 年 6 月 22 日～平成 23 年 9 月 1 日

活動計画

5 月	・話し合い 参加団体決定、現地とのネットワークをはる（NPO や学生団体など）
6 月	・本プロジェクトの実行委員の現地入り ※ T-ACT で募集メンバーは一参加者として募集します。 です、この実行委員には含まれません。 受け入れ先の決定と企画詳細決定を行う
7 月	・学生と現地の方の打ち合わせ
8 月	・現地入り、活動実施
9 月	・報告会に参加

備考欄

現在、筑波大学からは FreeEducation を中心に参加しています。本プロジェクト自体には既に弁護士の方も協力者として参加しており、学生の安全面の確保もできると考えています。

T-ACT オーガナイザー

大黒 さとみ（国際総合学類）
 黒川 知洋（国際総合学類）
 林 裕行（教育学類）
 長谷川 綾（教育学類）
 是枝 優那（教育学類）
 小島 彩（国際総合学）
 脇屋 真証（国際総合学）
 村田 翔吾

T-ACT パートナー**活動報告****活動成果****【活動内容】**

7月毎週日曜または土曜：東京ミーティング

毎週月曜：筑波チームミーティング

8月4日出発

8月5～7日～僕夏～

8月7日帰宅

・目標達成度

90%

とても充実したのは参加メンバーの感想を見て頂けたら分かると思いますので転載致します。
 ただ、今後も継続させる仕組みづくりを作って行かないといけないので100%ではないです。

== 以下参加者感想 ==

*何かしてあげたいと思って行ったのに自らが得るものの方が大きかった

*ボランティアではない

*第2の故郷になりそう

*また行きたい。もう一度参加してこの活動を継続させたい。

参照 URL

<http://efitsukuba.blog115.fc2.com/blog-entry-27.html>

<http://efitsukuba.blog115.fc2.com/blog-entry-28.html>

<http://efitsukuba.blog115.fc2.com/blog-entry-26.html>

またDVDにて活動報告致しましたのでご覧になって頂けると幸いです。

今後の課題

これを継続させるためにどうするか。

タスクの振り分け、来年の計画をたてる。

経験者からのメッセージ

<http://efitsukuba.blog115.fc2.com/blog-entry-27.html>

<http://efitsukuba.blog115.fc2.com/blog-entry-28.html>

<http://efitsukuba.blog115.fc2.com/blog-entry-26.html>

こちらを参照

運営者側から見たパーティシパントの変化

多くの人がこんなに感動したのは初めてと言ってくれた。

個々人が学びを得て、大きく成長したと感じています。

T-ACT に関する感想

動画等を流して報告する場が欲しいです。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 The Sounds on Silence – ささやきの聞こえるライブ (11040A)

T-ACT プランナー 大曾根 圭輔 (システム情報工学研究科)

活動内容

『夜中に（オールナイトで）野外でライブをしたい！』という欲求は、多くのバンドマン、いや音楽家の持っている野望だと思えます。しかし、実際は、場所の問題、騒音問題や電力確保の問題など多くの理由から、企画し、行うのが非常に困難です。

そこで、通常ライブで使用されるラウドスピーカーのかわりに FM 電波を飛ばし、観客は FM ラジオで受信し、ヘッドフォンで演奏を聴くことで、騒音問題と電力問題を一挙に解決できるのでは、と考えました。つまりギターもベースも傍から見たらカシャカシャしているだけ、ドラムはエレドラ、ボーカルは生声、観客はヘッドフォン、まわりから見たら静か…。しかし、ライブしているという不思議な空間が出来上がるのです。これなら騒音も出ないですし、省エネなので発電機が一台もあれば大丈夫です。参加団体としては、軽音系に限らず、音楽に関わる団体をできるだけ幅広く募集したいと考えています。弾き語り、DJ、ダンス、よさこい、民族音楽、ラジオ、ジャグリング、アカペラなど。

まとめると、本企画は、FM トランスミッターおよびヘッドフォンを利用することで、夜間に野外でライブをすることを提案するものです。出演者も、観客も騒音問題などを気にせずイベントを楽しむことができるようになることを期待します。

活動期間 平成 23 年 5 月 24 日～平成 23 年 9 月 8 日

活動計画

6 月	<p>【第 1 週】 コアメンバーイメージ擦り合わせ、問題点洗い出し</p> <p>【第 2 週】 会場候補選定</p> <p>【第 3 週】 技術的実用性検証</p> <p>【第 4 週】 運営メンバー募集、参加協力団体声かけ、WEB サイト / SNS による告知開始</p> <p>【第 5 週】 イベント会場最終選考、予算提出</p>
7 月	<p>【第 1 週】 プレイベント会場決定、ポスター告知、T-ACT 企画提出</p> <p>【第 2 週】 プレイベント告知開始</p> <p>【第 3 週】 プレイベント内容確定、出演者交渉</p> <p>【第 4 週】 プレイベント準備</p> <p>【第 5 週】 7/25 プレイベント、7/27 反省会兼プレイベント予備日</p>

	8月	【第1週】 会場予約、演出ラフ作成、Web/SNS/ Twitter/ ポスター最終稿 【第2週】 参加団体会議、タイムテーブル決定 【第3週】 演出決定、直接広報開始 【第4週】 資材調達、大道具作成
	9月	【第1週】 The Sounds on Silence 予定 【第2週】 活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる
備考欄	HP http://www.unimic.jp/sounds_on_silence/	
T-ACT オーガナイザー	田原 敬（人間総合科学研究科） 岩崎 航也（情報科学類） 金井 伸也（数理物質科学研究科） 澤 洋輔（システム情報工学得研究科） 杉本 直樹（日本語・日本文化学類） 永井 寛信（日本語・日本文化学類） 普天間 ゆき（生命環境科学研究科） 山崎 祐輝（生命環境科学研究科） 澤幡 麻佑子（情報メディア創成学類） 鈴木 美慧（生物学類） 田中 みさよ（芸術専門学群） 渡邊 健太（化学類） 橋本 康平（生物資源学類） 市川 絢菜（芸術専門学群） 大脇 聡史（芸術専門学群）	
T-ACT パートナー	足立 和隆（人間総合科学研究科） 渡 和由（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

2011

- 5/23 第1回ミーティング
Google グループを使った議論の開始
- 6/7 第2回ミーティング
アンテナの受信感度のテスト
- 6/15 第3回ミーティング
筑波大学の野性の森に会場が決定
- 6/18 ステージ案の第一案作成
- 6/19 レンタル機材の見積もりの作成
- 6/25 野性の森講習会へ出席
- 6/27 ポスターデザイン第一稿
- 7/1 第4回ミーティング
- 7/5 T-ACT へ企画提出

- 7/7 第5回ミーティング
- 7/12 T-ACT 企画承認
- 7/19 パートナーの先生の決定
- 7/21 決起会
- 7/22 第6回ミーティング
- 7/23 ポスター完成→掲示の開始
- 7/24 出演者募集の開始
twitter, facebook を使った広報の開始
- 7/27 第7回ミーティング
- 7/28 Web サイト公開開始
http://www.unimic.jp/sounds_on_silence/
- 8/8 第8回ミーティング
フライヤー配布の開始
- 8/17 第9回ミーティング
- 8/25 第10回ミーティング
- 8/30 第11回ミーティング
- 8/31 テストイベント用機材の借り回り
- 9/5 テストイベントの開催
- 9/6 第12回ミーティング
T シャツ完成
- 9/7 出演者の決定
本番用のパンフレットの原案作成
- 9/8 前日、当日の流れ作成
- 9/9 当日の飲食店の営業許可提出
- 9/10 第13回ミーティング
- 9/11 当日スタッフ用のマニュアル作成
- 9/12 ラジオつくばでのイベントの宣伝開始
- 9/13 第一エリアでのビラ配り
- 9/15 第二、第三エリアでのビラ配り
- 9/16 学生課機材の借り回り
- 9/18 The Sounds on Silence
- 9/20 各団体へのお礼メール
- 9/25 ラストミーティング

【目標達成度（その根拠も述べる）】

100%

当初の目標として

①技術的な問題をクリアして実際にイベントを開催する

②集客 100 人

③できるだけ赤字を少なくする

を掲げており、

集客は 130 人超で、①②をクリアでき、また③に関しても赤字が 500 円程度だったため。

また、アンケート結果でも

「非常に満足だった」

「会場全体の雰囲気がとてもよかった」

「演奏だけじゃなく、空間そのものを楽しめる創り方が素敵だった」

など、肯定的な感想が得られ、結果としては満足している。

【得られた効果】

- ・筑波大学の学内でも、色々なアイデアを出すことで夜に野外音楽フェスティバルを開催できた
- ・集客も130人を超えるなど具体的な目標を達成できた
- ・学生主体でも学内で新たな音楽イベントを開催することができ、企画の可能性を広げることができた

今後の課題

- ・議論で主に用いた google group の使い方を最初にレクチャーしておくべきだった（最初のほうは使い方について戸惑いがあった人もいた）
- ・節電中だったので、施設の使用期限が変更になり最後まで惑わされた
- ・初めてのイベントだったので手探りなことが多かった。もし第二回をやるなら引継ぎをする必要がある
- ・大きなイベントにしたいなら、早い段階から公式ポータルサイトに宣伝を依頼しておくべきだった
- ・出演者ブッキングに対しては、もっと考えるべきだった（ある程度有名なアーティストも呼べるのでは？）
- ・いろいろな音楽イベントなどと親和性が高い企画なので、今後コラボレートするのもいいかも
- ・アンケートがネットのみなのはよくなかった

経験者からのメッセージ

今回のイベントは、「せっかく筑波大学は広いキャンパスがあるのだから野外フェスみたいなものがないか」「軽音サークルが内輪ノリなのを解決したい」などの問題意識がまずあり、それを解決する手段として、「ライブをスピーカーを使わずにFM電波を用いて行う」とアイデアで解決するものでした。

結果として独創性のあるイベントにはなりましたが、根底にあるのは日々の生活にある問題意識でした。

学生生活を過ごす中で、多くの問題に直面すると思いますが、それを見過ごさずに問題意識さえ持つてさえいれば、いつか一つのアイデアで解決できるのかなあと思いました。

また、イベントを通じて何かを達成すること、いろいろな人と関わること、がかけがえのない財産になるという事も実感しました。

私も企画途中で学会に行ったりなどスケジュールはキツキツでしたが本当にやってよかったと思えました。ちょっとぐらいの無理は大丈夫なのでどんどんいろいろな企画に飛び込んで行って欲しいと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

本企画はライブイベントだったので参加者は「お客さん」になります。アンケートでは、

- ・学生企画でこんなものができるのか（自分も企画したい）
 - ・スピーカではなくFM電波を用いるという筑波大学生らしい「知的なライブ」だった
- などの意見がいただけ、おおむね好感触であったと思います。

もちろん、

- ・意図しないノイズが入ったり、楽器の音量バランスがおかしかったりすることがときどきあった
- などの意見も頂いたので今後につなげたいと思います。

参加者が今回の企画で刺激を受け、他のいろいろなアイデアを使ってこういう音楽イベントを企画してくれたりしたらうれしいです。

T-ACT に関する感想

印刷などの部分で非常に助かりました。

また、こういう類の音楽イベントを行う際に大学の後ろ盾があるのは非常に心強かったです。

もう少し、企画同士の親和性を考えて「この企画とコラボすると面白いんじゃない」とかがあったらもっと嬉しかったです。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 IMAGINE THE GATHERING (11042A)

T-ACT プランナー 宮木 祐任 (システム情報工学研究科)

活動内容

面白い、枠にはまらない発想力を持つことは今後の社会を生きていく上で、非常に重要な要素となります。しかし、既存の枠に囚われないような考え・アイデアを生み出すことは普通の大学生にとっては難しいものです。そこで、今回は多彩プレイヤーを揃えて「カードゲーム」を行っていただきます。また、参加者は観客としてそれを見ることによって、これまでに無かった視点からの新たなアイデアを考え出す感覚を身につけてもらう一助となればと思います。

活動期間 平成23年7月26日～平成23年9月26日

活動計画	7月	・活動開始 ・本番の参加メンバーを集め。
	8月～ 9月初～中旬	・具体的な広報活動、当日使用するカード等の作成。 当日演出の打ち合わせ。当日の流れ確認。
	9月中～下旬	・活動、得られた情報のまとめ。継続的な活動への下準備。

備考欄

T-ACT オーガナイザー 高松 正則 (生物資源学類)

T-ACT パートナー 有馬 澄佳 (システム情報工学研究科)

活動報告

活動成果

【活動内容】

7月28日	ミーティング (全体スケジュールの確認)
8月27日	ミーティング (参加者について、広報活動について、ゲームの内容について)
9月8日	ミーティング (参加者について、広報活動について、ゲームの内容について)
9月15日	ミーティング (参加者について、広報活動について、ゲームの内容について)
9月22日	ミーティング (参加者について、広報活動について、ゲームの内容について)
9月29日	ミーティング (広報活動について、ゲームの形式について)
10月12日	ミーティング (広報活動について、ゲームの形式について)
10月19日	参加者と打ち合わせ (2件)

・目標達成度 (その根拠も述べる)

60%

必ず参加してほしい人の日程調整がうまくいかず、イベントを未だに実施できていない。

ただし、ゲームで使用するテーマやカードの内容、参加者はすでに決定（承諾を得てる）しているため、イベント自体を開催することは可能である。

今後、より演出面に力を入れる必要があるため 60%とした。

・得られた成果

ゲームを考え直す過程で、人それぞれのアイデアの考え方にも傾向があることが分かり、その点が非常にイベントにおいて重要になることがわかった。

何度か試しにゲームを行っていく過程で、発想のコツなどを私たち自身が見つかるようになってきており、この気づきは参加者や観客にも伝えることができるように思う。

今後の課題

参加者の日程調整と会場の確保が最もネックとなっている部分である。

参加者は確定できているため、密な調整が必要となってくると考えている。

経験者からのメッセージ

会場や当日の設営に関する事柄は早いうちに取り組んだ方が良いと思います。舞台さえ整えてしまえばあとは実施するしかなくなってしまうので。

運営者側から見たパーティシパントの変化

特になし

T-ACT に関する感想

実施に向けて再度頑張りたいと思います。

よろしくお願いたします！

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 学び場さくら塾 5th season (11046A)

T-ACT プランナー 荒井 菜摘 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

学び場さくら塾は、2010年5月にできたばかりの無料の学習塾です。

さくら塾は、大学、地域住民、保護者の方々の協力の下に成り立っています。様々な人びと、組織と協働し、地域に根ざした教育組織にしたいと考えています。

第四期の活動中につくば市の「アイラブ筑波まちづくり基金」に採択され、つくば市から補助金が下りるとともに公民館での指導を開始し、より多くの生徒を指導することができるようになりました。

さくら塾は、単なる学習指導にとどまらず、大学と地域をつなぐさまざまな取り組みに積極的です。第一期の昨年度7月は留学生と芸術専門学群の学生を招いて交流会を行いました。8月には大学生と中学生のTALK SESSIONも行いました。今後も、継続的にさまざまなイベント作りをしていきたいと思ひます。

さくら塾では、学生講師が週3日(火曜、金曜、土曜)、桜3丁目21にある県営桜アパートの集会所に向き、無料で小中学生に勉強を教えています。

火曜日(19:30 - 21:30)は春日交流センターにて中学生を、

金曜日(19:30 - 21:30)は桜県営住宅集会所にて中学生を、

土曜日(13:00 - 14:30)は台坪ふるさとコミュニティセンターにて小学生に百マス計算、漢字、算数(その他、地図の勉強、工作、など特色のある教科)を、それぞれ指導しています。

一般的な学習塾とは異なり、生徒との距離が密接なところが特徴です。教育に熱い方、地域活性化に興味がある方、ボランティアに燃えたい方は、子どもたちを巻き込んだイベント運営に興味のある方はのふるってご参加下さい。現在、学生講師および運営メンバーを募集しています。

お問い合わせは、info@manabiba-sakura.orgまで。

また内容についての詳細は、WEBページをご覧ください。<http://www.manabiba-sakura.org/>

活動期間 平成23年9月1日～平成23年12月31日

活動計画 9月～12月 | ・継続的な学習指導を行う。

備考欄

T-ACT オーガナイザー	中田 智洋（心理学類）
	金岡 孝浩（人文学類）
	挟間 龍亮（応用理工学類）
	松本 紘一郎（教育学類）
	横田 真之介（情報科学類）
	是枝 優那（教育学類）
	脇屋 真証（国際総合学類）
	村田 翔梧（教育学類）
	明石 萌子（人文学類）
	渡辺 慎吾（地球学類）
	佐賀 ゆり香（社会学類）
	樫府 なおこ（国際総合学類）
	小島 彩（国際総合学類）
T-ACT パートナー	田中 マリア（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

毎週

火曜日（19:30 - 21:30）は春日交流センターにて中学生

金曜日（19:30 - 21:30）は桜県営住宅集会室にて中学生

土曜日（13:00 - 14:30）は台坪ふるさとコミュニティセンターにて小学生に百マス計算、漢字、算数（その他、地図の勉強、工作、など特色のある教科）を、それぞれ指導

・目標達成度（その根拠も述べる）

「子どもたちのためになることを、ひとつでも多くする。」という目標を掲げ活動を続けてきたが、ほぼ達成できたと思う。学生講師各々が自分にできることを考え、何が生徒のためになるか模索しつつ活動することができた。生徒間、また生徒・講師間の交流を深めるワークショップや、保護者の皆さんとの交流を兼ねたクリスマス会など、単なる学習指導に留まらない活動ができた。

・得られた成果

茗溪会から、さくら塾の活動を顕彰していただいた。

今後の課題

春日交流センターなど公共の施設を利用し学習指導を行っているが、場所の確保を継続的に行うことができなかった。場所の予約の方法を改善するか、新たな教室を探す必要がある。

教材の置き場所がなく、講師が自由に教材を利用することができなかった。

経験者からのメッセージ

なんでも相談できる仲間を見つけることが大切かと思います。また仕事を分担し負担が大きくなりすぎないように、「楽しく」活動できるよう気をつけることが大切だと感じました。

運営者側から見たパーティシパントの変化

自発的に運営に関わったり、積極的に意見・アイデアを出してくるようになった。

T-ACT に関する感想

些細なことまで相談に乗ってくださり、又いつも気にかけて声をかけて下さりありがとうございます。



T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 学食イベント～10月のつくばの『三食』は「世界食糧デー」月間!～(11047A)

T-ACT プランナー 横田 真彩(社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

10月1日から31日は「世界食糧デー」月間。

「飢餓」、「貧困」—私たちはこの言葉たちをたくさんの場面で耳にしながらも、実際にはどれだけ私たちはそうした現状があるといわれる国々を身近に感じ、知っているのでしょうか。

この「世界食糧デー」月間という世界的な期間を私たちのすぐそばにある筑波の三食で味わい、実感しながら、みなさんと一緒に飢餓、貧困について考え、そしてそうしたイメージが強くなりがちな国々について、おもに「食」に関する一面を知ることによって、新しいイメージを抱いていただきたいという思いから企画にいたったものです。

このイベントでは学食の装飾や、各テーブルにてカフェのようなメニュー板を用いての1週間1クールで紹介する、ためになる全4コラムの紹介などを企画しています。

飢餓・貧困というイメージの強くなりがちな国々へ親しみを持ってくださることが最終的な目標であり、親しみを持つことは今後の私たちにとっても大切なことであると思うだけでなく、グローバルな筑波大学にとっても貢献できると思います!

活動期間 平成23年9月1日～平成23年11月6日

活動計画

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・活動開始 ・メンバーの募集と共に、学食の方々との交渉やメンバー内でイベントに向けた準備をする。装飾のデザインを決めたり、実際に装飾物を作成したりコラムの提供の際利用するメニュー版のようなものを作成。その他広報活動も行う。 <p>TFTさんと共同企画なので適宜話し合いもしながら準備を進める。ちなみに、予算はそれぞれ協力団体の予算からまかなう予定。</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・本番 ・できれば前日、もし難しければ当日の三食の開店前に装飾を行い企画実施にうつる。1週間ごとにクールを変更するため適宜装飾の交換をしたりする。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・事後反省を行う

備考欄	協力団体 YOUTH ENDING HUNGER 茨城 YOUTH ENDING HUNGER ジャパン HUNGER FREE WORLD (特定非営利組織) TABLE FOR TWO つくば支部
T-ACT オーガナイザー	荒井 ひかる (国際総合学類) 丸山 友紀 (国際総合学類) 平松 真由美 (国際総合学類) 富谷 仁貴 (国際総合学類)
T-ACT パートナー	福井 幸男 (人文社会科学研究所)

活動報告

活動成果

【活動内容】

- 8月30日 T-ACT 申請
- 9月6日 T-ACT 申請結果が出る (結果：承認)
- 9月8日 イベント企画書提出
- 9月12日～ TFTさん、学食の方々との交渉・TFTさんと合同でのデザイン工夫、制作(この過程で、T-ACTのウェブ上でのイベント告知掲載を見てくださり、ぜひ企画に携わりたいと言ってくださった方がいて、その方にもたくさん協力していただいた。)
- 9月30日 (放課後) 筑波大学第三学群食堂にて会場装飾と1クール目のコラムを設置
- 10月1日～ TFTとYEH考案のメニュー (1週目) を学食で一週間提供
- 10月9日～ TFTとYEH考案のメニュー (2週目) を学食で一週間提供
- 10月16日～ TFTとYEH考案のメニュー (3週目) を学食で一週間提供
- 10月23日～ TFTとYEH考案のメニュー (1週目と同じ) を学食で一週間提供
- 10月31日 (放課後) 装飾を外す
- その後 WEB フォームを利用したアンケート実施や反省を行う

・目標達成度 (その根拠も述べる)

<設定していた具体的目標>

- (1) WEB フォームを利用したアンケート (ML を利用する予定)、第三学群食堂利用者の 70% 以上の方がイベントで紹介した国々を「とても身近なものとして感じた」または「身近なものとして感じた」と答える
- (2) (1) に記載したものと同アンケートにて、第三学群食堂利用者の 70% 以上の方が「関心を持った」と答える

<目標達成度>

- (1) : アンケートの集計結果が 34.1% だったため、達成度は高くない。
- (2) : アンケートの集計結果が 60.9% だったため、完全な達成はできなかったが、達成には近づいた。

・得られた成果

- (1) 初めて筑波大学内の他団体と共同でイベントを行ったことにより、学食という学内施設を利用した大きなイベントにすることができた。
- (2) TFTさん、学食さん、T-ACTさん、またT-ACTさんを通して知り合いになれた方々とのつながりができた。今後の活動に活かしたい。

今後の課題

- (1) 国々を紹介する場所について初めからその規格やインパクトも考慮に入れたうえで装飾案を練る。ただ「飢餓・貧困に関するイベントをやっている」というイメージで終わらせるのではなく、具体的な理解を呼ぶために、国々の色をもっと前面に押し出し、より目につきやすく、手軽に見てもらいやすいデザインや構成案を練る。たとえばメニュー版のようにして作成したコラムも、字の大きさをもっと大きくして一目で情報が入ってくるようにすることなどで改善につながるのではないかと考えている。
- (2) 関心を持ってもらう段階まで持っていくのは本当に難しいが、たとえばフェアトレード商品の紹介など、対象者の身近なものに対するアプローチをすることなどで関心を持ってもらいやすくなるのではないかと思う。
事前広報の申請をしていなかったこともあり、ポスターなどを利用したの広範囲での事前広報ができず、それにより対象者が減ってしまったこと。
- (3) 企画段階から、もっと企画への一般の参加者を募るために大々的に募集をすることも一つの改善案ではないかと思った。

経験者からのメッセージ

非常に楽しいイベントでした。

T-ACT さんに本当にたくさん協力をしていただいたおかげで、自分たちだけの力では届かなかったところまで到達することができたと思います。

T-ACT さんに協力をしていただくことによって、ひととのつながりも可能性もひろがりました。ぜひ、T-ACT さんに協力していただくことをお勧めしたいです！

そして何より、新しい企画でも、挑戦してみることの大切さを身をもって実感しました。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加当日に近づくとつれて、参加者の結束力は高まっていったと思っています。

これまで関わりがあまりなかった他団体に所属するメンバー同士、また新たにこの T-ACT さんの web 紹介ページを通して参加して下さった方と協力して、得意分野をそれぞれうまく分担し最高の形にもっていかうとする姿勢で参加者で一体となって動くことができました。

T-ACT に関する感想

T-ACT さんが今後もずっと活動をしてくださり、私たち学生の挑戦への大きな支えであってほしいと思っています！！

報告書が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。

本当にありがとうございました！

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 スタンドアップ2011 in つくば (11048A)

T-ACT プランナー 金 奈由 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

「体ひとつでできる、立ち上がるだけの国際協力」

スタンドアップ (正式名: STAND UP TAKE ACTION) は貧困のない世界をめざす人々が、決められた期間内に世界の各地で同時に立ち上がるイベントです。

立ち上がった姿を写真に収め、世界各国のリーダーに問題解決を訴えます。

2011年は10月1日～17日が期間です。

「思い出そう、世界のこと。覚えておこう、世界のこと。」

日本は3月11日に東日本大震災を経験し、日本国内は今、復興支援に全力を挙げています。しかし、今この瞬間、世界にも同じように自然災害や貧困に直面している国があります。それは日本がこの震災を受ける前も、後も変わりません。

日本が途上国かの二者択一ではなく、日本の復興支援も、途上国への支援もどちらも同じくらい大切。

だからこそ、スタンドアップを通じて、世界のことを思い出し、覚えていてもらえるきっかけを作りたいと思いました。

「恩返しリレー」

東日本大震災に直面した日本に世界163の国と地域から支援の申し出がありました。

その中には今まで日本が支援をしてきた途上国もたくさん含まれています。

かつて被支援国であった日本が支援国となり、この震災をきっかけにたくさんの国から支援を受けました。

世界中の国は互いに助け合い、恩返しのリレーをつないできました。

そのバトンをこれからもつないでいくためのその一歩として、できるだけ多くの人々にスタンドアップに参加してもらいたいです。

たくさんの人に参加してもらうために、スタンドアップのイベント自体は大勢の人が集まり、一緒に写真を撮る、楽しいものにする予定です。

活動期間 平成23年9月20日～平成23年10月24日

活動計画

9月下旬

- ・メンバーを募り、イベント当日の内容を考える。
- ・イベントの詳細が決まり次第PR活動を始める。
- ・メールでの参加フォームを準備する。

10月1日～
17日

- ・PR活動を進める
- ・イベント当日に参加できない人にメールで参加してもらう

10月12日

- ・2学3学エリアでイベントを行う

	10月13日	・1学エリア（松見池付近を検討中）でイベントを行う
	10月14日	・5C棟付近でイベントを行う
	10月18日	・結果を集計し、事後反省を行う
備考欄	協力団体 YOUTH ENDING HUNGER 茨城 YOUTH ENDING HUNGER ジャパン HUNGER FREE WORLD（特定非営利組織）	
T-ACT オーガナイザー	山口 将太（国際総合学類） 吉村 穰（国際総合学類） 金田 良子（国際総合学類） 銭谷 泰典（国際総合学類） 杜 文霏（国際総合学類） 江藤 麻子（国際総合学類） 谷 智史（国際総合学類） 中村 杏奈（国際総合学類） 山本 弓恵（国際総合学類） 小倉 詳悟（国際総合学類） 富谷 仁貴（国際総合学類） 田川 佳奈（国際総合学類） 後藤 真美（国際総合学類） 佐々木 誠（国際総合学類） 黒川 知洋（国際総合学類） 岩上 恵理子（国際総合学類） 荒井 ひかる（国際総合学類） 横田 真彩（国際総合学類） 平松 真由美（国際総合学類） 丸山 友紀（国際総合学類） 宮田 直承（国際総合学類） 李 ジェウォン（国際総合学類）	
T-ACT パートナー	柏木 健一（人文社会科学部研究科）	

活動報告

活動成果

【活動内容】

9月22日	ミーティング（イベントの内容、広報について）
9月29日	ミーティング、写真パネル作成
10月3日	法律相談（写真撮影の肖像権保護について）
10月4日	ポスターおよびパンフレット作成
10月5日	ミーティング、メッセージボード作成
10月12日	5C棟にてイベント開催
10月13日	説明パネル作成
10月14日	松見池にてイベント開催
10月17日	2・3学エリアにてイベント開催
10月19日	反省会

10月20日 結果報告用ムービーとポスターを作成
 10月24日 活動終了

・目標達成度

①参加人数：○

今回のイベントにより合計443人の方に立ちあがっていただくことができ、目標であった「つくばから298人」の目標を大きく上回ることができたため。

②復興支援と途上国支援の両立を訴える：○

参加者全員に、2つの支援の両立を訴えるイベントであることを説明でき、またそのことを詳細に記したパンフレットを配布することができたため。

・得られた成果

学内の複数箇所で開催されたことにより、さまざまな学類から多くの方に参加していただくことができました。今まで国際協力に参加したことのない人々に、その第一歩を提供できたことは大きな成果であったと思います。

今後の課題

タイムラインを明確にしていなかったために、広報を十分に行うことができませんでした。また直前になって、メンバーに作業をお願いすることがありました。最初の段階で明確なタイムラインを作成し、メンバー内で共有、随時確認作業を行うことで解消できたと思います。

また、今回のイベントは趣旨を丁寧に説明する必要がありましたが、通りがかりの人に声をかける際に、時間を気にして焦ってしまい逆に分かりにくくなってしまいました。イベント当日だけでなく、事前の広報の段階で少しでも知識を広めておくことが改善案になると思います。

経験者からのメッセージ

ひとつのプランを立案、準備、運営をすることは思ったよりも大変なことでした。どんなに良いアイデアでも、決して一人では進めることができません。私は今回のプランを通して、一緒にプランを運営してくれる人たちの大切さを学びました。プランが独りよがりにならないためにも、そしてプランをよりよいものにするためにも、プランを複数の目で見えていくことが大切です。ぜひ一緒に協力してくれる素敵な人たちを見つけて良いT-ACTプランを実現してください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者の多くは、今まで国際協力に関心がなかった、もしくは関心があっても参加したことがなかった人たちでした。そのような人たちに参加の機会を提供することができ、より多くの人の関心を喚起できました。

実際、参加者の中には配布したパンフレットを熱心に読んでくださる方や、このイベントについて質問をしてくださる方もいらっしゃいました。

このイベントへの参加を通して、参加者と国際協力の距離を縮めることができたと思います。

T-ACTに関する感想

樫村先生と半田さんには、企画の段階から本当にたくさんのサポートをしていただきました。T-ACTだったからこそ、パネルやメッセージボード、さらにポスターやパンフレットに関しても質の良いものを作ることができ、それが参加者の多さやイベント自体の質の向上にもつながりました。また法律相談の機会も設けていただき、とても勉強になりました。

本当にありがとうございました。

ひとつ要望を挙げるとするならば、授業がある中でイベントの準備作業をするにあたって、T-ACTフォーラムが開いている時間がもう少し長くなるといいと思いました。平日の6限後や土曜など、毎日毎週でなくてもいいので、開けてくださると嬉しいです。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名

つくばりんりんロードを走ろう！（11055P）

T-ACT プランナー

池田 勝幸（産学連携本部）

活動内容

つくば市北条地区の復興支援とりんりんロードの名前を広く知って頂くことを目的に 10 月 22 日（土）に市役所から出発し、りんりんロードを走ってウエルネスパークへゴールするプロジェクトです。地元のサイクリストのためではありますが、一つの地域連携（貢献）と考えております。

このプロジェクトはつくば市・筑波大学後援で、インテルやイーアス、筑波銀行など企業ボランティアが参加予定ですが、まだ人数が不足しています。交通整理やイベントの司会者などのボランティアを募集します。参加者は 150 名を目標としており、本学のサイクリング部のメンバー数人も一緒に走ってくれます。イベントの一部では、自転車の魅力などのトークショーを長塚選手と野村名誉教授が語り、二部では長塚選手との交流や地元警察による交通指導、足湯等のイベントがあります。全体をまとめているのが「りんりんプロジェクト実行委員会」（代表：池田 勝幸）であり、当日はつくば市役所からも企画部長以下 6 名が応援してくれます。

活動期間

平成 23 年 10 月 18 日～平成 23 年 10 月 22 日

活動計画

備考欄

T-ACT オーガナイザー

高橋 弘
有野 真由美
野村 武男

T-ACT パートナー

活動報告

活動成果

【活動内容】

10 月 3 日 ミーティング

10 月 11 日 ミーティング

10 月 15 日 コース試走

10 月 16 日 コース試走

10 月 19 日 最終打ち合わせ

10 月 20 日 実施日が雨天の予報のため中止・延期を決定、各方面に連絡。

・ 10 月 22 日開催当日、連絡が届かない場合を想定して、集合場所のつくば市役所へ行き、対応した。幸い、誰も現れなかった。

・ 得られた成果：ボランティアの熱意を感じた。次の開催に向けて再度結集したい。市役所・警察・

編集後記

T-ACT は来年度以降、大学の事業として継続されることが決定しています。この T-ACT の多くの活動をご覧になって、皆さんは何を感じ、思うのでしょうか。多くの活動から、学生ならではの想像力、行動力を見ることができます。これに加えて、こうした活動に参加した学生たちと関わってきた私たちスタッフだからこそ、見えてくるものがあります。それは、学生の成長です。何より素晴らしいことは、学生は自分たちの手で成長していったことでしょう。私たちスタッフは、学生が困った時に相談にのることはできますが、各活動の主人公は彼ら自身です。活動には楽しみや喜びばかりでなく、多くの困難、苦悩に遭遇します。彼らはそれらを仲間たちと協力して自分たちで解決していくわけです。私たちは、学生が活躍するきっかけを提供したに過ぎません。学生は自分の活躍する場を見つけた途端、こんなにも輝き出すのかと驚くほどです。

これら活動は、学生たちの「やってみたい！」がスタートです。そのため、彼らは自分たちのために活動をスタートします。ところが、次第に自分たちが所属する大学へ貢献できないかと考えだす様子や、「筑波大学の学生である」という意識がより高まる様子が見て取れました。もちろん、T-ACT に参加したすべての学生がそうであるわけではありません。ただし、彼らの大学を思う気持ちは直接的な大学への貢献活動であったり、また筑波大学をよりよくする目的とした活動も徐々に増えて来ているのは間違いないでしょう。大学が学生の活動を支援すると、学生活動が活発になり、学生生活も豊かになっていきます。学生が豊かになると、大学まで豊かになり始める循環を、私たちスタッフは学生の姿を見て感じてきました。したがって、私たち教職員が学生の支援のために努力を惜しまない手はありません。大学が豊かになる原動力は、学生にあるといっても過言ではないでしょう。

T-ACT 専任教員

樫村 正美

私の勝手なイメージは、大学生＝サークル、バイト、そしてまあ授業…という感じで、わざわざ T-ACT のようなものを作らなくても自分たちで充実したキャンパスライフを送るものと思っていました。しかし、毎日 T-ACT フォーラムで座っていると「やりたいことがあるんですけど…」「ポスターの印刷させてください」「暇なんで来ました！」などなど色々な理由でわんさか来るのです。なんだかここはある意味国立大学の堅苦しさを忘れさせられるような場所で、私はこれからもそうあって欲しいと願います。これからもたくさんの筑波大生が笑顔になれる場所でありますように！！

T-ACT 3 代目事務補佐員

半田絵里子

つくばアクションプロジェクト活動報告書

平成 24 年 3 月発行

筑波大学 T-ACT フォーラム
〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
TEL 029 (853) 2222

T-ACT

つくばアクションプロジェクト

2012 APRIL

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

